令和4年12月定例会

浪江町議会会議録

令和4年12月6日 開会

令和4年12月13日 閉会

浪江町議会

令和4年浪江町議会12月定例会会議録目次

招集告示	1
応招・不応招議員	2

第 1 号 (12月6日)

議事日程	3
出席議員	4
欠席議員	4
地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	4
職務のため出席した者の職氏名	4
開会の宣告	6
開議の宣告	6
議事日程の報告	6
会議録署名議員の指名	6
会期の決定	6
諸般の報告	7
行政報告	7
一般質問	14
高野 武君	15
山崎博文君	33
小澤英之君	47
松田孝司君	56
佐々木茂君	68
散会の宣告	79

第 2 号 (12月7日)

議事日程	81
出席議員	82
欠席議員	82
地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	82
職務のため出席した者の職氏名	82
開議の宣告	84
議事日程の報告	84
議案第71号から議案第85号の一括上程、説明	84
延会について	103
延会の宣告	104

第 3 号 (12月13日)

議事日程	105
出席議員	107
欠席議員	107
地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	107
職務のため出席した者の職氏名	107
開議の宣告	109
議事日程の報告	109
議案第71号の質疑、討論、採決	109
議案第72号の質疑、討論、採決	109
議案第73号の質疑、討論、採決	110
議案第74号の質疑、討論、採決	110
議案第75号の質疑、討論、採決	111
議案第76号の質疑、討論、採決	113
議案第77号の質疑、討論、採決	114
議案第78号の質疑、討論、採決	114
議案第79号の質疑、討論、採決	115
議案第80号の質疑、討論、採決	115
議案第81号の質疑、討論、採決	116
議案第82号の質疑、討論、採決	116
議案第83号の質疑、討論、採決	117
議案第84号の質疑、討論、採決	117
議案第85号の質疑、討論、採決	118
同意第6号の上程、質疑、採決	118
同意第7号の上程、質疑、採決	119
同意第8号の上程、質疑、採決	120
発委第2号の上程、質疑、討論、採決	121
発委第3号の上程、質疑、討論、採決	122
委員会の閉会中の継続審査又は調査の申し出について	122
副町長挨拶	123
閉会の宣告	124

浪江町告示第206号

地方自治法（昭和22年法律第67号）第101条第1項の規定により、令和4年浪江町議会定例会を、次のとおり招集する。

令和4年11月4日

浪江町長 吉田栄光

1 日 時 令和4年12月6日（火） 午前9時

2 場 所 浪江町議会議事堂

○応招・不応招議員

応招議員（15名）

1番	武藤晴男君	2番	紺野豊君
3番	吉田邦弘君	4番	平本佳司君
5番	小澤英之君	6番	半谷正夫君
7番	紺野則夫君	8番	佐々木茂君
9番	山本幸一郎君	10番	高野武君
11番	渡邊泰彦君	12番	松田孝司君
13番	佐々木勇治君	14番	山崎博文君
15番	紺野榮重君		

不応招議員（なし）

1 2 月 定 例 町 議 会

(第 1 号)

令和4年浪江町議会12月定例会

議事日程(第1号)

令和4年12月6日(火曜日)午前9時開議

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期の決定
- 日程第 3 諸般の報告
- 日程第 4 行政報告
- 日程第 5 一般質問

出席議員（15名）

1番	武藤晴男君	2番	紺野豊君
3番	吉田邦弘君	4番	平本佳司君
5番	小澤英之君	6番	半谷正夫君
7番	紺野則夫君	8番	佐々木茂君
9番	山本幸一郎君	10番	高野武君
11番	渡邊泰彦君	12番	松田孝司君
13番	佐々木勇治君	14番	山崎博文君
15番	紺野榮重君		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町	長	副	町	長
	吉田栄光君		佐藤良樹君	
副	町	教	育	長
	成井祥君		笠井淳一君	
総務課長兼 津島支所長兼 選挙管理委員会書記長	横山秀樹君	企画財政課長	吉田厚志君	
産業振興課長	清水中君	農林水産課長兼 農業委員会事務局長	金山信一君	
住民課長	柴野一志君	住宅水道課長	木村順一君	
建設課長	戸浪義勝君	教育委員会事務局 教育次長兼 浪江町公民館長兼 浪江町図書館長	蒲原文崇君	
介護福祉課長	松本幸夫君	健康保険課長兼 浪江診療所事務長兼 仮設津島診療所事務長	西健一君	
会計管理者兼 出納室長	中野隆幸君			

職務のため出席した者の職氏名

事務局長 久君
掃部関 記
藤田 知宏君

次長 兼 係 長
中 野 夕華子君

○議長（平本佳司君） おはようございます。

令和4年浪江町議会12月定例会に先立ち、東日本大震災によりお亡くなりになりました方々に対し、哀悼の意を込め、黙禱をささげたいと思います。

ご起立をお願いします。

[黙禱]

○議長（平本佳司君） ありがとうございます。ご着席ください。

新型コロナウイルス感染防止の観点から、議場の出入口の開放等の対策を実施しておりますので、ご理解をお願いします。

議会だよりに掲載するため、事務局で会議中の様子を写真撮影しますので、ご了承ください。

また、報道機関から撮影の申出があります。これを許可したいと思いますので、ご了承ください。

傍聴される方に申し上げます。

携帯電話をお持ちの方は、電源を切るか、マナーモードにするようお願いいたします。

◎開会の宣告

○議長（平本佳司君） ただいまの出席議員数は15人であります。

定足数に達しておりますので、令和4年浪江町議会12月定例会を開会します。

(午前 9時00分)

◎開議の宣告

○議長（平本佳司君） 直ちに本日の会議を開きます。

◎議事日程の報告

○議長（平本佳司君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

◎会議録署名議員の指名

○議長（平本佳司君） 日程第1、議事録署名議員の指名を行います。

会議規則第127条の規定により、会議録署名議員に、1番、武藤晴男君、2番、紺野豊君、3番、吉田邦弘君を指名します。

◎会期の決定

○議長（平本佳司君） 日程第2、会期の決定を議題にします。

お諮りします。今期定例会の会期は、タブレット端末の格納のと

おり、本日から13日までの8日間にしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 異議なしと認めます。

よって、会期は本日から13日までの8日間とします。

会期中の会議についてお諮りします。6日、7日及び13日を本会議とし、8日から12日までは委員会等のため休会としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 異議なしと認めます。

よって、会期中の会議はこのとおり決定いたしました。

◎諸般の報告

○議長（平本佳司君） 日程第3、諸般の報告を行います。

議長としての報告事項は、タブレット端末に格納したとおりでございますので、ご了承ください。

◎行政報告

○議長（平本佳司君） 日程第4、行政報告を行います。

町長から行政報告の申出がありましたので、これを許可します。
町長。

〔町長 吉田栄光君登壇〕

○町長（吉田栄光君） おはようございます。

本日ここに令和4年浪江町議会12月定例会を招集しましたところ、議員各位におかれましては、ご多用の折にもかかわらず、ご参集を賜り、誠にありがとうございます。

東日本大震災及び原子力災害発生から11年8か月、一部地域の避難指示解除から5年8か月が経過しました。改めまして、東日本大震災によりお亡くなりになられました方々、過酷な避難生活の中で命を落とされた方々に対し、ご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族に対し、深く哀悼の意を表します。

行政報告に先立ちまして、帰還困難区域に関するトピックスについて、ご報告させていただきます。

まず、特定復興再生拠点区域につきましては、11月21日、浪江町除染検証委員会により区域内の除染状況や除染後の線量率等について町に対して報告書の提出がありました。委員会では、令和2年度からは特定復興再生拠点に焦点を絞り、除染結果の確認及び現地視察、準備宿泊をされている住民の聞き取り調査など、避難指示解除

に向けた検証を実施しました。報告書では、拠点内の約97%で除染が完了し、環境省が実施した9,162地点での除染後の測定結果において「避難指示解除の目安となる年間20ミリシーベルトを十分に下回ることが確認された」と評価するとともに、今後の復興に向けた継続的な対策について提言をいただきました。この提言を基に国・県、関係機関等との協議を行い、町民の皆様のご意見を伺いながら、令和5年3月の特定復興再生拠点区域の避難指示解除に向け、取組を進めてまいります。

続きまして、特定復興再生拠点区域外につきましては、国と共同で行政区別の説明会を実施し、11月に意向確認書を送付いたしました。令和5年1月15日を締切りとしており、年末年始にご親族でご相談をいただくなど、帰還についてのご検討をお願いしております。帰還を希望される方が安全・安心に生活できるよう、除染をはじめとした生活環境の整備につきましては、国と協議を進め、避難指示解除に向け取り組んでまいります。

それでは、9月定例会以降の行政執行の主なものについて、報告をいたします。

まず、浪江町功労者表彰式について、ご報告いたします。

文化の日11月3日、地域スポーツセンターにおいて、第50回浪江町功労者表彰式を執り行いました。式では、多年にわたり当町の発展などに尽力されたご功績をたたえ、特別功労表彰2名、功労表彰6名、復興功労表彰1名、善行表彰4名の方々に表彰状及び記念品を贈呈いたしました。

次に、第22回福島県知事選挙及び福島県議会議員補欠選挙について、ご報告いたします。

10月13日告示、10月30日投開票で任期満了に伴う第22回福島県知事選挙が執行されました。今回、当町では、町民の投票機会を確保するための取組といたしまして、初めて移動期日前投票所を開設したところであります。選挙の執行結果といたしましては、当町の当日有権者は1万3,981名、投票者数は4,889名、投票率は34.97%となり、前回の投票率37.28%に比べ、2.31ポイント下回りましたが、その取組には一定の効果があったものと考えており、今後も投票率向上に向けた対策を実施してまいりたいと考えております。

また、10月30日投開票で予定されていた福島県議会議員補欠選挙（双葉郡選挙区）については、告示日の10月20日に届けのあった候補者の総数が選挙すべき議員の数を超えなかったため、無投票となっております。

次に、福島国際研究教育機構の立地について、ご報告いたします。

福島国際研究教育機構、通称F-R-E-Iについては、福島イノベーション・コースト構想をさらに発展させる司令塔となるとともに、世界に冠たる創造的復興の中核拠点となることを目指して、復興庁を中心に政府一丸となって進めているものであり、本年9月16日に政府の復興推進会議において当町への立地が決定いたしました。

今後、施設整備が円滑に進み、F-R-E-Iによる波及効果をさらに大きなものとするため、国・県、関係市町村との連携を密にしながら、しっかりと取り組んでまいります。

次に、浪江町の復興加速に向けた協議会について、ご報告いたします。

11月24日に、太田原子力災害現地対策本部長、竹谷復興副大臣が来町され、3年ぶりに対面の下、第8回となる当協議会を開催いたしました。これまでのワーキンググループなどによる成果を確認し、町からは議長とともに、これからの課題として帰還困難区域の再生、特定復興再生拠点区域への継続的な支援、福島国際研究教育機構を含めた中心市街地の一体整備などを要望いたしました。引き続き当協議会の枠組みを生かし、復興加速に向けて取り組んでまいります。

次に、ゆいフェアについて、ご報告いたします。

赤磐市から、震災以降、継続して職員の派遣をいただいております。令和3年度には地域活性化包括連携協定を締結しております。両市町の取組を知っていただくため、令和4年10月22日、23日に、東京駅前でゆいフェアを開催いたしました。イベントには、竹谷復興副大臣にも出席をいただき、2日間で来場者が5,000人を超える中、両市町の特産品販売や観光案内、災害派遣職員によるトークセッション等を実施しました。引き続き両市町相互の地域活性化に取り組んでまいります。

次に、総合健康診査についてご報告いたします。

8月29日から10月22日にかけて、19歳以上の方を対象に総合健診を実施いたしました。多くの方に健診の機会を得られるよう、県内各地10か所において延べ17回実施し、3,095名の方が受診されました。感染症対策のため、事前に意向調査を行い、会場、日時を割り振ることで密を避け、待ち時間の短縮を図りました。

また、総合健診と同日、同会場において、希望した157名の方を対象におくすり個別相談会を実施しました。現役の薬剤師がリモートで服薬やサプリメント等の相談に応じたところでもあります。

なお、県外に避難されている方々につきましては、各都道府県の医療機関で受診できる施設検診の案内を送付しております。

次年度も、より多くの方々に受診をいただけるよう、工夫を凝ら

し、町民の皆様の健康管理に努めてまいります。

次に、住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金等について、ご報告いたします。

長期化する新型コロナウイルス感性症に伴う経済対策として、令和3年度及び令和4年度の住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金について、1,343世帯に支給いたしました。

また、11月からは、電力・ガス・食料品等の価格高騰による負担増を踏まえ、物価高騰対応生活困窮世帯緊急補助金及び電力・ガス・食料品等価格高騰支援給付金の申請受付を開始しており、対象世帯へ随時支給をしております。

次に、農業に係る大学等の復興知を活用した人材育成基盤構築事業の取組について、ご報告いたします。

10月1日から2日にかけて、営農再開や地域再生の支援協定を締結している東京農業大学の学生が、町内で農作業実習及び稲刈りを行いました。

初日は、地元農家の指導の下、苅宿地区で稲刈りと粃摺り作業、藤橋地区ではニンニクの定植作業を行いました。2日目は、南棚塩地区の株式会社福島舞台ファームの圃場で、東京農業大学の学生に加え、アイリスオーヤマ株式会社の大山社長と社員が参加し、稲刈りを実施いたしました。なお、アイリスオーヤマ株式会社は、「東北農業の未来をつなぐ、創るプロジェクト」と題して、浪江町を含む被災地における農業の復興を目指し、事業展開をしております。当日は、秋晴れの空の下、5月に手植えで田植えをした苗が猛暑を乗り越えて黄金色に美しく実っており、農業の再生を実感できる稲刈り作業となりました。

また、別の班の学生は北棚塩地区において早朝から生食用のイチジク収穫及びパック詰め作業、さらには道の駅なみえに場所を移し、大学における加工実習等の経験を生かし、浪江産イチジクの加工品の試作に挑戦し、6次産業化を目指す取組を行いました。引き続き大学と連携し、地域農業の活性化につながる活動を進めてまいります。

次に、新規就農者確保の取組について、ご報告いたします。

10月30日、福島県の主催により、いわき市で開催されました県内最大級の就農相談会、ふくしま農業人フェアに参加しました。

当日は就農に興味のある方々に対し、当町の豊かな自然や温暖な気候などの魅力や各種支援策を説明しながら、当地で農業を開始する優位性をPRしました。引き続き新規就農者の確保に向け、積極的な情報発信に努めてまいります。

次に、宇宙タマネギに係る浪江町代表団の淡路島訪問について、ご報告いたします。

11月10日から12日、相双地方のタマネギ振興に資することを目的とし、タマネギの一大産地である南あわじ市へ、浪江町タマネギ生産組合から松本組合長ほか1名、当町職員2名が表敬訪問を行いました。南あわじ市の訪問については、東日本大震災からの復興支援に関し、世界に感謝する目的で2021年に実施された一般財団法人ワンアースによる事業、東北復興宇宙ミッション2021において、浪江町のタマネギ浜の輝の種と、宇宙ミッションの初期から関わっていた南あわじ市の原種に近いタマネギ淡路中甲高黄の種が、宇宙ステーションに滞在するミッションに参加したことが縁で実現したものです。今後、タマネギの一大産地であり、ブランド力のある南あわじ市との交流、連携を進めていき、タマネギ生産者同士の交流から栽培技術を高め、品質がさらに向上することで浪江町産タマネギの知名度が高まっていくものと期待をしております。

次に、森林環境学習について、ご報告いたします。

9月21日、森林環境学習をなみえ創成小学校、中学校の児童、生徒を対象に、震災遺構請戸小学校において開催いたしました。NPO法人福島県もりの案内人の会、地元林業事業者、磐城森林管理署の方々を講師としてお招きし、森林の役割について学んだ後、震災遺構南側の保安林にクロマツの苗約100本を1本1本丁寧に植樹し、併せて下草刈り体験を行いました。参加した子供たちは集中して作業に取り組んでおりました。引き続き子供たちへの森林環境学習を通し、森林を守り育て、次世代へ引き継いでいくことの大切さを伝えてまいります。

次に、観光PRイベント事業について、ご報告いたします。

新型コロナウイルスの影響により中止となっていました全国各地の観光PRイベントが軒並み再開され、東京有楽町をはじめ、上野、新宿、六本木、木更津の首都圏や、ご支援をいただいている赤磐市、成田市に出向き、町の復興の取組を紹介するとともに、事業者の協力を得ながら、製品の販売とPRを行ないました。引き続き町の情報発信、PRに積極的に取り組んでまいります。

次に、原油価格・物価高騰緊急支援事業について、報告いたします。

大幅な原油価格、物価高騰が事業者の負担となっていることを受けて、町内で事業活動を行う事業者を支援するため、浪江町原油価格・物価高騰緊急支援金の支給を10月より開始し、11月24日現在で58事業者から申請をいただき、294万円を支給いたしました。

次に、町内産業団地への企業立地状況等について、報告をいたします。

南産業団地において、町内企業となる八島運送株式会社の立地が決定し、9月26日に物流施設立地に関する基本協定を締結するとともに、10月12日には安全祈願祭が行われました。操業開始は令和5年7月を予定しております。また、10月26日には會澤高圧コンクリート株式会社の上棟式が開催されました。同社が整備を進めているRDMセンターや開発中のエンジンドローン、コンクリートの3Dプリンターなどが披露され、操業に向けて順調に進捗していることを確認いたしました。

北産業団地では、10月4日に、日揮株式会社及びかもめミライ水産株式会社と陸上養殖イノベーションセンター立地に関する基本協定書を締結いたしました。本事業では、生食可能なサバ養殖をするもので、完全閉鎖循環式では東日本最大規模となります。令和6年の生産開始を予定しており、地元水産業の活性化や町の新たな特産品となることを期待しているところであります。

また、11月30日には整備を進めていました株式会社バイオマスレジン福島の浪江工場が竣工し、同社が製造するお米を使ったバイオマスプラスチックの製造が開始されました。

そのほか、12月3日には福島県が主催する企業立地セミナーが帝国ホテル東京で開催され、私自身、会場において浪江町への企業立地PRを行ってまいりました。今後とも引き続き企業誘致活動の推進に努めてまいります。

次に、脱炭素社会の実現に向けた取組について、ご報告いたします。

エネルギーや脱炭素に関する普及啓発のために、様々なイベント等の機会を捉えて町の取組の発信を行いました。

9月に開催された東北五大焼そばサミットinなみえでは、浪江町商工会青年部やトヨタ自動車と連携し、FC電源e-palletからの電気供給による水素電源ライブを実施いたしました。

そのほか、3年ぶりの開催となった復興なみえ町十日市祭をはじめ、郡山市で開催されたREAFふくしまやJヴィレッジで開催されたゼロカーボンフェス、大阪市で開催されたeco縁日など様々なイベントに参加をし、町内外で広く町の水素の取組についてPR活動を展開いたしました。

さらには、水素パートナーシップ宣言を共同署名いたしましたランカスター市と浪江町、そして新たに米国ハワイ郡を加えた3者で応募しておりました米国エネルギー省のメンター・メンティープロ

グラムについて、11月17日にエジプトで開催されたC O P 27において採択の発表がなされました。ランカスター市及び浪江町がメンターとして、メンティーであるハワイ郡の水素の取組に対し、これまでのノウハウや知見を生かし、指導する関係で、それぞれの取組をより一層進めてまいります。引き続き様々な機会を捉え、国内外に浪江町の取組を広く発信しながら、水素社会実現に向けた共感の輪を広げてまいります。

また、株式会社伊達重機が整備を進めておりました浪江水素ステーションが12月6日に開所となりました。相双地域で初となる商用の定置式水素ステーションとなり、地域内での水素利活用拡大に大いに寄与するものと考えております。町としても、より一層の水素利活用拡大を目指し、水素インフラ整備や各種実証への支援等、引き続き実施してまいります。

次に、教育行政関連について、ご報告いたします。

9月25日に、閉校となった町立小中学校9校の閉校式が執り行われました。各校長から教育長へ校旗の返納を行い、各校の校歌の演奏を行いました。また、9月23日から25日には閉校のつどいを開催し、各校のブースを設け、学校の記録や写真、文集などを前に、訪れた方々は当時を思い出しながら交流しておりました。

10月14日には、なみえ創成小、中学校と、にじいろこども園の合同運動会が開催され、子供達は広々としたグラウンドで、元気いっぱい競技に取り組んでおりました。

また、10月28日には、なみえ創成中学校の文化祭海鷗祭が開催されました。生徒たちは、来賓や在校生の前で日頃の学習成果や部活動の取組を堂々と発表しておりました。

次に、浪江町立学校校舎等検討委員会からの答申について、ご報告いたします。

委員会に諮問しておりました津島地区の保育所、小、中学校校舎の今後の在り方等について、5回にわたり検討をいただき、9月30日に答申をいただきました。今後、町としては、答申を踏まえ、津島地区の歴史保存の観点も含め、検討を進めてまいります。

次に、震災遺構浪江町立請戸小学校について、ご報告いたします。

昨年10月24日に開館した震災遺構請戸小学校が、10月12日に来館者5万人を達成いたしました。開館以来、県内外から多くの方にお越しをいただいております。今後も関係施設と連携しながら、震災の記憶を伝える施設として、目的を果たしてまいりたいと考えております。

次に、子育て支援について、ご報告いたします。

今年で12回目となるこどもの笑顔フォトコンテストの表彰式を10月24日にふれあい交流センターで開催いたしました。今年は54件の応募があり、最優秀賞を含む15作品を選定し、賞状と記念品の贈呈を行いました。

次に、生涯学習関連について、ご報告いたします。

縣市町村対抗大会として、9月23日に軟式野球大会、10月8日にはソフトボール大会がそれぞれ開催され、軟式野球は2回戦で、ソフトボールは1回戦で、善戦及ばず惜敗しました。

11月20日には第34回ふくしま駅伝競走大会が開催され、昨年より順位を上げ、総合で24位、町の部では8位と、町の部での入賞を果たしました。避難先から浪江町代表チームへ参加された選手の方々に厚く御礼を申し上げます。

また、小中学生を対象とした週末こどもチャレンジ教室では、いこいの村での宿泊体験のほか、サツマイモ収穫体験を実施しました。大人を対象とした地域ふれあいチャレンジ教室では、音楽祭や鹿狼山ハイキング、そば打ち教室を開催し、多くの町民の皆様が参加し、楽しんでいただきました。今後も皆様に親しまれる社会教育学習の充実を図ってまいります。

以上、9月定例会以降、現在までの取組について、報告させていただきました。

なお、今期定例会にご提案申し上げる案件は、条例の制定及び改正案件が4件、契約の締結案件4件、令和4年度補正予算案件7件であります。詳細につきましては提案の都度ご説明申し上げますので、よろしくご審議、ご承認いただきますようお願いを申し上げます。

以上をもちまして、私からの行政報告とさせていただきます。

○議長（平本佳司君） 以上で行政報告は終わりました。

◎一般質問

○議長（平本佳司君） 日程第5、一般質問を行います。

一括質問方式については、慣例により質問が30分、再質問が10分、再々質問が10分以内となります。

一問一答方式については、質問、答弁合わせて60分以内となります。質問は自席で行います。

通告された一般質問の中で同一内容と思われる事項が2人以上の議員から出されております。議事整理上、また円滑な議会運営を行うため、後順位者が前順位者の質問に対する執行部の答弁で了解したときは、その件について撤回するか、または不足分の答弁を求め

ることをご協力お願いします。

なお、一般質問は通告順に許可します。質問、答弁とも簡潔にお願いします。

◇ 高 野 武 君

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君の質問を許可します。

10番、高野武君。

○10番（高野 武君） おはようございます。10番、高野武であります。

議長の許可をいただきましたので、一般質問を行わせていただきます。

なお、方法としては、通告書の記載どおり、一問一答方式で順を追って行いたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

まず初めに、吉田新町長が就任してから2回目の定例会になりますが、本来であれば町長就任直後に伺うべきところ、私の個人の事情によりまして今回の質問になりましたことを先に申し上げますとともに、報道されている来春のアルプス処理水放出計画、これ今朝の新聞報道では夏頃にずれ込む予定だということでありましたが、いずれにせよ、間近に迫る中では、周回遅れの感もありますけれども、よろしくお願いをいたしたいと思います。

1番目に、東京電力福島第一原子力発電所事故由来のアルプス処理水の海洋放出計画に関してであります。先月2日に議会としての視察研修で第一原子力発電所に行き、構内の処理水貯蔵施設1号機から4号機建屋の見える場所からの説明と、処理水放出トンネルと縦抗等の案内を受けて、最後に処理水と通常海水でのヒラメ、アワビの畜養試験施設を見学いたしました。通常、海水と処理水も合せてですけれども、こんなこと我々漁業者が何年も前から東京電力との説明会、話し合い等で安全実証のためにやってくれと要求してきたことでもありますので今さらながらの感がぬぐえませんが、それでも一歩は前進したのかなとは思っています。

その後、事務所に戻り、質疑の時間を設けていただきましたので、私は請戸港で漁船漁業を営んでいることを先に申し上げましてから何点か質問をいたしました。その内容は後から申し上げますが、まず先に処理水放出に関して、吉田町長に伺いたいと思います。

このことは吉田前町長の退任前にも伺いましたが、本年8月に就任されました新町長に、改めましてこの件について、県議時代からの今日までの思いを伺いたいと思います。

私の所属する相馬双葉漁協請戸地区の港は、ご存じのとおり、福島第一原子力発電所から距離的にも一番近くに位置しております、

また最も風評被害の受けやすい業種でもあります。このことを念頭に置いていただきまして、処理水海洋放出に関する見解も併せて伺いたいと思います。お願いします。

○議長（平本佳司君） 町長。

○町長（吉田栄光君） 高野武議員のご質問にお答えいたします。

町として、処理水の海洋放出に関しましては、政府の基本方針が示された時点で、福島第一原発から最も近い漁港を抱える本町にとっては、町が掲げる「持続可能なまちづくり」の阻害要因になりかねない旨を表明しております。

また、前町長は、内閣府主催の廃炉・汚染水・処理水対策福島評議会において、国の責任の下、風評払拭に向け、十分な対策と風評被害が完全になくなるまで万全の支援を行うべきことを町の意見として伝えております。

私としましても、同様に捉えており、これまでどおり一貫して意思を示してまいります。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 町長も県会議員時代からこの問題では随分頭の痛い思いをしたと思いますけれども、国の方針を町として答えられない、従うしかないというのは当然かなとは思いますが、しかし、地元住民として認識を共有していただきたい、この思いからあえて申し上げますが、この処理水に含まれる核種の中には、原発の通常運転時の排水には含まれておらず、放出時には、幾ら希釈するとはいっても、アルプス等でも取り除けない12核種が残っております。お手元に配付した資料にあるかと思いますが、ご覧いただきたいなと思います。資料配付、大丈夫ですか。分かりました。

これは、自民党総合エネルギー戦略調査会、会長代理の衆議院議員山本拓先生が勉強会で使用した資料と思えますけれども、東京電力の2020年12月24日発表資料を基に作成とあります。この中には、気の遠くなるような半減期を持つ核種もあります。これらは通常運転の原発排水には含まれてはいないことから、長い間取り続けた場合、食物連鎖の頂点に立つ人類、人体に影響がないとは、どなたも断言できるものではありません。私が思うには、幾ら半減期が短いからとはいっても、海洋放出を続けている限り、常に海中に存在するという事は当たり前のことだと思いますし、放出が終わってからの半減期を考えるのが妥当かなとは思いますが。放出が始まってからどのぐらい続くのかも分かりませんが、この件では、何のデータも存在しない中で、何を根拠にして丁寧な説明を尽くすのか、また尽くしたと言われても先の見えない不安、これこそが風評を生

む最大の要因でもあると私は考えます。

これらの問題点を、東京電力との質疑の中で申し上げましたところ、検査項目の中に入れ、公表したいと回答は得ました。その後ですけれども、11月15日の新聞報道には、東京電力は測定する核種を30核種にするとの発表もありました。

前置きが長くなりましたが、そこで、この海洋放出が身近に迫る中、町として今後の対応と対策、さらには、前町長時代からとも合わせまして要望活動も展開されることとは思いますが、どのような項目、内容を考えているのかを具体的に伺いたいと思います。

○議長（平本佳司君） 町長。

○町長（吉田栄光君） 高野武議員のご質問にお答えいたします。

浪江町では、福島第一原子力発電所から一番近い請戸漁港がある町として、漁業者が将来にわたり生業として事業が継続していく環境をつくっていくことが一番重要だと考えております。そのためには、安全について万全が期されるとともに、漁業者をはじめとする関係者への理解醸成、風評抑止対策が確実に講じられるよう、今後も関係機関との連携を図りながら、様々な機会を捉え、国及び東京電力に対し求めてまいります。

加えて、高野議員としては漁業者の1人と思います。ただいまの質問等も重いものと受け止めて、しっかりと求めていく考えであります。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） ただいまの答弁で大分理解もできました。よろしくお願いをしたいと思います。

しかし、これまでもマスコミ等に追及されてから、後から認めるような出来事が何回も繰り返されております。お互いの信頼関係が崩れている中、当該企業に任せておいても大丈夫なのかななどの思いは強くあります。先ほどにも申し上げたとおり、町としても国の方針に伝えることができないことは十分にも理解もできますのでこの辺にしておきますが、以上のことから処理水放出計画には断固反対の立場を表明しつつ、子々孫々のためにも、今後とも注意深く監視をしていきたいと思っております。

以上、申し上げました件で何か追加の答弁があれば伺います。なければ結構です。

次に移ります。

請戸水産加工団地に進出した食品加工会社の件でありますけれども、私も仕事に通いながら常に目に入りますので、確認のために疑問点を伺いたいと思っております。

現在では工場自体は完成したように見受けられますが、いまだに稼働しているようには見えません。

そこで、これらは国の補助事業としますので、認可に当たり、どのような事業を行い、地元雇用を何人ぐらい見込んでいたのかを伺いたいと思います。

あわせて、地元雇用の件で近隣の職安や求人案内、チラシ等、広告等は確認しているのか、それについても伺いたいと思います。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えします。

当該事業者は、相馬市に本社を置き、請戸漁港で水揚げされた水産物を安定的に供給させることを目的に進出したものであり、タコ、貝類、ノリの加工が主な事業内容となっております。

進出企業選定に際し、公募を実施し、審査会を設けて事業計画書等の内容を確認したところであり、雇用計画については12名と記載しておりますが、地元雇用については明記されておられません。

求人情報については、サンシャイン浪江に設置されている地域職業相談室で確認できるほか、浪江町ホームページの掲載や広報への折り込みを実施しており、当該事業者についても継続して求人募集していることを確認しております。

なお、本件工場について、先週事業者からの報告により、令和4年12月1日に一部ラインの稼働を開始したことを確認したところであり、一部稼働における人員について、5名が確保されており、うち2名が浪江町民であることの報告を受けております。

以上です。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 12月1日に加工を一部開始ということですが、地元業者からも、これは水産関係の加工会社ということで、地元で水揚げされる魚介類の加工場としてかなりの期待もあります。しかし、説明の限りではあまり期待の持てる内容ではありませんでしたので、正直がっかりしました。なぜならば、冬場にしか生産されないノリは県内では松川浦のみです。タコ、貝類は籠での漁法になりますけれども、近年の海水温の上昇にもよる餌となるサンマの不足、値段の高騰、さらには予測不能だった燃料代の高騰もあります。しかし、餌不足は数年来の問題です。これは震災前からの問題ですので。原材料不足も考えられることから、事業の見通しが甘かったのかと言わざるを得ませんが、この件についての見解を伺います。

また、地元雇用の件は了解をいたしました。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えします。

審査会を実施した令和元年度においては、現在の漁業を取り巻く原材料、燃料高、高騰等の環境の大きな変化を予想することは困難で難しかったと考えております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 了解をいたしました。

この工場は、先ほど聞いたとおり、12月1日に完成したということでもありますけれども、完成してから稼働するまで、この時間的な制限というか、規定はあるのか伺います。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えします。

工場については、令和3年2月28日に竣工し、同年3月5日付で町へ実績報告書が提出されております。東日本大震災復興交付金を財源として町から補助金として支出し、整備されております。補助金の要綱上、完成してから稼働までの時間的制約の明記はされておりませんが、遅滞なく稼働することは当然のことと考えております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 事業関係ですけれども、要するに事業費、総事業費として幾らぐらいかかったのか、お伺いします。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） 事業費のご質問にお答えいたします。

総事業費は4億869万8,000円となっており、うち3億5,758万7,000円が東日本大震災復興交付金を財源として町から補助金として支出しております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 幾ら稼働までの時間的な制限がないと、先ほどの答弁ですけれども、交付金を投入している以上、遅滞なく稼働することは当然のこととの答弁ですけれども、町が目安として、遅滞なく稼働とはどのぐらいの期間を想定しているのか。それでも稼働しない場合、ペナルティー等は考えているのか。ということは、稼働しているというよりも、12月1日ですか、竣工が昨年度の2月28日、約丸2年近くにもなります。その間に全然稼働しているふうには見えていなかったという点から伺いたいと思います。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えいたします。

遅滞なく稼働するという期間の考え方ですが、別の進出企業については竣工から工場稼働まで約2か月となっておりますので、遅くとも半年以内には稼働していただくことが一つの目安かと考えております。

町といたしましても、事業者への強い働きかけや官民合同チームからの支援などを通じて、早期の工場の本格稼働につなげていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 当然一生懸命といいますか、努力をしていただくということに変わりはありませんけれども、私を見た限りでは、先ほど言いましたとおり、人や車、物の出入りを見たこともありませんし、また出入口のゲートが開いているのを見たのはつい最近なんです。ここ何日ぐらい、今月の4日ぐらいですか。それまでは、正直丸2年近くゲートはもう閉鎖状態であったということですので、稼働しているということであれば、水産加工会社でもあります。当然水道水は大量に使用するわけですから、参考までに水道水の使用量、これはどのぐらいあったのか。またいつ頃から使い始めたのか、その辺も併せてお願いします。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） 水道水の使用量について、お答えいたします。

一部ラインの稼働開始が12月に入ってからでございますので、稼働後の水道の使用量は把握してございませんが、これまで行政のヒアリングの中で運転調整というところでは月当たり6立米ほど使用していたと聞いております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） ただいまの答弁ですけれども、6立米ということは、我々一般家庭で使用する量とほとんど変わりはないという感覚ですけれども、今の答弁のとおり、稼働が12月1日ということであれば、その間、当然私も毎日通っておりますから見てはいるはずなんですけれども、原材料を運び入れたというような感覚、ほとんどないんです。ということは、乗用車は1台ぐらい、今月に入ってからですけれども、止まっているのは見たことあります。当然、営業ですので、トラック関係がなければ、これはちょっと何をしているのかなど。まだ機械のメンテナンスをしているぐらいしか私とし

ては感覚がありませんけれども、ただ、私の一般質問の通告書を見てから、急ごしらえで稼働実績をつくったというような、そう言われても仕方のないような不自然な動きだと思えますけれども、これは、稼働したと言っている以上、これ以上言っても仕方ありませんけれども、これは今後とも注意深く、本格稼働まで見守りたいと思えます。

それで、一般の工場、工場は一応完成して稼働しているということですが、今まで稼働してこなかった原因は人手不足なのか、それとも原材料不足で動かせなかったのか、それともまた何か別な問題があったのか、その辺を伺いたいと思えます。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） 稼働できなかった理由について、お答えいたします。

工場が竣工したにもかかわらず、11月まで稼働しなかったことについて、毎月担当者に確認していたところですが、大きな理由としては、稼働に必要な人手の確保が進んでいないことだということを知っております。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 稼働できなかったということは人手不足ということでもありますけれども、そんなこと、相馬市に本社があるんです。本社から人員を派遣すればいいだけの話であって、先ほど申し上げた原材料不足、この辺の経緯はないのか。仮に、南相馬市から原料を運ぶにしても、現在のところは加工できずに魚介類が余っているというような話を耳にしたことはありませんけれども、また請戸港の水揚げは、ご存じとおり、高単価な魚介類をメインにしておりますので、確保は難しいのではないかなど、このことを考えれば、事業計画の見通しの甘さ、この辺を指摘せざるを得ませんけれども、その辺は考慮したのか、伺いたいと思えます。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えいたします。

一部稼働につきましては、まず原材料の確保されているノリの生産ラインからと聞いております。ノリの加工については、今のところ問題ないとのこと。そのほかの原料については、請戸漁港から水揚げされる魚介類は常磐ものとして市場から好評であり、高単価で取引されていることは承知しております。一方、最近の傾向として燃料等の値上がりが続いており、魚介類についても漁業環境の変化により仕入れ値が高騰しているとも伺っております。

当該事業者と意見交換した際には、高価格で仕入れ、加工品に価

格転換をしたとしても高品質の常磐ものであるならば比較的消費者の購買意欲は失われたいと見解を示しておりました。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 常磐ものというものは、ご存じのとおり、おっしゃったとおりですけれども、高単価なものが多いということで、加工が難しいかなと思いましたがけれども、それなりに、高いものは高いなりに売れるんだという解釈でございましたけれども、できればそうあってもらいたいなと思います。

これ、一般常識として、工場が完成してから約2年近く、来年の2月いっぱいぐらいまで、2年ぐらい動かなかったわけですけれども、この件に関して、国のほうからは何か、苦情というか、言われたことはありませんか。また、この件で今後の企業の誘致活動に影響は出ないのか心配になりますけれども、この点はどうか。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） お答えいたします。

国のほうにも、報告した際には心配をされて、早期の稼働を指示いただいていたところでございます。町といたしましても、ご指摘のとおり、本来復興に資するために整備された工場が操業していないという状況は早期に解決していく必要がある大きな問題と認識しております。事業者に対し、本格稼働に向け、一層の強い働きかけを行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） よろしくお願ひしたいと思ひます。

そこで、交付金、これを利用した事業は地方自治体が事業効果を検証して公表するように求められていると思ひますけれども、補助事業はこれに当てはまらないのか、お尋ねをいたします。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えします。

本件については、東日本大震災復興交付金等を活用した事業であるため、当然に事業効果を検証、公表する必要があります。本事業については、復興交付金事業計画の実績に関する評価様式にて、令和3年11月に浪江町ホームページにて公表しております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） この問題は、国のほうとも情報共有を図って、また町のホームページでも公表しているということで了解をいたし

ましたが、早期の本格稼働に向けての指導をお願いしたいと思いません。

今さらになりますけれども、この件で別の水産会社の申請もあったように耳に挟みましたが、不認可の訳は何か。答弁できるならば、今後の参考のために伺いたいと思います。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えいたします。

今回答弁した水産会社のほか、もう1社の申請をいただきました。庁舎内に審査会を設け、申請書に基づき事業計画書等の審査を行ったところです。審査に当たっては、事業計画など、審査項目ごとに評価基準を設定し、総合点が高かった事業者を選定しております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 評価基準、これが低かった主な項目というのは何なのか伺いたいと思います。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えします。

今回の事業者に比べ評価が低かった主な項目としては、資金調達と返済計画及び売上高の実現可能性となっております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 先ほどの答弁の中で、要するに庁内に審査会を設けたとのことでありますけれども、その中にやはり専門家は入っていたのか。ということは、土木関係なら庁内でも十分と審査は可能かなと思いますけれども、加工団地などはやはり我々の思いでもマーケット調査とか生産現場、要するに原材料確保問題、その辺の声を聞く必要もあるのではないかなというふうに考えますので、その辺の見解をお伺いしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えいたします。

審査会には、副町長、担当課長のほか、外部より国立大学教授、中小企業診断士により構成されておりました。当時は、請戸漁港近海で捕れた魚介類を流通させることを主眼としており、地元漁業者を有識者として招き、意見聴取を行うことはございませんでした。今後の審査会の在り方については、いただいたご意見を踏まえ、慎重に検討してまいります。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 今後とも、やはり公平な審査をお願いしたいと思いをします。

次に移ります。

本年8月30日に、双葉駅を中心とした一部区域の避難指示が解除され、帰還住民も報道されており、うれしいニュースでもありました。その一環で、浪江町に児童、生徒の通園、通学の受入れ要請があったように聞いておりますが、事実関係を先に伺いたいと思いをします。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） ご質問にお答えいたします。

双葉町の避難指示解除に伴い、10月18日から双葉町へ移住された小学2年生の女の子、それから中学2年生の男の子ご兄弟2人を区域外就学としてなみえ創成小、中学校で受入れをしております。

また、新年度から小学1年生の女の子も同様に双葉町から通うことで手続を進めております。そのほかにも、まだ相談ベースになりますが、小学生のお子さんがあるご家族2世帯も双葉町へのご帰還を考えており、浪江町への就学について相談を受けていると双葉町教育委員会から聞いております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 双葉町からの入学の件は了解をいたしました。

そこで、内訳として、新年度の入園、入学、申込みの人数と学年等を教えていただければと思いをします。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） 双葉町からの就園希望、まずこども園でございますが、お一人就園希望と聞いております。また、小中学生になりますと、今既に入学しているお二人に加えて、新年度から、確実なご相談いただいているのが1名、そのほかご相談として2名の、計5名となっております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 質問づくしで申し訳ありませんけれども、新入生というのは創成小、中に入学、要するに浪江町内も含めてお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） 来年4月、今現在で把握しているところでは、小、中学校合わせて54名就学予定となっております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） いずれにしても、子供の数が多くなるのは大変うれしい限りだと思います。これからも、少しでも子供の数が増えてくれば、クラブ活動、スポーツと、いろんな面で楽しい学生生活を送れるものと、今から大いに期待をしております。

そこで、入学に当たり、双葉町の分ですけれども、制服や給食、スクールバスは双葉町の負担になるとは思いますけれども、財源問題もありますので、負担割合を分かれば確認のために伺いたいと思います。

あと、これ以外に何か双葉町からの就学に関して、問題点があればまた伺いたいと思います。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） ご質問にお答えします。

区域外就学で双葉町から通う児童、生徒の就学に関する費用の負担であります。まずスクールバスにつきましては、双葉町が準備した車両において通学をしております。また、給食費や制服の支給につきましては、双葉町において当該児の保護者へ就学支援を行うこととなっております。

双葉町からの児童、生徒の受入れの問題点につきましては、今のところございませんが、問題や課題が生じれば双葉町教育委員会としっかり協議をし、対応をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 質問のちょっと不足分になりますけれども、給食とか、制服は今伺いましたけれども、給食関係だとすれば、要するに、参考までになんですけれども、双葉町から給食、双葉町で負担するの、これは当然のことと思いますけれども、調理員、要するにパート関係なのか、その辺ちょっと分かりませんが、もしパート関係であれば、当然人数が増えれば増えた分だけ時間外労働といえますか、時間のオーバーもあるんじゃないかと、そう考えますので、一応パートであるのか正規の職員であるのか、その辺ちょっと併せて伺いまして、その辺の時間外の労働に関しての費用は、その辺に負担割合というんですか、その辺は分かればお願いしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） 浪江町の学校給食につきましては、委託で給食を作っているところで提供しているところでございます。こちらについて、先ほどもご説明しましたけれども、負担の考え方とし

ては、児童、生徒個人に係る経費、例えば制服、ジャージ、給食費など、支給する品につきましては双葉町のほうで負担をする。例えば、タブレットとか学校で必要なもの、貸与する品につきましては、学校を所管する浪江町で負担するということとしてしております。給食の調理に関しても、学校で必要なものでございますので、その調理に係る部分について、双葉町のほうに費用負担を求める考えは今のところ持ってございません。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 今の説明で分かりましたけれども、ただ、私が思ったのは調理器具関係なんですけれども、調理器具関係は浪江町でたしか議会で承認されて整備をしたという記憶もございますので、この辺の減価償却とか、また併せて消耗品関係、この辺はどうなっているのか、その辺もちょっとお願いします。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） こちらにつきましても、町の備品ということで対応させていただいており、特に負担を求めるところはございません。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 了解をいたしました。

そこで、異常気象と今日に言われて久しい中、連日の猛暑日というか真夏日、これに対して、子供たちの楽しみでもあるプール、水泳の授業関係はどうしていたのか、現状を伺いたいと思います。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） ご質問にお答えします。

現在のなみえ創成小、中学校の水泳授業につきましては、南相馬市にある南相馬市民屋内プール様のご厚意により、施設の休館日に水泳授業として活用させていただいております。

また、浪江にじいろこども園では、今年度システムプールの寄贈を受けましたので、園庭内において水遊びを実施しているところでございます。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） こども園のほうは了解をいたしました。

あと、南相馬市の件です。やはりこれは交通の関係、児童生徒が通う関係、やっぱり事故とかいろんな面もありますので、その辺を考えた場合、やはり私が思うにはプールのない学校というのは、これは全国的にかなり珍しいんじゃないのかなという思いもありま

す。

そこで、水泳の授業のカリキュラム、授業計画に入っているとは思いますが、やはりこの辺を考えればプールというのは必要不可欠ではないのかなと考えますが、浪江町の創成小、中学校にプールの建設計画はあるのかなのか、その辺を伺いたいと思います。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） ご質問にお答えします。

なみえ創成小、中学校創設時につきましては、児童生徒数が少ないことから、プール整備につきましては維持管理経費の観点も鑑み、新設ではなく近隣の施設をお借りしながら水泳授業を行い、状況を見ながらプールの整備を検討していくこととしておりました。

今後は、児童、生徒数も増えておりますので、移動の状況や施設を引き続き活用させていただくことの調整状況を勘案しながら、学校プール建設を計画的に検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 先ほどの答弁で、要するに児童、生徒数が少なかったということで、ちょっとこれからの検討課題でもあるというふうに伺いましたけれども、やはり人数がどんどん増えていると、先ほど伺ったところでは53名の生徒が来年は就学するということがありますけれども、やはりこの辺は、今おっしゃったとおり、検討していただけるというのであれば、やはり財源問題として利用できる交付金があるのか、その辺も併せて伺っておきたいと思っております。よろしくお願いします。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） 財源につきましては、文部科学省の交付金にて学校プールの整備事業がございますので、そういったものを検討しながら進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） よろしくお願いをしたいと思います。

私の思いは、やっぱりプールというのは夏休み中も解放できれば、放射線の関係から近隣の川や海岸では思うように子供たちが遊ぶことができません。やはりわざわざ遠くまで出かけなくてもよくなりますので、親御さんの負担も軽くなり、また子供たちの楽しみが一つ増えることは目に見えて明らかでもあります。ぜひとも建設の方向で進めていただきたいと思いますけれども、また近くには

住宅団地もあることですから、防火用水、この辺の役目も兼ねるのかなという考えもありますので、早急なる設置を求めたいと思います。

また、個人的な見解でありますけれども、これはあくまでも要望に近くなりますけれども、建設するのであれば、可能ならば、競技用プールなどを検討できないのか。これは、いろんな大会を開催し、将来的に有望な選手を育成できるような環境を整備できれば、特色のある学校運営もできますし、町の知名度のアップも期待できます。さらには、各種大会等を誘致できれば、観客の増加とともに経済への波及効果は計り知れないものがあるというふうに私は考えますので、建設に当たり、ぜひとも25メートル以上、競技用のプールの検討をお願いしたいと思います。

次に移ります。

本年10月4日、日揮とミライ水産の合弁会社と北産業団地への立地締結式が結ばれましたが、新聞報道や12月の広報にも記載がありましたので、通告書記載の(1)の地元雇用の人数と(2)の操業開始は割愛をいたしたいと思います。

その事業計画の中で、水道水を利用し、サバの陸上養殖を行い、将来的には規模の拡大及び魚種の多様化にも対応したいとのことでありますので、施設の概要として、何トン水槽を何基ぐらい設置し、これは固定式か可動式かちょっと分かりませんが、その辺も分かればお願いしたいと思います。あと、1日の使用水量、これは最初に入れば、あとは循環式ですので補水というぐらいだと思いますので、水槽の大きさが分かればこれは結構ですので、お願いいたします。

あと、サバは何尾ぐらい要するに飼育し、出荷までの期間や餌は何を与えるのか、出荷予定総数、分かればまとめて伺います。

○議長（平本佳司君） 産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） お答え申し上げます。

今回立地協定を締結いたしました陸上養殖事業につきましては、技術開発も目的の一つでありまして、研究開発も行いながらサバの生産、出荷を行うものでございます。

それを踏まえまして、本事業の施設概要について、現時点での計画によりますと、1基当たり30トン容量の固定式水槽を14基設置し、使用水量はおよそ9トンとなっております。また、水槽1基当たり1万4,000尾程度を飼育し、飼育期間は自然界と比べて3倍から4倍の速度で成長させ、6か月程度で出荷できるよう養殖技術の確立を目指すこととしております。餌は、主に魚粉などを混ぜた餌を

原料とした物を与える計画となっております。原料や配合などを工夫しながら、養殖に適した餌を順次開発していくものとなっております。出荷量につきましては、3年程度の研究開発期間を経て、年間60トン、20万尾を目指すことにしております。

最後に、雇用人数は5人を予定しておりますが、立地協定に基づき、地元雇用を優先していただくよう要請しているところでございます。

以上です。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 先ほどの答弁の中で、私ちょっと耳が悪かったのかも分かりませんが、確認なんですけれども、30トン級の水槽と言いましたか3トン水槽と言いましたか。その辺ちょっとお願いしたい。固定式で14基ということでしたので、30トン、3トンか30トン、その辺もう一度確認したいんでお願いします。

○議長（平本佳司君） 産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） 満タンにして30トン容量の水槽でございますが、人工海水が高価であるため、定期的に水槽の水を換えることはありませんで、日常的に排出量、それから水槽の清掃により排出される水、それから塩分を基準内に適合させるための水、こういったものを合計すると1日9トン使うという答弁であります。

排水に当たっては、法令に基づき、きちっと水質検査を行ってまいります。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） ちょっと私が今伺ったのは、1基何トン水槽、要するに水量の水槽を伺ったんですけれども、1日まとめて9トンぐらい、先ほど伺いまして、それ分かるんですが、ちょっと数字が合わないのかなと思ったもので再質問したんです。何トン水槽を14基という答弁だったのか、その辺ちょっとお願いします。

○議長（平本佳司君） 産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） 1基当たり30トンの容量の水槽を14基設置するものであります。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 了解しました。

再度確認のために伺いますけれども、閉鎖循環式陸上養殖施設ということでもありますけれども、これは人工海水、要するに水道水を利用するんですから人工海水になるとは思いますが、海水の循環ばかりではなくて、採卵、卵を取って、自然産卵をするのかどうかちょっと分かりませんが、採卵のふ化、そ

の辺も含めて循環型というのか、その辺ちょっとお願いしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） 事業開始当時は稚魚を購入し飼育しますが、これは将来的には人工ふ化に着手することも想定しております。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 将来的には人工ふ化ということは、現段階では人工ふ化は考えていないということですので、当然どこかから卵を持ってきて、そこで卵の状態からふ化、それともある程度のサイズになってから、取れ高の率は、高くなると思いますけれども、ある程度の状態まで成長してから運んでくるのか、その辺の説明はありましたか。

○議長（平本佳司君） 産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） 私も詳しいことまでは分かりませんが、ある程度の大きさになった稚魚を持ってきて、先ほど申し上げたような期間で育てていくというような、循環型の水槽で育てていくというような方法のようです。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 説明がなかったということであれば、これ以上質問しても仕方ございませんのでここで一応打ち切りますけれども、この飼育に関して、要するに海水でありますので、循環型でありますので、海水の中でアンモニア系統が魚介類の成長には一番妨げになるということで、当然これを示すのが最初になりますので、その辺の除去に関して、成長ホルモン剤、早く、早期出荷のための成長ホルモン剤の投与はあるのか。また、先ほども言いました病害虫、これの発生を抑えるための薬品投与、これは考えられないのか。考えられると思いますので、これを排水の処理施設で無害化、要するに普通の状態で排水できるのか、処理施設であれば十分考えられますので、無害化することはできるのか伺いたいと思います。

あわせて、将来的には規模の拡大、要するに魚種の多様化、これもありましたけれども、缶詰のようなものがまた入っているのか。また、できれば、将来的に魚種の多様化ということであれば、どのような項目を考えていたのか、説明があったとすればお願いをしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） まず、この水槽の中に成長ホルモン剤、それから薬品、こういったものは投与しないということでございます。

す。これ生食のサバ、虫のいないサバを売り出すということにしておりますので、これが順調に売れてくれば、かなり売れるとなれば、水槽も増やすということも予想はされます。しかしながら、私これ誘致するときに請戸の魚とバッティングしないように、請戸の魚で、例えばヒラメとか、そういう魚とバッティングしないようお願いしておりますので、やはり岡山に何年か前に行って同じ水槽を見てきたときに、やる気になればどんな魚もできるようにございますが、やはり請戸の魚とバッティングしない、請戸にないような魚をやっていたきたいという要望は当初よりしております。まずはサバでもって確立するということが第一目標のようでございます。

お答えいたします。

サバ缶は、生食を中心としてやるという方針でありますので、サバ缶の計画はないようでございます。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 成長ホルモン剤とか、そういうものがなければ、これはすばらしい事業であるというふうに私も考えます。

あと、参考までにですけれども、地元で水揚げされるサバ、これもう地元でもかなり大量に水揚げされます。しかし、やはり採捕の関係上、ちょっと鮮度があまりよくありませんので、これはこの辺の自家消費が大体メインでありまして、地場産業に影響を与えるということは、現段階では私はないと考えておりますけれども、またそれ以外の魚種になれば、これはちょっと問題もあるのかなとは思いますが、やっぱり一番簡単な状態を申し上げますと、養殖の鯛ですか、真鯛。真鯛なんかは、本当に養殖で生けすの中で生育したものと近隣で育ったものと、これは一口食べてみて、食べ比べて、2つ置いて1つずつ食べてみると、これはてきめんに分かりますので、常磐ものに影響を与えるということはないと私思います。

そこで、日揮はご存じのとおり、やはり製品をつくる機械のメーカーでもあり、またエネルギープラント関係では世界有数のメーカーでもある会社が浪江町に来てくれるまでの執行部のご尽力に感謝申し上げます。

そこで、提案ですけれども、この生食用のサバというのは、これはなかなか全国的にも珍しくて、なかなか手にも入りません。そこで、道の駅やいこいの村、また町内立地の飲食店、ホテル、この辺で利用していただければ町の知名度アップにもつながるのではないのかなと考えますことから、町のブランドとして活用できないものなのか話合いの必要性を感じますので、通告書に記載はありませんけれども、答弁できるならば、今後の方向性として伺いたいと思

ます。

○議長（平本佳司君） 産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） やはり、この生食用のサバを誘致する際、浪江の生食用のサバというブランド化、ひいてはそのサバから浪江の水産業の復活、ほかの魚種へも波及するという効果も狙って誘致しておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） よろしく願いをいたします。

最後の質問になります。

先ほど来お尋ねをした地元雇用の件ですが、9月定例会での11番議員の質問と大分かぶりますけれども、震災以降、町内に進出企業として操業中の会社に占める町内からの雇用はどのくらいあるのか、ざっくりでもいいので教えていただきたいなと思います。

○議長（平本佳司君） 産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） 町内全ての企業に関する雇用状況を把握することはできておりませんが、今我々が誘致した産業団地における雇用状況につきましては、全従業員のうち浪江町民または町内居住者の割合はおよそ3割となっております。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 約3割ということは、やはり7割が町外者で占めているのかなというところ何か寂しい限りではあります。

そこで、産業団地別の創業予定会社の雇用人数を伺いたいと思います。

○議長（平本佳司君） 産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） 前回の議会と同じような数字を申し上げますけれども、5年後の目標として申し上げますけれども、藤橋産業団地は目標100人、北産業団地は3区間で目標50人、棚塩産業団地は4区画で目標100人、南産業団地は11区画で目標を300人としておりまして、合計では550人と、これを目標として企業誘致を行っております。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 今の件は了解いたしました。

10月末の現在、町内の居住人口が1,908人、あと1,188世帯、この数字が出ておりますけれども、主に高齢者が多いように見受けられますので、人口に占める65歳以上の割合はどのくらいなのか、お伺いいたします。

○議長（平本佳司君） 産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） 10月末で町内居住者数1,932人、うち

65歳以上は773人、65歳の占める割合は40%となっております。

○議長（平本佳司君） 10番、高野武君。

○10番（高野 武君） 今の数字を聞く限り、先ほどの550名と。求人予定ということと合わせますと、やはり人手不足の感はかなり拭えません。

そこで就労可能リポートということも考えましたけれども、これは若い世代で無職の方はほとんどいないだろうということからやめますけれども、しかし、会社は来てくれたけれども従業員は確保できないと。幾ら求人を出しても応募がない。これだけは避けていただきたいと思います。

住まいの確保の問題でも、やはり近隣の市町村から通勤されても人口増加にもなりません。そこで魅力ある町を発信するためにも、駅周辺整備計画や立地が決定いたしました国際研究教育機構を大いにアピールしていただければと思うとともに、今後とも町発展のために、さらなる行政の活躍を期待いたしまして終わりたいと思います。終わります。

○議長（平本佳司君） 以上で10番、高野武君の一般質問を終わります。

○議長（平本佳司君） ここで、10時50分まで休憩に入ります。

（午前10時33分）

○議長（平本佳司君） 再開します。

（午前10時50分）

◇ 山 崎 博 文 君

○議長（平本佳司君） 14番、山崎博文君の質問を許可します。

14番、山崎博文君。

[14番 山崎博文君登壇]

○14番（山崎博文君） 14番、山崎博文です。

議長の許可を得ましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。なお、質問方式は一括質問方式でお願いいたします。

質問に入る前に一言申し上げます。今日は、私にとって吉田栄光町長への初の一般質問の場です。町政に対する施政方針や提案などを行いますので、事務的な質問以外は直接町長から答弁をいただきたいと思います。

また、新型コロナウイルスは第8波に入っており、連日、多くの新規感染者が確認されています。インフルエンザとの同時流行も懸念されていますので、町長はじめ職員の皆さんにおかれましては、

どうか感染防止策の徹底を心がけ、行政サービスに影響のないようお願いいたします。

それでは、質問に入ります。

まず初めに、質問事項1、令和5年度の施政方針についてご質問いたします。

今年8月、町長に就任され、町政運営に当たられてから約4か月が経過しました。就任前は県議会議員として、県政において、特に大震災後の町復興でお力添えをいただきました。今度は県議から町長へと立場が変わりました。立場が変われば職責も変わります。そこで、これまでの町政執行での感想をお聞かせいただきたいと思っております。

次に、令和5年度の施政方針についてお伺いします。

今年度は吉田数博前町長の下での予算編成であり事業です。就任後の町政執行は、多少の見直しはしたものの予算や事業などを踏襲し、継続しているものと推察いたします。来年度はいよいよ町長の町政に対する熱き思いが大きく反映する予算、事業などになると思っております。そこで、どのような方針の下、予算を編成し事業を展開していくか、施政方針をお伺いします。

次に、具体的な事業等の考え方についてお伺いします。

まず、交流人口の拡大策及び応援大使等の創設について質問いたします。

前々回の6月定例会の一般質問において、交流人口の拡大策として学生や社会人などの各種団体の合宿を受け入れ、町内施設を有効に活用し、今以上の施設使用料の減免措置や宿泊費補助を講じ、交流人口の拡大を図ってはいかがかと提案したところ、前町長から全力で取り組んでいきたいとの答弁をいただきました。

移住・定住促進の前段階として、「来て・見て・触れて・味わって・感じて」と、当町のよさを体験してもらうための機会の場をつくるために合宿の里なみえとして取り組むべきと思いますが、ご所見をお伺いします。

また、町の魅力や復興等の発信、地場製品のよさを宣伝・普及等を図るために応援大使等の創設を提案しましたが、あまり前向きな答弁をいただけませんでした。直近の県内大使の就任状況ですが、10月、南相馬市が南相馬米、米ですね。PR大使として、また福島市がふくしまエール大使として大相撲で活躍している若隆景関、若元春関、若隆元さんの大波三兄弟が就任し、さらに福島県でも11月、ふくしま知らなかった大使として女優の松岡茉優さんが就任しました。やはり、町の魅力や復興等の発信、地場製品のよさを宣伝・普

及等を図るために応援大使等の創設をすべきと思いますが、再度の質問になりますが、創設について、お考えを併せてお伺いします。

次に、広域連携について質問いたします。

9月定例会において、双葉郡合併についての一般質問に対し、「郡内町村の復興状況には差異があり、議論するのは時期尚早」との答弁でした。双葉郡の在り方について中長期的な観点から議論すべきとは思いますが、前段階として広域連携を推進することが求められるのではないかと考えます。同定例会での広域連携についての質問には、「医療、施設、特に復興についても連携が求められる」との答弁でしたが、具体的にこれら3点について、どのように図っていくのか、ご見解を伺います。

質問事項1の最後になります。

東京電力から震災後、双葉郡内8か町村にそれぞれ一律2,000万円を見舞金として示されました。亡き馬場元町長、そして吉田数博前町長は受け取りを保留し、現在も保留状態と承知しています。速やかに受領し有効に使うべきと考えますが、ご見解を伺います。

また、今後の東京電力との関係について、どのようなスタンスで臨むのかお聞かせいただきたいと思えます。

次に、質問事項2、復興計画（第3次）の見直しについてご質問いたします。

昨年3月、東日本大震災から10年の節目を迎え、町を取り巻く状況は大きく変化していることから、これまでの復興の進捗や行政の取組を検証し、将来にわたって安心して豊かな生活を送れる持続可能なまちづくりが必要であり、これらの基本的な認識の下、中長期的な視点に立って、総合的かつ計画的に復興を実現するため復興計画（第3次）を策定しました。

本計画は、令和3年度から令和12年度までの10年間で定めたものですが、今年9月、福島国際研究教育機構の立地が正式決定しました。本機構の基本構想では、1、研究開発機能、2、産業化機能、3、人材育成機能、4、司令塔機能の4つの機能を設け、主な研究分野はロボット、農林水産業、エネルギー、放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信を予定しています。

来年4月、仮事務所開所となり、本格的に2030年度までに整備が進むものと思いますが、本事業は大きく当町の復興に資するものであり、復興の大きな柱となるものと思えます。そこで、機構立地の決定を受け、福島国際研究教育機構の文言や施策等について復興計画に盛り込むべきだと思えます。見直しについてどのようにお考え

か伺います。

次に、質問事項3、福島国際研究教育機構（F－R E I）の受入れ環境整備についてご質問いたします。

まず、これからの福島国際研究教育機構に関する質問は略称のF－R E Iと申し上げます。このF－R E Iは、質問事項2で申し上げましたが、町復興の目玉となり、本格的復興に資するビッグプロジェクトです。本事業が速やかに着手し、整備がスムーズに進捗することが必要です。そのためには情報の収集や共有等のため、国・県との連携強化を図ることが重要であると思います。

そこで、対外的窓口や事務的業務、そして庁内、役場内の司令塔として、本事業を所管する課もしくは室を来年度新設すべきと考えますが、ご所見を伺います。

次に、F－R E Iは新産業を集積する国家プロジェクト「福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想」の司令塔となり、5つの分野において約50の研究グループに国内外から数百人の研究者が参加し、研究者の家族や関係職員、関連企業従業員らが当町に、浜通りに、そして県内全域に移住・定住することが期待されます。

特に当町は立地町ですので、昼間の人口、いわゆる昼間人口の増加が想定されます。そこで、受入れ環境整備の一環として、浪江診療所では診療科目の追加や医師・看護師などのスタッフの確保など、さらなる医療の充実が喫緊の課題と考えますが、どのように取り組んでいくか、お伺いします。

その他、受入れのための環境整備が求められますが、どのように課題整理しているか、お伺いします。

次に、質問事項4、教育行政についてご質問いたします。

今年4月、全国の小学6年生と中学3年生を対象に全国学力テストが実施されました。福島県内の科目別の平均正答率は、小学校は国語が64%、マイナス1.6ポイント、算数が62%、マイナス2.2ポイント、理科が64%、マイナス1.3ポイントと、いずれも1ポイントから2ポイント余り全国平均を下回りました。中学校は、国語が68%、マイナス1.0ポイント、数学が47%、マイナス4.4ポイント、理科が48%、マイナス1.3ポイントと、いずれも全国平均を1ポイントから4ポイント余り下回りました。

そこでまず、なみえ創成小中学校は全国学力テストに参加したか否か、お伺いします。また参加した場合は、児童・生徒の結果分析はどのようにしているか。ただし小規模校ですので、その点に配慮した答弁で結構です。不参加の場合はその理由を併せてお伺いしま

す。

最後の質問になります。

つくば市には、東京などの国の試験研究機関等を計画的に移転することにより東京の過密緩和を図るとともに、高水準の研究と教育を行うための拠点を形成することを目的に、国家プロジェクトとして筑波研究学園都市が整備されました。整備後、移住・定住者が増え、それに伴い市内の児童・生徒の学力が急激に向上したため、教職員は学習指導力の向上が求められたと教育関係者から伺いました。

そこで、F-R-E-I整備後、同様の傾向が生じるのではないかと想定しますが、ご所見をお伺いし、1回目の質問とさせていただきます。

なお、答弁によっては再質問、再々質問を行いたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（平本佳司君） 町長。

○町長（吉田栄光君） 山崎博文議員のご質問にお答えをいたします。

まず、町政執行の感想であります。責任、そして課題、そして今後の行政経営について、この3つについて感想を述べさせていただきます。

まず、責任であります。私は前職でこの双葉郡の県の議員という立場でありました。特に、あの震災から12年を迎える中で多くの課題と直面してまいりました。この町長として震災前の2万1,000の町民の方々の今の生活状況、そしてある意味、公営住宅等にお住まいの高齢者の方々の思いなどを伺うと、非常に責任を改めて感じております。

もう一つ、付け加えるのであれば、先ほど来、創成小中学校、にじいろこども園の園児のご質問がありましたが、この浪江町を支える子供たちも若干ずつ増えてまいりました。この過酷な原発事故の避難の状況の中で、次の将来、この浪江町を担う子供たちへの責任を、ある意味、私がどのような形で果たして、つないで、次の世代に、100点は採れることは非常に難しい限りではありますが、私の町政執行の中で、将来、子供たちが一つでも憂いをなくして満足できる、この浪江町であっていただきたい。その子供たちへの責任も非常に感じております。

次に、課題であります。12年前の震災事故当時の課題は多くありました。この双葉郡、浪江ほか7か町村比較すれば、川内村、広野町が解除、そして檜葉、富岡と、そして当町の浪江という形で北へ、北へと進んでまいりました。町長になってこんなことを感じた次第であります。震災当時、川内村や広野にあった課題、檜葉町にも多

くありました。一つずつ前に進め、解決した課題もあります。町長になって思ったことは、双葉郡内で一番人口が多くて、一番広い面積の当町浪江町、8割はいまだに帰還困難区域、震災後の賠償の課題から復興、そして請戸港を抱える処理水等、第1原発の事故の起きたサイト、そして幾重のご負担をかけた大熊・双葉の中間貯蔵の課題等と、直接当町には関わってくるものとは思っておりませんが、これらに連動する課題、全てこの12年過ぎても当町には課題が山積している。そんな受け止め方もしております。

長くなりましたが、もう一つ、行政経営の視点でお話をさせていただきます。

2040年には、我が国の人口が高齢化から、多くの人口減少が顕在化した形で国民が自らの目で、そして感じるその時代が2040年にはやってまいります。

我々は原発事故で1割未満の帰還、そして住民の中で全ての国民の方々の理解をいただいてこの復興、ある意味、国民の税金、多くのご支援の中で12年間歩んでまいりました。いずれ我々は自立をするときが来ます。今の企業誘致、補助金等、様々国の施策は将来を見据えたものであります。そんな中で課税経営者として、そして納税していただく町民の方々、事業者の方々、まずどのような形で町民の方々に理解をしていただく、これも大きな課題になっています。

法人税、固定資産税、我々の浪江のすぐそこには一般財源の確保という大きな課題があります。これらを考えると、今、2期目のこの復興の期間の中で、当町の将来、税収の見込み等、ある意味、一般財源の確保というものが一定程度、私の1期目4年間の中で、議会の皆様方とご協議しながら同じ方向を向いてまいりたい、そんな思いであります。

長くなりました。感想についてはこの辺でとどめさせていただきます。

次に、令和5年度の方針、予算編成、事業展開していく方針についてお答えをいたします。

令和5年度は、震災と原発事故から12年が経過するとともに、浪江町復興計画（第3次）の3年目となります。復興計画に掲げる「夢と希望があふれ 住んでいたいまち 住んでみたいまち」の実現に向けた取組を加速していく重要な年であると考えております。

来年度におきましては、まちづくりの核となる中心市街地の再生に向けて浪江町駅周辺グランドデザイン基本計画に基づく取組を確実に進めるとともに、町の基幹産業である農林水産業の復興及び産業関連施設の利活用を促進し、民間事業者等と連携し、新たな産業

と雇用の創出により地域経済の発展を目指していく必要があります。

また、ゼロカーボンシティの実現に向けて、水素エネルギーをはじめとした再生可能エネルギーの利活用等を図ってまいります。

さらに、令和5年3月の避難指示解除を目指す特定復興再生拠点を含めた帰還困難区域について、帰還に向けた生活再建支援を行うとともに、新たな地域の姿を模索し、コミュニティの再生を図ってまいります。

その他、復興計画に位置づけられている各施策を確実に進めていくためには、防災・安全の強化、保育・子育て環境や学習環境の充実、帰還支援及び移住・定住の推進などについても重点的に予算化してまいりたいと考えております。

なお、引き続き財源を国・県等に大きく依存している厳しい財政状況の中で、全ての事業をゼロベースで総点検し、組替え・再構築しながら事業を展開してまいる考えであります。

次に、広域連携の質問についてお答えをさせていただきます。

震災から12年を迎える中で、初めて避難指示解除される町があるなど、双葉郡8町村においては復興のステージが異なっておりますが、医療・介護等の共通する課題も多くございます。

先般、大熊町に大野病院を再建するとの方針が県から示されましたが、当町においても福島国際研究教育機構の立地が決定し、これらの施設によって復興を効果的に進めていくためには、隣接する8か町村がお互いに連携していくことが必要と考えております。近隣町村がそれぞれの強みを発揮し、相乗効果が得られるよう、連携を模索してまいりたいと考えております。

加えて、先ほどの創成小中学校、にじいろこども園の双葉町の方々から町民の利活用についてもご質問がありましたが、この質問と中身とは若干違いますが、私はある意味、8か町村の中でいくと大熊、双葉、浪江、葛尾、つまり北相3町1村の状況、これが南と比べれば格段の差がございます。ようやく先ほど申し上げたとおり、双葉町の解除がなされ、これからというような状況の中で、医療は県議時代から県立大野病院が双葉郡の中核拠点として、この双葉郡の働く人や住民の方々の医療を支えていく。もう一つ足りないのは、南では介護施設等が開所しておりますが、今後、高齢化が加速する中で、当町を含めて北3町1村の介護の充実喫緊の課題かと思っております。これらについても北3町1村がどのような形で今後推移していくのか、そして連携はできないのか、そんなことも個人的には考えております。

今後、震災前の箱物行政とは違った形で、それぞれ町、村が同じ

ものを持つんではなくて、それぞれの町村が話し合いをしてそれぞれの行政機能、町民へのサービスを連携していく、こんなことも今後の行政経営の中では必要かと考えております。

次に、東京電力からの見舞金についてお答えをしたいと思います。

馬場元町長が見舞金の受け取りを保留していたことは私も承知しております。震災から12年経過する中で、見舞金に関しては吉田数博前町長に対しても、私が就任して以降、私に対しても東京電力からはその取扱いについて示されてはおりません。12年前ということもありますし、加害者である東京電力の意向が示されてない中で、私から見舞金を求めることは今、考えておりません。

以下、その他の質問については担当課長に答えさせます。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） 大きな1番の（3）の①合宿の里についてのご質問にお答えいたします。

浪江町の持つ様々なポテンシャルを最大限に生かし、交流人口の拡大を図ることは非常に重要なことと考えております。議員おただしの合宿の里についても現在、地域スポーツセンターやふれあいグラウンド、創成小中学校の校庭がございます。また、今後、高瀬球場や海浜緑地でのパークゴルフ場を整備する計画であり、さらなるスポーツ環境の充実も図られることとなりますので、これら施設を有効に活用し町の魅力発信を推進してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 総務課長。

○総務課長（横山秀樹君） 応援大使の件についてお答えいたします。

応援大使の活用により町の魅力や復興等の発信、地場産品等のPRをしていくことは、本町の知名度を高める上で大きな効果を発揮するものと考えておりますので、他自治体の事例等を参考にしながら、今後、検討してまいりたいと思います。

○議長（平本佳司君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） 私からは、質問事項2、復興計画第3次の見直しについて、福島国際研究教育機構は復興の柱として盛り込む必要がある。見直しについてのお考えはということでご質問にお答えをいたします。

復興計画第3次は、計画期間を令和7年度までを前期、令和8年度以降を後期に区分し、社会情勢の変化に柔軟に対応するため後期計画で見直しをすることとしております。

議員おただしの福島国際研究教育機構につきましては、施設の規模や詳細な整備スケジュールなど、より具体的な情報が今後、示さ

れる見通しとなっておりますので、令和8年度からの後期計画にはしっかりと反映してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（平本佳司君） 総務課長。

○総務課長（横山秀樹君） 3番の国際研究教育機構関係の課もしくは室の新設についてお答えいたします。

本年7月25日に町長より、福島国際研究教育機構（F－R E I）に係る新たな部署の設置について事務機構改善委員会のほうに諮問がありました。それで、現在、課もしくは室の新設の方向で検討を進めているところでございます。

○議長（平本佳司君） 健康保険課長。

○健康保険課長（西 健一君） （2）のF－R E I関係者の増加による浪江診療所等の医療の充実についてご質問にお答えいたします。

診療科目や医療スタッフの確保につきましては、議員おただしのとおり、重要な課題であると認識してございます。従来から国、県等と連携しながらの取組を進めているところでございまして、整形外科の診療につきましては、昨年度は月1回であったものを、今年度からは毎週1回の診療と充実を図ってきたところでございます。

一方で、これら新たな専門医の確保やスタッフの確保は現状、非常に困難を伴っておりまして、他県の医大まで訪問するなどの努力も重ねてきているところでございますが、必ずしも努力に見合った結果が得られる保証がないこともまた事実でございます。

こうした中で、福島県におきましては、県立大野病院を中心とする新たな双葉地方の医療体制の構築も検討が始まっておりますので、こうした広域的連携の状況を踏まえつつ、ご指摘のF－R E I等による今後の町と浜通りの変化に立地町の役割が果たせるよう、引き続きしっかりと取り組んでまいります。

○議長（平本佳司君） 成井副町長。

○副町長（成井 祥君） 3の（3）福島国際研究教育機構（F－R E I）の受入れ環境整備のご質問にお答えいたします。

F－R E Iの立地により国内外から多くの方々が来町し、あるいは居住することが想定されますことから、研究者の方々などが快適に暮らすことのできる環境や利便性の向上を図っていく必要があると考えております。

このため、現在、庁内のプロジェクトチームを中心に、先進事例であります沖縄科学技術大学院大学の周辺まちづくりを視察するなど、住宅や商業サービス、医療をはじめとする生活環境、道路交通基盤の整備といった課題の整理を進めているところでございます。

今後、国・県とも協議を行いながら、町が担うべき役割を明確にし、具体的な環境整備を進めてまいります。

○議長（平本佳司君） 教育長。

○教育長（笠井淳一君） 4の教育行政、（1）の全国学力・学習状況調査、いわゆる全国学力テストについての質問にお答えいたします。

今年度、なみえ創成小学校では6年生5名、なみえ創成中学校では3年生の3名、実施いたしました。各学校においては対象が極めて少人数であることから、一人一人の状況について分析し、課題を明確にし、個々に応じた指導の改善に努めているところでございます。

各教科に共通している点といたしましては、基本的な知識・理解についての一定程度の確かな定着が見られるところでございます。一方、それらと比較しますと、知識を活用して課題を解決する力や考えを的確に表現する力、それらに課題が見られます。

このため学校では、知識を活用する力の育成につながるタブレットを活用したAI教材や問題演習を取り入れるとともに、一人一人に応じた表現力を高める指導、授業・学校行事等における発表機会の計画的な設定等に努めているところでございます。

また、同時に行われましたアンケート結果からは、家庭での学習習慣の定着に個人差が見られることから、学習習慣の確立に向け、学校と家庭との一層の連携を進めることが重要であると考えております。

2つ目ですが、教員の学習指導力の向上についてのご質問にお答えいたします。

各学校におきましては、教職員が相互に授業を通じた研修を計画的に行うとともに、ネット環境を生かし、外部の講師も交えながらオンラインでの研修も進めております。

また、教育委員会といたしましても、今年度新たに配置した指導主事による授業改善への指導助言を進めるとともに、県教育センターの研修会や都市部や県内外で先進的に取り組んでいる学校等への視察研修等も積極的に奨励しているところであります。

今後、議員おただしのような対応もいろいろと考えておりますので、新たにインターネットを通じた多様な研修講座等も活用するとともに、先進地視察先に研究学園都市等も含めるなど、教職員の指導力の一層の向上に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（平本佳司君） 14番、山崎博文君。

○14番（山崎博文君） それでは、何点か再質問いたします。

まず、質問事項1、令和5年度の施政方針に関する再質問をいたします。

令和5年度の予算や事業については、来年3月定例会に提案されますので、その際に具体的に議論をしたいと思っております。ここでは2点ほど、まず1点目は施政方針の中で東電賠償に関しての取組についてのお考えがありませんでしたので、質問いたします。

原子力損害賠償紛争審査会は、原発事故で各地に避難した人たちが起こした集団訴訟で、これまで7件で基準を上回る賠償額を認める判決が確定したことを踏まえて、損害の実態に合わせて対象を拡大するなど指針見直しの方針を先月10日の最終報告で決めました。

28日の会合では、賠償の対象がより具体的に示され、これまで帰還困難区域にしか認められなかった、生活基盤が変わったことによる精神的な損害を居住制限区域と避難指示解除準備区域についても認めることを決めたほか、現在の指針では十分に考慮されていない着のみ着のままで過酷な避難を余儀なくされた精神的損害についても賠償の対象となることを決めました。

また、今後も相当量の放射線量の地域に滞在した健康不安、介護が必要な人や障害がある人への賠償の増額などについて具体的な見直しを検討することにしていきます。

そこで、指針見直しの具体的協議が始まったことを受け、見直しについてどのように捉え、また今後、国、東電に対してどう取り組んでいくか、お伺いします。

2点目は、広域連携についてです。

この点については、6月定例会において前町長に「当町職員は特に5年前の一部地域解除後の復興業務のノウハウは被災自治体としてとても大きな財産だと思います。震災直後から今日までの経験や知見、教訓などを共有している当町職員と、復興拠点の避難指示解除が始まる、今は8月に解除となっております双葉町と自治体間人事交流を行い、ノウハウを共有してはいかがかと思います。また、双葉町にとって、解除してから5年後の課題などを当町において編集、経験できるものと考えます。双葉町へ職員人事交流について積極的に提案し、連携を図ってはいかがかと思いますが」との質問をいたしました。同様の質問をいたしますので、ご所見を伺います。

質問事項3、福島国際研究教育機構（F-R-E-I）の受入れ環境整備について再質問をいたします。

課の新設については現在、検討しているという答弁をいただきました。今後も先を見据えた施策の展開や条例の制定及び改正などを検討していただけたらと思います。これの答弁は結構です。

再質問ですが、まず町内のさらなる医療の充実について質問いたします。

医療の充実については、当町のみならず地方の基礎自治体が抱える共通課題だと承知しています。当町では2か所の診療所を運営しています。そこに町内居住者からですが、浪江診療所を充実させるため仮設津島診療所の在り方について検討し、示すべきと、そういう声があります。そこで、仮設津島診療所の今後についてはどのようにお考えか、お伺いします。

次に、F-R-E-Iが段階的に機能開始すれば移住・定住や昼間人口増が期待されると申し上げましたが、被災地視察ツアーも今以上に活発になると思います。特に外国人などの来町者が数多く見込まれるものと思います。

そこで、国際化に対応する施策としてインターネット環境の整備を提案します。駅前に整備される商業施設や棚塩産業団地、震災遺構の請戸小学校などにネット環境を整備すれば、来町者のネットに関する利便性の向上が図られます。そのことによる成果の一つとして、SNSなどを通じて今の町復興の現状を世界に発信していただけることが期待できます。国の補助制度もあるようですので、自治体Wi-Fiを導入してはいかがかと思いますが、ご所見を伺います。

また、今後、通訳はもちろんのこと、英文の翻訳、作成などの新たな業務が生じます。そこで、国際共通語の英語に堪能な職員配置が必須であると考えます。あわせて、英語表記の案内看板設置や関係者の住まいの確保などが必要です。これらについてのご所見を伺います。

質問事項4、教育行政について再質問いたします。

学力向上についてです。今ほど申し上げましたが、国際化に対応することは教育行政にも求められると思います。その観点から、園児をはじめ児童・生徒の英語力の向上、特に英会話教育を重視すべきと思います。魅力ある、そして特色ある学校づくりにもなりますので、今後の授業への取組についてお伺いし、再質問を終わります。

○議長（平本佳司君） 町長。

○町長（吉田栄光君） 山崎博文議員の再質問についてお答えいたします。

中間指針の見直しについてのご質問であります。賠償支援に関しましては、浪江町原子力損害賠償請求に係る支援に関する条例に基づき係を設置し、浪江町復興計画第3次でも損害賠償対策の推進として掲げており、町民の暮らしの再建に向けた重要な施策と考えて

おります。

こうした中で、今般、原子力損害賠償紛争審査会が中間指針第5次追補の策定に向けた議論を開始しており、その内容は過酷避難状況による損害、ふるさと喪失変容による損害等に対する賠償など町民全体に影響が及ぶものと捉えております。

これらを踏まえ、先週、私は東日本大震災復興加速化本部の額賀本部長を訪ね、この見直しについても意見交換をさせていただきました。町としましては、関係機関と連携し、専門委員による判決等の調査、分析等の最終結果や現地視察等を通して得られた被害の実態、地域の実情を十分に反映した指針が早急に示されるよう求めてまいります。

また、指針見直し後におきましては、これに基づく被害者への賠償が迅速かつ完全に実施されるよう確実な対応を求めてまいりますとともに、賠償請求に関しましては町民の皆様にも不利益が生じないよう周知、請求支援などに努めてまいります。

○議長（平本佳司君） 総務課長。

○総務課長（横山秀樹君） 自治体間人事交流についての再質問についてお答えいたします。

人事交流は、人脈や新たなノウハウ、知見の共有など人材の育成や組織行政運営の活性化を図ります上でも大変有効な手段と捉えております。こうした観点から、福島県のほうとは人事交流を行っておりますが、現状としまして、多くの自治体からの派遣職員をお願いしている状況では、そのほかの自治体との人事交流は難しいものと考えております。

○議長（平本佳司君） 健康保険課長。

○健康保険課長（西 健一君） 津島診療所についてのご質問についてお答えいたします。

震災より12年目となります浪江町の復興状況は、いまだ町全体の8割を帰還困難区域が占めており、復興はまだ道半ばでございます。来年春に帰還困難区域のうち拠点区域の解除、そしてその後続く白地地区と呼ばれる拠点外への取組が続き、まだまだ多くの方が帰還したくてもできない、避難終了がまだ見通せない方が多数いらっしゃるという状況が続いております。

こうした状況を踏まえますと、そのよりどころとなる仮設津島診療所につきましては、現段階では閉鎖を検討する時期ではないと考えてございます。今後も津島診療所、浪江診療所の診療状況を適宜・適切に捉えつつ、判断を重ねてまいります。

○議長（平本佳司君） 成井副町長。

○副町長（成井 祥君） F－R E I の受入れ環境の整備に関しまして、国際化への対応ということでお答えいたします。

まず、インターネット環境の整備についてでございます。インターネットの環境につきましては、今、外国人にとって非常に重要なものでありまして、必要不可欠なものであるというふうに認識しております。

現在、道の駅なみえでありますとか、あるいはいこいの村などにおきましては無料のW i - F i 環境を整備しているところでございますけれども、今後、外国人の研究者をはじめとする多くの外国人が来ることが予想されますので、その方々の利便性の向上に向け、関係各課とも連携・協力しながら、公共施設における無料W i - F i の導入について検討してまいりたいと考えております。

次に、英語に堪能な職員の採用についてでございます。機構（F－R E I）の立地によりまして、町内に多くの外国人が居住することが予想されます。そのため、町といたしましては、役場窓口へ多言語化音声翻訳サービスの導入や英語に精通した社会人の採用など町役場の国際化に向けた対応、取組について今後検討を進めてまいりたいと考えております。

最後に、3点目でございます。

国際化に向けた町内の案内看板等の多言語化及び住宅の確保についてでございます。議員ご指摘のとおり、機構の立地により多くの外国人が町内を訪れ、また居住することが想定されますことから、町内の案内表示や看板、宿泊業や飲食業におけるメニュー表示などを多言語化対応していくことが必要であるというふうに考えております。あわせまして、それに対応した住宅の確保が非常に重要になってくるだろうというふうに考えているところでございます。

こうした取組を進めるに当たりましては、町民や町内事業者のご理解とご協力が不可欠でありますので、商工会などとも連携を図りながら、国際化に向けた機運の醸成に努めてまいります。

○議長（平本佳司君） 教育長。

○教育長（笠井淳一君） 教育行政について、英会話力向上についての再質問にお答えいたします。

今年度、英語指導に堪能なA L Tを新たに採用したところでございます。英語の授業におきましては、中学校はもちろん小学校においても毎時間、A L Tとのチーム・ティーチングを行っております。英語による自然な場面を通して、児童・生徒が新しい語句や表現を習得し、それを用いて楽しみながら英語でのコミュニケーションができるよう授業を進めております。

今後、児童・生徒の英会話力の向上に向け、デジタル教科書の活用も含め、ALTのより効果的な活用について指導主事による校内研修の一層の充実を図り、教員の指導力の向上に努めるとともに、英会話にも対応したAI教材の導入をいたしましたので、その活用も進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 14番、山崎博文君。

○14番（山崎博文君） 今の再質問に対して、答弁、私了解しましたので再々質問はありません。

以上で一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（平本佳司君） 以上で14番、山崎博文君の一般質問を終わります。

○議長（平本佳司君） ここで、昼食のため13時10分まで休憩します。
(午前 11時41分)

○議長（平本佳司君） 再開します。
(午後 1時10分)

◇ 小 澤 英 之 君

○議長（平本佳司君） 5番、小澤英之君の質問を許可します。

小澤英之君。

[5番 小澤英之君登壇]

○5番（小澤英之君） 議長の許可をいただきましたので、一般質問を行いたいと思います。なお、質問方法としては通告書に記載のとおり、一括質問方式で行います。よろしくお願ひしたいと思います。

質問事項については大きく4点であります。

1点目は、移動期日前投票所について。

2点目は、男性用個室トイレにおけるサンタリーボックスの設置について。

3点目は、仮設商業協同店舗施設「まち・なみ・まるしえ」について。

最後に公営住宅についてであります。

それでは、具体的な質問に入ります。

初めに、1といたしまして、移動期日前投票所についてであります。

さきの10月30日、投開票が行われた県知事選挙において、投票率については県全体で42.58%、当町では34.97%でありました。前回、

平成30年の知事選より、投票率において県全体でマイナス2.46ポイント、当町でマイナス2.31ポイントとなりました。投票率向上につながるようにSNS等で呼びかけを行うなど各種施策を行いました。結果としてダウンとなりました。

今回の選挙の特色としては、当町として初めて移動期日前投票所を設置したことと思います。初めての導入に当たり大変ご苦労があったのではないかなというふうに思います。町民の投票所への移動負担の軽減を図ることや投票しやすい環境を整えることの目的であったことと思います。

実際に私自身もこの移動期日前投票所において投票をしました。移動期日前投票所についての概略といいますか、そういったものについては次の3か所でバス、目立つような、ラッピングされたようなバスを用意されたようですが、そのバスを使用してスタッフ4名、それから立会人3名で実施されたというふうに思います。

南相馬市原町区において、第6移動期日前投票所として10月24日午前9時から11時の2時間を北原団地集会所の駐車場、第7移動期日前投票所として同日の24日午後1時から3時の2時間を南町団地の集会所の駐車場、それから第8移動期日前投票所として翌日25日午後1時から3時の2時間を福島市の北沢又団地大和田集会所の駐車場の3か所ということでした。期日前移動投票所については、聞くところによりますと大変好評を得たとのことですが、次の2点についてお尋ねしたいと思います。

1つ目は、具体的に各移動投票所を利用された町民の方、何名おられたか。また、実際行った実施後において町民の方からの主な意見はどのような意見があったのか、お尋ねしたいと思います。

それから、2として次回選挙、衆議院の解散がなければ県会議員の選挙が来年、令和5年11月頃に行われるのかなというふうに思います。それまでに避難先、住民の大幅な変更はないというふうに考えられることから、今回と同様に移動期日前投票所を設置すべきと考えます。

また、設置するとすればより利便性の向上が図られるため、場所及び回数を増やすべきではないかなというふうに考えます。したがって、その取扱いについてお尋ねをしたいというふうに思います。

次に、2番の男性用個室トイレにおけるサンタリーボックスの設置についての質問に入ります。

男性用個室トイレのサンタリーボックスの設置は、高齢の男性を中心に前立腺がんや膀胱がんを患う方が増えている状況にあり、そ

の手術後や高齢化等により尿漏れパッドやおむつが生活に欠かせない方への配慮としまして、民間のみならず公共施設等においても全国的に設置が進んでいる状況にあります。

病気の方や高齢の方が安心して外出できる環境を整えるとともに、トランスジェンダーの方への配慮として男性用個室トイレにサンタリーボックスの設置をすべきと考えます。町としての考え方についてお聞きしたいと思います。

次に、3、仮設商業協同店舗施設「まち・なみ・まるしえ」についての質問に入ります。

仮設商業協同店舗施設「まち・なみ・まるしえ」は平成28年11月に整備され、町の新たな魅力の一つとしてにぎわいを創出しました。その後、令和元年7月にイオン浪江店、令和2年8月に道の駅なみえが一部開業となったことから、次の3点の活動の場として運用されてきました。

1つ目が帰還する事業者を応援、事業者の再開支援の場、2としてチャレンジできる町、移住・定住促進の場、それから3番目として復興を後押し、復興需要にこたえる公共的機関の活動の場であります。

そこで、次の2点についてお尋ねをしたいと思います。

1つは、チャレンジできる町、移住・定住促進の場におけるチャレンジショップの入居について、出店における期間が1年以内になっております。延長ができないというふうになっております。これは、当初は出店を希望する方が多くいたことから、このような期間、取扱いを設けたのかなというふうに推察されます。しかしながら、現状といたしまして、退去後に空き店舗となっているというふうなことから、こういった制限を緩和すべきではないかというふうに考えます。

具体的には原則1年間として、次の方が決まるまでそのまま継続して使用できるというふうなこととして、その利用期間、使用期間をフレキシブルに考えてもいいのではないのかなというふうに思います。そのことによって、退去後の町内への出店のタイミングが図られることや、町としては店舗使用料、家賃収入ですね。月額3万円のようなのですが、の確保と、町と使用者の両方にとっていい関係が継続されることと思います。そこで、町としての考え方をお尋ねしたいと思います。

次に、仮設商業協同店舗施設「まち・なみ・まるしえ」の今後の課題を含めてどのように取り扱っていく方針なのかについてお尋ねをしたいと思います。

それから、最後の質問になりますが、4、公営住宅についてであります。

町内における住宅整備状況は、災害公営住宅として幾世橋、請戸がありますが、ここで111戸、福島再生賃貸住宅、これが幾世橋集合住宅、ここが80戸、公営住宅（御殿南住宅）が10戸と合わせて201戸。現在、建設が進められております福島再生賃貸住宅、仮称で津島住宅団地、ここが10戸と、これが完成すれば合計で211戸となりますけれども、ただ現状としてほとんど満室の状況であると思っております。

また、民間賃貸住宅については賃料が高い、高額だというふうな等の問題があります。そのために帰還しようと考えている町民、移住・定住を検討している方々も住むことが困難、難しい状況にあると思っております。

今後は、産業団地へ進出する企業の従業員にとっても住宅の対応が難しいといえます。町内に住もうとしても住むことができない、そういった方がどうしても隣接する市のほうに居住することになってしまうというふうなことになります。

そこで、町として、次の2点についてどのように考えているかお尋ねいたします。

1点は入居条件です。現在、町営住宅、災害公営住宅及び福島再生賃貸住宅、おのおのについて入居条件が異なっています。特に平成23年3月11日時点で町内に居住していた者との条件があることから、Uターンをして浪江の復興に携わるということを考えている方、それから移住・定住を考えている方の入居が難しい状況にあると思っております。したがって、この入居条件を緩和または撤廃をし、入居者は誰でもが入居できるようにすべきと考えますけれども、このことについて町の考えをお尋ねしたいというふうに思います。

次に、2として今後の住宅建設についてであります。絶対数が不足しているというふうな状況にあると思われませんが、浪江駅周辺整備計画における住宅建設計画の進捗状況及びその他の公営住宅建設計画はどのようになっているのか、お尋ねしたいと思います。

以上、最初の質問を終了いたしますので、回答をよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（横山秀樹君） 1、移動期日前投票所、①利用町民及び主な意見についてのご質問にお答えいたします。

移動期日前投票所の投票実績でございますが、南相馬市の北原団地内投票所は51名、南町団地内の投票所は63名、それから福島市の

北沢又内投票所は94名となっております、移動期日前投票所に投票に来られた町民の方からは投票所が近くなって便利だというふうなご意見をいただいております。

それから、2番の次回選挙における取扱いでございますが、当町では町民の多くの方が依然として広域的に避難している状況下にありますので、通常の投票所での投票や避難先での不在者投票のほかに様々な投票手法をうまく組み合わせ、投票機会の確保を図っていくことが重要だと考えております。

こうした中で、今回の投票実績等を踏まえますと、移動期日前投票所は大変有効な手段と考えておりますので、場所、回数等を含めまして、今後より効果的で利便性のある体制構築を図ってまいりたいと考えているところでございます。

○議長（平本佳司君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） 質問事項の2、サンタリーボックスの設置についてのご質問にお答えいたします。

議員おただしのとおり、術後の方や高齢の方など尿漏れパッド等の使用が欠かせない方にとっては、トイレにサンタリーボックスが設置されていれば気兼ねなく外出できることにもなりますので、必要なものであると認識しております。病気の方や高齢の方が安心して外出できる環境を整えるとともに、また性の多様性の観点からも、まずは役場本庁舎を中心に男性用トイレへのサンタリーボックスの設置を進めてまいりたいと考えております。

○議長（平本佳司君） 産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） 旧まち・なみ・まるしえのチャレンジショップ入居期間について、もっと柔軟性を持って考えられないかというご質問でございます。

お答えいたします。

この事業の目的は町内へ出店を促すことでありまして、そのため、あくまでお試しの場として提供できるもの、そして1年間という期限を設けさせていただいております。1事業者に長くお使いいただくより、お試しの場を求める方々にどんどん使っていただきたいという思いがありましたので、1年間という期間で行ってまいりました。

入居希望者がおらず、空き店舗となる時期が長くなることは我々も望んでおりませんので、そうならないような形の募集方法について検討していかなくてはならないと思っております。

次に、今後の課題として、この取扱いはどういう方針なのかというご質問でございます。

お答えいたします。

まち・なみ・まるしえは応急仮設建築物であり、建築基準法上は2年3か月を超え存続することができない建物でございますが、福島県復興推進計画で特別措置の対象となり、現在、令和8年3月まで存続を認められております。

また、いずれ撤去することとなれば、中小企業基盤整備機構の仮施設解体補助事業を活用する予定ですので、この補助事業の終期が示されれば、そこに合わせてこれを撤去していくということが自然な形です。ただ、復興推進計画・解体補助事業、どちらも終期が延長され続けているという経過でありますので、その状況の中で最大限、商店の活性化、にぎわい復活という目的に向かって公正・公平な方法で取り扱ってまいりたいと思っております。

以上です

○議長（平本佳司君） 住宅水道課長。

○住宅水道課長（木村順一君） 4の公営住宅についての①入居条件を緩和または撤廃のご質問にお答えいたします。

町内にある公営住宅につきましては、公営住宅法に基づく公営住宅と福島復興再生特別措置法に基づく災害公営住宅と福島再生加速化交付金交付要綱に基づく福島再生賃貸住宅がありまして、そのそれぞれに入居資格要件がございます。

その中で、平成23年3月11日に居住していたことが必須の要件なのが災害公営住宅で、幾世橋住宅団地と請戸住宅団地がこれに当たります。特措法の規定では、この居住要件と当該住宅があった市町村に帰還する方を特定帰還者として、さらに住宅に困窮していることが要件となっております。

今、空き住戸につきましては定期的な募集を実施しておりまして、今申し上げた入居資格要件を満たす応募者が現在も一定数あることから、議員おただしの入居資格要件を緩和することは今の段階では難しいと考えております。

次に、②の今後の住宅建設とあと進捗状況についてお答えいたします。

浪江駅周辺整備計画における住宅建設計画の進捗状況につきましては、今年度において建築基本設計を実施しているところでございます。そのほか公営住宅建設計画につきましては、今のところ新たに整備する計画はございません。

以上です。

○議長（平本佳司君） 5番、小澤英之君。

○5番（小澤英之君） それでは、何点か再質問をさせていただければというふうに思います。

まず、1番の移動期日前投票所についてでありますけれども、これについては前向きな回答をいただいたというふうなことで、具体的な場所等々については検討されて、決めていただければなというふうに思います。これは、今すぐ回答は出ないかと思しますので検討をいただきたいというふうなことで要望いたします。

それから、2番のサニタリーボックスの設置については、まずは本庁舎から設置ということで前向きな回答をいただきました。本庁舎以外にもいろんな方が来られる施設が多々あろうかと思しますので、これについては計画を持って実施をお願いしたいというふうなことであります。

それから、3番目のまち・なみ・まるしえについてですけれども、ちょっと①のほうの回答がイマイチはっきりしなかったんですけれども、お試しの場だよというふうな位置づけだというふうなことなんです。ただ空いている期間がもったいないわけですね、町としては。居住者についても、1年で全部出て、開業というかお店を開くというのは非常に短時間なものですから、やるのがいっぱいあってなかなか1年で全部クリアするという事は非常に難しい部分もあると思うんですね。

ですから、その辺は状況に応じて、こう決めたからこのままずっとやるのではなくして、やっぱりその時々、条件等々を見ながら、やはり町民というかそういった方のためどうしたらいいんだというふうなことも第一に考えていただいて、やはりすぐに考えていただきたいというふうなことです。

それから、2の今後の課題を含めての話で、今のところ令和8年3月というふうな回答がありましたですけれども、では、そこで例えば終わって、解体をして、これに代わるようなものは何か考えているのかどうか、その辺を回答いただけたらなと思います。

それから、公営住宅関係です。どうしてもそういった平成23年3月31日を条件というのを取り外せないということなんですけれども、何年後には外せるのか。その辺の条件の変更はあり得るのか、その辺のご回答をお願いしたいと思います。

以上で再質問を終わります。

○議長（平本佳司君） 答弁者。

産業振興課長。

○産業振興課長（清水 中君） まち・なみ・まるしえが最初に発足するときに、どこにもお店がない、帰る人は帰ってくださいということでは、町に帰る方に対しての生活の買物環境がないということでは、まち・なみ・まるしえをお願いして、出店してもらった方、そうい

った経過もありました。

そのときの状況、そして、そのときとは今は多少違っていますが、なるべく多くの方に使っていただきたい。そして、試してみて、これは自信があったということで、新たに本設の商店をつくってもらいたいという一心で、この整備したものを壊すということを送りにしているものであります。

したがいまして、この1年という期間に関して、これは条例で決めているわけでもなく、運用で決めているわけですから、今後不適当であるならば、これも最初は1年という期間を決めるときに委員会の皆様とお話しして決めたわけでございます。また、この規定は変えるべきだということになったならば、その辺も検討して変えていくべきだと思いますが、ただ、人によってこの場所は1年半、この人は1年ということではできませんから、やはりある程度の期間というものは守っていかないと平等性は保てないと思います。

ただ、その運用の中で募集の方法を考え、なるべくそこが空にならないようにという運用をしていくべきと先ほど申し上げました。今、現に空いているところがあるように一見見えますが、ほぼ実は埋まっています、埋まっている方々、すぐ入ってくれと入ってくればそれはいいんですが、準備まで時間がかかっていると。したがいまして、それで今、空いているように見えるわけですね。

だったら、その方、準備できるまで入れておいてあげてもいいんじゃないかという考えもありますけれども、入る人の予定によって、前の人の方が長くなったり短くなったりということも不平等だということで運営してきた訳でございますが。ただ、よく考えるとおり、フレキシブルな対応の変更は必要であると私は認識しております。

それから、令和8年の解体すべきときが来た場合に、さらにこれを解体しないで修繕を加えて残すべきだという状況であれば残さずし、こういったものは必要ないという状況であれば壊すべきだと思いますので、そのときのやっぱり商業の状況を踏まえて、令和8年の段階、もしくは解体すべき、もう壊すのにお金かかるよと、補助金出ないよとなったとき、そのときに改めて考えたいと思っています。今のところは最大限これを使って、町にお店をいっぱい来ってもらうというもののために活用すべきだと考えております。

ちょっと支離滅裂な答弁で申し訳ありません。

○議長（平本佳司君） 住宅水道課長。

○住宅水道課長（木村順一君） 再質問。条件の緩和についての質問なんですけど、先ほど私が申し上げました災害公営住宅の要件の中で、23年3月11日に居住していたことと、あと市町村に帰還する方と、

あと住宅の困窮している方というこの3つの要件は、帰還したくても帰還できない方、住宅がなくて帰還できないとか、帰還困難区域でまだ指示解除になっていないので帰還できないといったことがあると思っています。この方々が住みたいということで応募してくるという一定数ある場合は、まだその条件は緩和できないと考えています。ただ、この数が少なくなってきたときには、関係機関と協議しまして緩和することを考えています。

以上です。

○議長（平本佳司君） 5番、小澤英之君。

○5番（小澤英之君） すみません、2点ほど再々質問をさせていただきたいと思います。

このまち・なみ・まるしえなんですが、フレキシブルで対応を検討していくというふうな回答がありましたけれども、やはりすぐそれは、できれば実行していただきたい。要するに、これから検討していつからやりますじゃなくて、すぐ対応をしていただければというふうに重ねて、これはお願いです。

それから、住宅関係ですけれども、駅前構想の今、基本計画をやっていると。そのほかは今のところ検討していないというふうな回答がありましたけれども、今の問題、要するに住もうとしても住めないんだというふうなところを、じゃ、それをどうするんだというふうな考えですね。それが必要なのかなど。今は基本計画でやっている段階だよ。こっちは全然考えてないよ、じゃなくて、それを今の問題をどういうふうに解決するためにどうしたらいいんだというふうなところの回答がいただければなど。

○議長（平本佳司君） 暫時休憩します。

（午後 1時44分）

○議長（平本佳司君） 再開します。

（午後 1時45分）

○議長（平本佳司君） 住宅水道課長。

○住宅水道課長（木村順一君） 再々質問にお答えいたします。

今の状況は、第2次の復興計画上は、請戸住宅団地までで計画上は完了していると考えております。今やっております中心市街地整備と、あと津島住宅につきましては、復興計画第3次の中で浪江駅周辺を核とした中心市街地の整備、あと帰還困難区域の再生ということで、この部分に順次対応をして建設計画を立てた次第でござい

ます。

建設はすぐに計画できて、すぐ建つような状況ではないことから、この代わりといたしまして、所管は住宅水道課ではないんですけれども、企画のほうで浪江町移住者向けの住宅支援事業、簡単に言えば家賃の一部を補助する事業をしております。こういったソフト事業で緊急的な部分是对応できるのかなと、そういうところで支援していくということでご理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（平本佳司君） 以上で、5番、小澤英之君の一般質問を終わります。

◇ 松 田 孝 司 君

○議長（平本佳司君） 次に、12番、松田孝司君の質問を許可します。

[12番 松田孝司君登壇]

○12番（松田孝司君） 12番、松田孝司と申します。

議長の許可を得ましたので、一般質問を行いたいと思います。

質問方式は今までどおり一問一答方式で、質問事項は通告書に沿って質問をさせていただきたいと思います。

一般質問ももう2年3か月ぶりとなり、町長をはじめ、このメンバーも大分変わった環境で質問をさせていただきたいと思います。

私はふるさとに戻って4年と5か月が過ぎました。その生活をして感じたことや同じくふるさとで暮らしている方の思いを少しでもとの気持ちで質問したいと思いますので、よろしく申し上げます。

まず、町内生活環境についてですが、まず居住人口。

先ほど高野議員も言いましたが、8月末で1,909人、9月で1,917人、10月末で1,932人となっています。もし分かれば、11月末で今現在居住されている人は何人か、世帯は何世帯か。そのうち、東日本大震災、原発事故避難で避難した方のうち、帰還されている人は何人で何世帯となっているのかと、通告書を提出してから担当の方から電話があり、避難した方で帰還されている人数はホームページに載っているとのことでした。

私も古希を過ぎアナログ世代でデジタルに疎いもので、ホームページをいろいろ探してみましたが、なかなか見当たりませんでした。ホームページのどこに記載されているのか、そして、そこに記載された町内に帰還されている方は何人かお伺いしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） ご質問にお答えいたします。

最新の居住者数というおたがしでございます。令和4年11月時点

の町内の居住者は1,189世帯、1,934人でございます。そのうち震災時に住民登録をされていた方は1,336名でございます。世帯の把握はしておりません。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 住民課長。

○住民課長（柴野一志君） 私のほうからは、ホームページの位置のほうをお伝えしたいと思います。

ホームページの右側のほうにずっと下がっていただくと、浪江町の今というところがございまして、そこに住民基本台帳の数、それから浪江町に住んでいる居住者数、それからちょっと下に行きますと、町民の避難状況ということで、こちらは3月11日、いわゆる震災発災当時に住民だった方が、今現在どこに避難をされているかを記載した表となっております。避難とは書いてあるんですけども、これは浪江町に戻ってきている方も含めて、それぞれ福島県内のどこどこ町、どこどこ町、それから何々県、何々県何人ということで内訳を記載しているところでございます。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） 私も、福島県内から都道府県と県内の各市町村の町民避難状況に1,336名入っているの分かっていました。ただ、そうすると私たちはいつまで経っても戻って生活している避難者なんですか、逆にいえば。結局この表は、総務省の全国避難者情報システムに各市町村から総務省のほうに出すと思うんですけども、私たちはふるさとに戻ってもいつまでも避難者という待遇でいいんですか、逆に。これ、ちょっとおかしいんじゃないですか。その点、どう考えているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 住民課長。

○住民課長（柴野一志君） 浪江町に戻っていらっしゃる方も避難者と位置づけていいのかというようなご質問だったと思います。

こちらはあくまでも、その3月11日に住まわれていた方が、実態としてどこにいらっしゃるかというのを、分母を等しくして居場所が分かるように表したもので、議員がおっしゃられているとおり、浪江町に住んでいらっしゃる方も避難者と定義づけて表したものではありません。あくまでも任意でそういう言葉を使ってしまっているのは紛らわしいところではございますけれども、任意で表したものでございますので、そういうご理解をいただければと思います。

なおですけれども、今話されたとおり、そういった取扱いについて間違い、あるいは問題を生むようなことがあってはならないと思

いますので、そういったところについては、もうちょっと丁寧に分かりやすく何かこう説明を入れるとか、タイトルを変えるとか、そういった努力をするような形で検討してまいりたいと思います。

ほかの自治体や、それから総務省とか、関係関連する団体もございますので、その辺の整理をし、検討に入りたいと思います。よろしくお願いたします。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） 平成27年2月3日の参議院の答弁書に入っています避難者の定義、東日本大震災に伴い、平成23年3月11日現在の住所地を離れて避難している者、外国人住民を含むとなっています。住所地を離れている人。だから住所地を離れて戻った人は避難者に入らないんですね。だから、この表に全部入れるのはいかがなものかと思います。確かに浪江町にこういった方が、生まれ育ったところから離れて町営住宅に入っている人、確かに避難している人います。やっぱり、この差は空けておかないと、丁寧な説明といかないんじゃないかと思います。その点、何か工夫してもらえないですか、どうですか。

○議長（平本佳司君） 住民課長。

○住民課長（柴野一志君） おっしゃるとおり、これは町としての思いとして出しているもので、見られ方の違いはきっと出てくるのかと思いますので、誤解を与えないような、そういうような出し方をしっかりとしていきたいと思います。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） その点、よろしくお願したいと思います。

次の質問に入りたいと思います。

今、役場に移住定住に向け、定住推進係がありますが、帰還には何もありません。ただ、町全体で取り組んでいるといわれればそうかもしれませんけれども、先ほども言ったように、移住定住よりか、帰還者は少しずつ増えてはいるんですね。何かこういう避難指示の一部が解除されて、5年と8か月となっていますけれども、勘違いかもしれませんか、本当に帰ってくる人は、私ら帰ってきたときには月に40人平均で帰ってきているんです。今は先ほど言った8人、10人って少なくはなっているんですね。ただ移住定住者を重視するのもいいですけども、帰還される人をどう増やしていくか。今まで町では町民の帰還者増に向け、どんな対策をなされているのか。そして、今後こういった対策・取組を講じる考えなのかお伺いしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） ご質問にお答えいたします。

町としては持続可能なまちづくりに取り組んでおりまして、このためには帰還する方を増やすこと、移住者を増やすこと、この両輪を継続しまして居住人口を増やすことが必要と考えております。

これまでの帰還者増に向けた取組につきましましては、特に医療・介護・商業施設が、住民意向調査において必要な生活環境として求められておりましたので、浪江診療所の開設、イオン浪江店の出店、そして、本年7月からふれあい福祉センターにおいて介護事業が開始されるなど、生活環境整備に重点を置いてまいりました。

また、これからの対策や取組につきましましては、浪江町復興計画第3次の施策が基本となりますが、町全体として魅力を向上させるということが帰還の促進につながると考えておりますので、その取組の継続・強化を図りつつ、また来年春に解除が予定されております特定復興再生拠点区域への取組なども進めてまいりたいと考えております。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） 町の考えは分かりますが、今年、浪江町へ帰還される方への帰還のためのガイドブックも出ました。確かに分かりやすくなったと思います。私らが、戻ってきた頃は何もなくて、かえって聞かれるので何とかしてくれと私は質問した記憶もあります。ただ、これに乗じて、このプラスアルファ、コミュニティづくりは根本になると思います。そして、役場職員一人一人がもう自分は帰還担当だって、そういう意気込みを込めて取り組んでほしいと思います。

今、係をつくる状況ではないと思いますね。今、F-R-E-Iとかいろんな町内で駅前開発も進められて、もう係をつくる状況ではないと分かります。これから、本当に一人一人が帰還に向けて、みんなこれだけ整っているんだって、そういう声かけをするなり、やってほしいと思います。

次の質問に入らせていただきます。

次は行政区について。以前、町からの説明では、行政区体制は当分現状のままの行政区域とのことだったと思います。ただ、行政区によって、避難前の半数近く戻っている行政区と、私の住んでいる行政区のように幾らも住んでいない行政区もあり、行政区としてはもう身動き取れない行政区もあります。来年度で避難指示解除から7年目に入りますけれども、そういった帰還者の少ない行政区について、今後どういった取組をする考えなのか、お伺いしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 総務課長。

○総務課長（横山秀樹君） ご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、行政区長の皆様からは、帰還者が少なく従来のような行政活動が難しいというようなご意見を多くいただいております。こうした状況に対応しまして、町ではコミュニティ再生支援事業や行政区活動補助金等により、コミュニティの再生に向けた行政活動を支援推進しているところでありまして、今年度に入ってから、既存の住民の方と震災後新たに移住されてきた住民の方とで防災組織の設立に向けた活動が生まれたところもございます。今後もこうした活動が活発化し、町内コミュニティの再生が図られるよう、町として必要な支援を行ってまいります。

また、その一方で、行政区の再編について検討を進めることも必要と考えておりますので、今後、行政区とともに話し合いを進めながら、将来的な行政区の在り方をまとめてまいりたいと考えております。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） 分かりました。まず、今、各地に防災コミュニティセンターができています。まず、それを中心に地区単位で懇談会とかやって、そして、みんなやっぱり隣部落で誰かって分からないわけですね。だから、地域ごとに集めて、それから今後、町が、町民の意見を聞く場も必要ではないかと思えます。そういう考えはないですか。せっかく、地域防災コミュニティセンターを造った意味がないと思うんですね。それで、地区で懇談会とかやるべきだと思いますが、そういう点は検討する考えはないですか。

○議長（平本佳司君） 総務課長。

○総務課長（横山秀樹君） 今後、検討してまいりたいと思えます。

○12番（松田孝司君） 次の質問に入ります。

令和3年度には青根場用水路に通水すると言っていたような気がしますが、少し遅れているようです。そろそろ町の南部、青根場用水路などに通水が開始するのかなと思います。

先ほどの質問に言いました私の行政区には帰還している人は少ないです。用水路に水がくれば自然に排水路にも水が流れます。毎年のように全国各地で線状降水帯が発生し、何十年、何百年に一度という災害が発生しています。そして、隣の行政区は帰還困難区域です。以前質問した際には、令和3年度にはゲート開閉などの管理をする人を決めたいと言っていたと思えます。

青根場用水路など、町の南部への通水はいつになるのか。そして、帰還困難区域を含め、用排水路の整備やゲート開閉管理などどうな

っているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えいたします。

青根場用水路を含む県営かんがい用排水路について、大柿ダム幹線水路の漏水の影響により、通水が困難な状況が続いておりましたが、復旧工事が進み令和5年度当初には通水できる見込みとなっております。

幹線水路より下流の農業用排水路等については、営農再開意向に応じて順次復旧することとしております。原則的には町が管理者となっている農業用施設、例えば水門とかの操作については地区と協力していくこととしておりますが、地域の水路等や水路の維持管理や大雨等のゲート開閉については、基本的に従前どおり地域の方々をお願いしたいと考えております。

しかしながら、当面、地域の管理が困難な状況も考えられますので、町としても地域の状況に応じ対応してまいりたいと考えております。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） 通水が始まっては遅いんです。通水に入る前にきちんと、用排水路のゲートのどこを閉めればとか、町と地元で確認しないとどうしようもないと思います。いざ大雨があつて、そしたらどうするんだと騒いで、結局、被害に遭わなくていいところが被害に遭うという場所が出てくるんですね。ゲートの開閉で。だから、もう通水する前に検討していかないと駄目だと思います。まず、通水することによって、現状、道路の両脇の用排水路、水が冠水、あふれます。これ、人が少ないところはもう身動き取れません。もう事前にそういう対策をどうすればいいか取ってもらわないと、通水して、かえって逆に困る場合が出てきます。だから、何とか通水前にそういうことを決めることはできないですか。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） 今、おただしいただいたように、通水前の確認が大事だということをございますので、地域の関係者の方と相談をしっかりしていきたいと考えております。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） 私ごとですけれども、田んぼの突堤、やっぱり地震で崩れ落ちて、こんな大きな石で自分ではどうしようもないですね。震災前というのは、自分の農地の隣の草刈りとか用排水の水路はみんな各自でやっていました。だから、町の負担なく景観がいい状況だったと思います。今は帰っている人は少ない。少ない中

で自分だけやるわけにいかないんですね。かといって、全部もできない。だから、そういう、今は町で草刈りとか年に2回とかやっていますけれども、常にそういう管理をしておかないと、火災になったときに水来なくなります、逆に、水路が詰まっていたりして。

もう水路の点検って、毎日のようにやっていないと駄目だと思います。だから、通水入ってからじゃなくて、先ほど言ったんですけれども、自然にもう細かい取組をしないと駄目だと思います。その点、よろしくお願ひしたいです。

災害が起きてから、私きつく言いますからね、あのとき言ったべって。だから、ぜひそうならないように、何とかしてもらいたいと思います。半数以上、ある程度帰っているところはその部落でもできますけれども、私らのところで帰っているのは高齢者だけですね。だから、こういう中でできるかって、雨の中、そういうところへ行けないですから。よろしくお願ひしたいと思います。

次の質問に入らせていただきます。

駅周辺整備について。

ふれあいセンターなみえなどが完成し、今後、駅周辺グランドデザイン基本計画が発表され、令和8年度事業完了を目指して町では取り組んでいることと思います。そして、福島国際研究教育機構が駅の南西に決定し動き始めています。

これから、県内外から多くの方が、町・駅周辺を訪れることと思いますが、これから東西自由通路の早期完成が一番望まれているのではないかと思います。東西自由通路について、現在JRとの交渉はどうなっているのか、お伺ひしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 建設課長。

○建設課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えいたします。

現在、東西自由通路・駅舎の整備に関する基本協定締結に向けまして、施設の位置・規模などの基本的な事項についてJRと協議を進めているところでございます。協議を迅速に行い、基本協定を早期に締結できるように努めてまいります。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） 私も土木の現場監督をやっていたから分かりますけれども、あの基本計画、駅の東西に分かれて同時進行はできません。かといって、一番重要なのは東西通路です。片方は通行止めになっても、片方からJRの乗り入れができます。これをするには、やっぱり東西通路を早く開通しないとどうしようもないと思います。

だから、そういう方向で何とか東西通路をJRとの協議、進めてもらいたいと思います。早期着工できるようにしてもらわないと、

これからやっぱりいろいろなお客さんが来ると思います。ふれあいセンターとか利用する人も多くおられます。高齢者も多くて、どうしても不自由な方もおられます。F-R-E-Iにもそうだと思います。今日まで元気でも、明日けがなどして動けない人も、仕事などで訪れる方も多くおられると思います。ぜひとも早期開通に向け、町でも取り組んでほしいと思います。

次の質問に入りますけれども、福島国際研究教育機構について、10月に復興庁から全員協議会で説明がありました。そこには数百名の方が研究に携わることですけれども、将来はかなりの人が町内に住むのではないかと考えられます。その際、研究者・職員などの住居に関して私が質問したところ、それはまちづくり、町の仕事だからと言われました。福島国際研究教育機構に関わる研究者・職員などの住居を町ではどう考えているのかお伺いしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 成井副町長。

○副町長（成井 祥君） ご質問にお答えいたします。

住宅につきましては、浪江駅周辺整備事業において、公営住宅と民営住宅を整備する計画としておりますが、現時点において、国から当町に居住する福島国際研究教育機構の研究者等の数については、具体的にまだ示されていない状況でございます。

今後、国が取りまとめします機構の施設基本計画や研究内容などを踏まえ、民間事業者の力を借りながら、研究者等が居住したくなるような魅力あるまちづくりに努めてまいります。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） 民間業者アパートなどですけれども、駅前開発の工事関係者、今度、F-R-E-Iの工事関係者のほうで、もう悪いけれども余裕がなくなるんじゃないかと思います。今の住居環境では。民間の空いている家をちゃんと空き家対策をしっかりと、そういうところを借りるとか、そういう手段も兼ねてやっていかないと大変だと思います。

数百名とあって、県と協議もあると思いますけれども、現実的に今の住居環境に合わせると、早期に何とか取り組まない大変ではないかと思います。いろんな方法を用いて。ただ、今、町では外国の希望者により、講習会も始まったと聞いています。外国の方も多く研究者がおられると思います。そういう方にアパートの狭い部屋に住むというのは大変ではないかと思います。都会的なマンションとか一戸建てとか、そういうのをやっぱりその人たちに合わせた造りも必要ではないかと思っています。町では、小学校跡とか公共施設の用地はいろいろあると思います。だから、町でそういう県との

協議を含めて取組をしていくべきではないかと思っていますけれども、その点どう考えますか。

○議長（平本佳司君） 成井副町長。

○副町長（成井 祥君） お答えいたします。

まず、現状についてでございますけれども、当町の住宅事情につきましては、解体や除染などの復興事業の進展に伴いまして、アパート等に空き室が見られるようになってきた状況でございます。この点につきましては、不動産管理会社にもそのような状況にあることを確認しているところでございます。

議員ご指摘のとおり、今後、国際研究教育機構の立地により、多くの研究者等が本町へ居住することが見込まれますことから、住宅事情に的確に対応できるよう、民間事業者の力を借りながらしっかりと取り組んでまいります。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） 町として魅力あるまちづくりも必要なのかなど私は思っていますけれども。いつまでも民間民間、ただ箱物造って、あとの処理を考えるのは、これもあると思います。ただ、研究機構というのは次から次へ変わっても入る可能性もあると思います。逆にそういう、このF－R E Iに合わせた民間住宅を造るのも一手かなど私は個人的には思っています。みんなばらばらにするんだったら、やっぱり、F－R E Iの団地みたく造るのも一手かなど。というのは、あくまでも県と国との協議だと思っておりますけれども、そういう交付金をもらってこういうのができれば最高だと思っています。

次の質問に入ります。

駅周辺グランドデザイン基本計画が示されましたけれども、当初の計画からスポーツセンターなどが増え変更されましたけれども、今後、旧浪江小など基本計画の敷地を増やす考えはあるのか。浪江駅周辺整備計画では、浪江駅周辺のにぎわいをつくり、その効果を中心市街地全体に普及させ、町の活性化を図ることを目的となっていると伺っています。中心市街地全体に普及させるということは、隣接の民間の方もその計画に沿った住宅を予定しているかもしれません。浪江駅周辺整備計画の隣接地などに景観条例などを検討する考えはあるのか、お伺いします。

○議長（平本佳司君） 建設課長。

○建設課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

地域スポーツセンターと中央公園につきましては、隣接する民地を取得し、一体的な利活用を図るために、事業区域に追加する方針で手続を進めております。

一方で、議員おただしの旧浪江小学校跡地につきましては、既に町の土地であり、また利活用について今後整理を行うものであることから、現時点では事業区域に含める検討は行っておりません。

続きまして、景観条例につきまして。

景観条例につきましては、浪江駅周辺グランドデザイン基本計画に合わせて、事業区域周辺についても景観行政の観点から何らかの整理を行う必要があると考えております。

その際、施策の効果、実施までに必要な期間、お願いすることになる規制などの点から、条例になるか、協定になるかを総合的に判断してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） 安心しました。やっぱり、結局その場所を広げるのも町として観光的にもいいと思うんですね。そこだけで収まって、隣が派手な家ができたりするのには、それに合わせて造って、その敷地を広げるという考え、私はいいと思っています。まあ、どうなるか分かりませんが、今後、町の人も考えが変わるかもしれない。そういう方向でよろしくお願いしたいと思います。

次、文化財について、教育長に質問させていただきます。

文化財について、町内には様々な文化財、史跡、旧跡などがあると思います。例えば、旧大堀小の南東の角には土井晩翠、元はつちい晩翠ですがけれども、土井林吉先生の碑文などがあります。あと高瀬には筑前藩士の墓や高瀬の清水など、そのほかにも数々、町内には史跡・旧跡などが貴重な文化財があるのではないかと思います。

ただ、看板も掲示の標示もない。結局、何だこれかと現場で思っているのでは困ると思います。現地の文化財なのに、案内標柱や説明文、案内文などの看板設置などがあれば、より多く、その施設に触れると思いますけれども、どう考えているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） ご質問にお答えいたします。

国や県、町の指定となっている文化財につきましては、震災前より、それぞれに所有者または管理者と相談しながら、説明看板などの設置を行ってまいりました。今後、調査をし、修繕等が必要な場合は対応をしてまいりたいと思います。

指定文化財となっていないものにつきましても、所有者また管理者が看板設置を希望される場合には、浪江町文化及びスポーツ振興育成事業で設置費について助成ができますので、ご案内をしていけ

ればと思っております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） 土井晩翠先生のところ、あそこ説明文も何もないんですよ。あれは昭和10年2月11日に小野田橋のコンクリート橋の開通式のときに、土井晩翠先生が現地に来て開通式に立ち会ったそうです。だから、そういう説明文を入れて、そこに小さな説明板でもあればいいのかなと、私は前から思っていました。

あと、スポーツセンターの駐車場、あそこは浪江森林組合の貯木場跡です。あそこは葛尾村から落合浪江線を通して、浪江新鉄道という、16路線、総延長65.8キロで、県内で一番のトロッコ鉄道です。そういうのも、せつかく町の町有地なんですから看板ぐらいあって、こういうのが昔あったんだよと、こういう説明文を入れて町民に知らせるのも一つの手だと思います。だから、私、散歩好きでいろいろ、大体、町内全部歩いているんですけども、看板がないんです。確かに藤橋は結構看板多いんですけども、あとはどこにも看板ありません。そして、あと西台のお墓に行くと分かりますけれども、あれは、いわき相馬街道のトミサカという、あれ何か坂らしいんですね。そういうのも、ここの謂れ、そういう説明も入れて観光地を増やすのも一手かと思えます。私たちは現在・過去・未来、現在を中心として、この現在の位置、結局過去となって、碑、歴史に残るわけです。昔のもの、歴史を大切にしておいて後世に残すのは私たちの務めだと思います。そういう考えはないですか。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） はい、ご質問にお答えいたします。

今、松田議員からおたただしいただいた各場所につきましては、その指定の文化財になっていないものでございますので、震災前よりその案内看板等の設置はされていなかったところでございます。

今、ご指摘のとおり、いろいろ各所、いろいろな場所に石碑等々がございます。その数がかかなり多いところで何百、何千というような単位であるような状況でございます。全て設置することについてはかなり厳しいところでございますので、こういったものについて、それぞれ管理者・所有者がおりますので、そういった方々にご協議いただきながら。

また、浪江町のその文化財指定につきましては、学識経験者で構成する委員会を構成しております。そういった方々のご意見を聞きながら、今後検討をしてみたいと思っております。よろしくお願いたします。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） それに関しますけれども、そのほかに名所旧跡あると思いますけれども、史跡観光マップなどを作成してあるのか、そして、なければ今後作成の考えはあるのか、お伺いします。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） ご質問にお答えいたします。

震災前になりますますが、町内の有形・無形文化財や埋蔵文化財の分布などを示した浪江町文化財分布図を作成しております。ご承知のとおり、現在、埋蔵文化財の発掘調査が進められていることもあり、新たな包蔵地も確認されておりますので、埋蔵文化財発掘調査の進捗を見ながら、浪江町文化財分布図の改訂を検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 12番、松田孝司君。

○12番（松田孝司君） ふるさとに帰っている人って、結構、こういうマップがないのかなと言っている方もおられるんですね。あと、社協の方とか、いろいろな行事をやるにしても、歩くことはいいことです。だから、例えば権現堂なら権現堂地区内でやっぱりそういうマップがあれば散策できることも自分の体にいいです。

先ほども歴史巡りとか、その地区ごとにそういうコースがあればいいのかなと私は思っています。家の中に閉じ籠っているより、やっぱり外の空気を吸いながら、みんなとにぎわいを保つのも住みやすいふるさとの礎となるのかなと思っております。自然と触れ合うこと、これを基本的にもっともっと町でも努力してほしいと思います。大丈夫ですか。そういったようなのがあれば。

○議長（平本佳司君） 教育次長。

○教育次長（蒲原文崇君） はい、ありがとうございます。

震災前も例えば生涯学習事業で、地域の方とその場所を、古き自分たちの地域を勉強しようというサークル活動により、マップを作成した実例がございます。そういった生涯学習の取組も交えながら、今後はやっていければなというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（平本佳司君） 以上で、12番、松田孝司君の一般質問を終わります。

○議長（平本佳司君） ここで14時40分まで休憩します。

（午後 2時21分）

○議長（平本佳司君） 再開します。

（午後 2時40分）

◇ 佐々木 茂 君

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君の質問を許可します。
8番、佐々木茂君。

[8番 佐々木茂君登壇]

○8番（佐々木茂君） 8番、佐々木茂です。

一問一答方式で質問をさせていただきます。

まず、F-R-E-Iということで、研究教育機構がこの町に立地することになりました。それで、この町は一番大変なことをやっているようにしています。それは、研究機関は、これは国の仕事ですけども、住宅政策についてはどうしても町が中心になって関わっていかなくちゃならない問題だろうと思っています。国の一部では住宅環境の整備、さらに外国人研究者のための住宅政策、快適な浪江町の暮らしを求めるということ。もう一つは、この町でいろんな外国人の研究者が来るわけでありまして、語学教育の充実、これが非常に大切だということでもあります。

そこでご質問させていただきたいと思います。

研究教育機構の仮事務所が来年4月開所ということを知っていますが、約50名の職員が町に在住するとも聞いております。約50戸の住宅の確保は今の時点で可能なかどうか、それをお聞きしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 成井副町長。

○副町長（成井 祥君） ご質問にお答えいたします。

福島国際研究教育機構の仮事務所につきましては、来年4月の開所に向け、国において準備を進めているところでございます。来年4月の時点で何名の職員が常駐することになるかについては具体的にはまだ示されておりませんが、国に対し町内の不動産事業者を紹介しているところでございまして、現在のところ、住宅が不足しているとの情報はございません。引き続き、国と情報共有を図ってまいります。

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 分かりました。

それでは、先ほど申し上げましたけれども、研究者の外国人も含めた研究者の家族が、この町に住んでいただくということで、どうしても良質、良好な住宅環境を含めた住居の確保というのが必要になってくるかと思っています。

先ほど松田議員からも同様の質問がございましたが。私は、やはりウサギ小屋なんて言われているようなところに閉じ込めたのでは、この町のイメージが悪くなるんだろうと思います。

そこで、実際は川添でもどこでもいいんですけども、空き家が非常に目立つようになりまして、隙間風が吹いているような町になりました。そこで、大規模な区画整理、分譲ないしは賃貸、そういうような形で、町が当然関わっていかなければならないというふうに考えております。

そこで、住宅政策について、整備についての考え方をお聞きしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 成井副町長。

○副町長（成井 祥君） ご質問にお答えいたします。

国際研究教育機構の基本構想によりますと、50程度の研究グループ、数百名の研究者が機構の研究に参画されると聞いておりますが、現時点において、その研究者の数、内容、時間軸言わばどのぐらいの研究者が当町に居住するかについては把握できていないのが現状でございます。そのため当町へ居住することが見込まれる研究者等の数について、今後の見通しも含め、早期に国に示すよう求めてまいります。

町といたしましては、引き続き、町内の住宅事情の把握に努めるとともに、今後も変動する住宅事情に的確に対応できるよう、民間事業者の力も借りながら、しっかりと取り組んでまいります。

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 分かりました。

これは、何百名というか、四、五百名を予定しているのかなとは思っていますので、それに見合った住宅の確保が。例えば、浪江町に来て住宅がないから原町に住むとか、いわき市に住むとか、そういうことでは、この町の人口増加がなかなか図れないのではないかなと思っています。

先ほども、行政報告の中で町長が、2040年の問題というものを提起されました。浪江町だけが、今年的人口が増えていけば、ほかの市町村のことまでは考える必要ないのではないかとこう思っています。お互いに切磋琢磨して、お互いの行政単位で頑張っていけばいいわけで、この浪江町から、まず住んでもらうということが一番大事なのではないのかなと、こう思っておりますし。

また、町長が前ちょっとした話で、子供が欲しいと。この行政の公共施設というのは、やはり子供たちが中心になって運営されていくものだろうと私は常々、基本的にはそういう考えに大賛成であり

ます。そのためには、そうした子供さんがやっぱりこの町で一人でも多く住んでいただいて、ここに定着して、次の世代を担っていくという、そういうまちづくりの考え方が私は根幹に必要であろうと、こう常々に考えております。

私も現在、石倉団地という団地のところに一応、仮住所は置いてありますけれども、団地で管理人などをさせていただいております。

実は、あと3、4年、5年後となるんですかね、一応、復興公営住宅となっておりますけれども、ここは、実質は県営住宅です。あと4年ぐらい経つと、年金生活者、障がい者においても、多少の減免はあるのかと思いますけれども、原則、無職であろうと何であろうが3万9,500円が最低金額になります。

大分、県と私個人でやりあったんですが、どうも頭の固いでっかちな人が多いもので。みんな震災後、12年年取ったんです。ですから、あの当時は若くても、今、年金生活者とかそういうのがどんどん多くなっています。さらに、復興公営住宅に住んで頑張っている若い方々が非常に多いんですけれども、頑張れない方もいらっしゃいます。お年寄りを抱えるというか、親が年取ったもので、親の面倒を見なくちゃいけないと、こういう方々も非常に多くて、何であの人働かないんだらうと思ったら、実は親の面倒を見ているから仕事に行くことができない、こういう人たちも多いと思います。

私が話を聞くところによると、県はいろいろなケースをかけて、1か月に幾らという数字を出してきています。それは15万7,000円以上の所得のある人は県営住宅から退去の準備をしてくださいという通知が入ります。15万7,000円的生活費で、家族で住んでいる人たちが生活できるわけがない。年収によって県営住宅には入るわけでありましてけれども、毎年毎年、その町から所得証明書をいただいて県に提出をし、翌年からまた上がっていくというやり方なんですけれども。

先日も私の管理する方の中から、実は働けば働くほど上がっていくので、ここを出ますということで挨拶に来ました。「どこに行くの？家を建てたの？」と聞いたら、「とんでもないと。アパートに移ります。」と。これより条件が悪くなるんじゃないか、でも所得証明書を出すことはない。さらにそのほうが2年に1回の更新だけれども、別に入居費が上がるわけでもないということで、そちらのほうが将来的に考えていいんだというお話で、ちょっと残念だけれども、こうしたところまで県は目が行っていないと。

それで、3番目の質問として、駅前再開発に伴う集合住宅が2棟、計画、ビジョンに入っております。1つは民間、1つは公営住宅

ということで、実はもう浪江町の公営住宅の入居条件が、県営住宅よりよければ、年を取ったかもしれない、町に迷惑をかけるかもしれないけれども、俺は町に戻るぞという人たちも出てきました。いつできるんだと。早ければ早いほどいいんだというようなお話もいただいておりますので、公営住宅に対する入居条件というか、要件というか、これをちょっと教えていただきたいと思います。

○議長（平本佳司君） 住宅水道課長。

○住宅水道課長（木村順一君） 条件のことについてのご質問にお答えいたします。

駅前には、福島再生賃貸住宅の整備を計画しておりますので、主な入居資格要件は、所得が月額48万7,000円を超えない方で、かつ平成23年3月11日に町に居住していた方、もしくは町に移転する方となっております、ほかに町税等滞納がないことなどがございます。以上です。

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） ありがとうございます。

所得制限というか、県営住宅のほうが15万7,000円、町は45万幾らという話が出ました。大変ありがたい。若い人が戻ってくる機会になるのではないかなと、こう思います。

さらに、親を抱えている世帯にとっては、浪江町も一番大切なのはお医者さんがいること、あとはスーパーとか、少し交通の便がよければそういう機会が出てくるのではないかなという考えを持っています。それがいいかどうか、それは分かりません。ただ、そういうウエルカムというか、迎えてあげる、ふるさとに帰られる機会を町が考えていただくということは、私にとってありがたいことなので、そういう見方でやっぱり検討課題の中に、頭の中にちょっと片隅に入れていただければと思います。

実は、先々月かな、先月かな、全員協議会として東京電力のほうにお伺いしました。原発を見学に行ってまいりました。帰り際に議長も言ったらしいんですが、私もオノさんという方に言いました。大熊町の今あるところ、大川原の北側に廃炉関係の職員及び関連会社の方が2,000世帯、住宅団地を形成するという話を聞いています。そこで、私はオノさんに帰りがけだったんですが、浪江町に若い職員でいいから500人ぐらい住める住宅を造ってくれというお話をさせていただきました。オノさんは「昔は浪江町に家族の西台に住宅がありました。浪江町さんには大変お世話になってます。そういうこともあれば検討をさせていただきたいと思います。」とよしなにといいことは町長にお伝えくださいというような話なんだろうと

思っています。

そこで町長にお尋ねします。

東京電力の廃炉に関わる作業員の方々の住宅団地形成のための誘致活動をする考えがおりかないか、ぜひお願いしたいと思っておりますので、お答えいただきたいと思っております。

○議長（平本佳司君） 総務課長。

○総務課長（横山秀樹君） ご質問にお答えいたします。

今後、廃炉作業が本格的に開始されるに伴いまして、多くの廃炉関係職員、作業員の方が現地に入ってくることになり、近隣町村を含め住宅需要が高まっていくことが予想されます。

こうした職員、作業員の方に浪江町に居住していただくことは、町の居住人口の拡大、そして、町の活性化を図る上で大きな効果をもたらすものと期待されます。

東京電力あるいは関連事業者等でそうした計画等があるのであれば、関係部署と連携の上、誘致等を図ってまいりたいと思っております。

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） ありがとうございます。

私ね、どうしたら、トラウマのように、町長から子供が欲しいと言われた。それが子供を増やして町内の人口を増やしていくということにつながるのではないかと思います。所長じゃありませんけれども、オノさんに聞いたわけですよ。議長も多分同じような趣旨でご発言されているものかと思います。

ですから、何とか原発で大熊や双葉だけが被害を受けたんじゃなく、あつちは直接被害、我々は間接被害、放射能というだけで。ただ、敵だ、味方だなんていつまでもやっつけていられないから、東京電力さんの力があれば、この町を、やっぱり元通りの人口復活のために、一助を担っていただきたいというのが私の考えです。

ですから、やっぱり浪江町さんにお世話になったと向こうが言っているんだから、お願いしますと言ったら検討したいと思っておりますと言っているわけだから、やっぱり言う価値はあるのではないのかなとこう考えておりますので、よろしくお願いしたいと思っております。

語学教育についてなんですけど、先ほど最初に申し上げたように、外国人の研究者、多分、浪江町から、ノーベル賞が出るんじゃないかとこう考えております。そうした外国人の方々に対して多言語教育というのが、やっぱりこの町の大きな課題であると。国の知らない人たちがわあわあ言っています。

そこで、私は教育長にお願いを、お願いというか質問をさせてい

ただきますけれども。

まず、英語教育をしっかりする。これ、山崎議員からも出ました。英会話、例えば小中学生でもう会話が完璧にこなせるぐらい、大体、中学3年生で英検準2級ぐらいまでは取得できるような英語。さらに、教育長の先ほどのご説明の中でも、英会話とかいろんな英語教育はやっていますというよりも、徹底して英語だけの授業を徹底してやっていくと。この町がほかの町より何かすごいぞと言われるのは、子供たちが英語をしゃべられることぐらいしか方法がありません。ということは、この町に来て勉強したいという子供たちが増えてくる可能性もあります。

それで、語学教育というのは、私も教育というのは知らないわけじゃありませんので。英語を覚えるためには、勉強するためには、国語教育、これも大事です。この両輪となっていけば、将来研究機構で、例えば翻訳とか補助とかそういうものをできる子供たちが増えてくれば、地元に着しやすくなると思います。

ですから、しっかりした英語教育をやると。やっていただきたいし、この子供たちが将来受験のときも、英語なんていうのはもうみんな100点取れるとなれば、ほかの勉強をすればいいわけで、優位な人材を育てる可能性があると思いますので、その点について、教育長のお考えをお聞きします。

○議長（平本佳司君） 教育長。

○教育長（笠井淳一君） ご質問にお答えいたします。

英語教育につきましては、学習指導要領に基づき、まずは進めているところでございます。各学校においては、学習指導要領の狙いに基づいて、積極的にコミュニケーションできる、そういう児童・生徒の育成を目指して、年間を通して計画的に先生方、校内研修とか、小学校・中学校連携しての授業改善とかに取り組んでいるところでございます。

英語によるコミュニケーションの資質・能力、これにつきましては、英語を用いながら、その言語活動を通して育成していくというふうに、学習指導要領においてもされております。

小・中学校においては、先ほど4番議員のご質問にお答えしましたように、英語指導に力のあるALTを配置しまして、毎時間、小・中学校ともチーム・ティーチングを行い、可能な限り英語により授業を進めているところでございますし、また、音声や映像等も豊富なデジタル教科書というのもございます。それらも活用しながら、できるだけ自然な場面を通して、児童・生徒が新しい語句や表現を身につけ、それを用いてコミュニケーションができるよう、今

年度配置しました指導主事による教員への指導助言等も通し、授業改善等、教員の指導力の向上に努めているところでございます。

また、一人一人の生徒の力に応じて、英語を話す、聞く、読む、書く、そういった4つの技能、英語力を育成できるよう、タブレットを活用したAI教材も導入いたしましたので、それらの活用も今後進めてまいりたいと考えております。

今後とも、教員の指導力向上とともに、児童・生徒の英語力向上に向け、その教育を進めまして、英語教育の一層の充実に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 特色ある教育ということで、浪江町の小学生はみんな英語しゃべられるぞということであれば、もし仮に私が子供であれば、原町とか相馬辺りに住んでいても、創成小学校へ行ってみたいという気持ちで、英語がしゃべられるだけでも私はよかったかなという、そういうような子供時代を送りたいと思います、私の子供であれば。ですから、そういう特色のある、例えば、秋田県のある大学では、もう校内に入ったら英語以外やらない、授業も全て英語、そういう大学もあります。就職は100%、もう海外とかそういうところで働いている人が非常に多くなる。福島県内としても会津大学では外国人の先生が非常に多いということで、英語での授業が主になってきております。ですから、やっぱり世界に羽ばたける子供たちをつくり、さらに地元で将来このF-R-E-Iで働いていただくような子供たちを育てていくためにも、語学教育というのは、私は本当に大切なことだろうと思っています。何か特色のある学校をつくりませんか、ぜひお願いをしたいと思います。

3つ目の質問に移りたいと思います。

震災前まで幾世橋には老健施設貴布祢というものがありませんでした。震災後、空き家になっており、その施設の在り方というのはどうなんでしょうということでご質問したいと思います。

町としては、この老健施設だった貴布祢をどのように現在考えていらっしゃるか、将来計画もあるのでしょうから、それについてお聞きしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（松本幸夫君） ご質問にお答えします。

比較的新しい施設であり有効活用していただきたいと考えております。

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 町は有効活用という、今、発言がなされましたけれども、有効活用をするに当たっても、これを町が取得するかしないかというような話にもつながってくるかと思います。

それで、所有者である渡辺病院側から町に対してどのようなアクションがあったのかないのか、その話はどのような内容であったのかをまずお聞かせいただきたいと思います。

○議長（平本佳司君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（松本幸夫君） ご質問にお答えします。

これまで町への報告はいただいております。

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 町にアクションがなかったというお話と、町としては活用していきたいと。何かちょっとパラレルのような感じがしております。

私は、震災後12年放ったらかしになったところですので、大分傷んでいるのではないかなという感じもしております。仮に買ったとしても、相当な金額を突きつけられてきているのではないかと、ちらちら情報は入ってきています。

内装と設備関係をもう一回更新しなければ、機能を果たすことはできません。約3億以上のお金がかかるだろうと。取得をして、仮に運営をすれば、もっと大きな金額になってくるのではないかと考えています。ですから、安易に求めるのか、それとも将来計画の中で一つ一つつくっていくのか、そういう考え方もしていかなければ、この問題はなかなか前に進まないんじゃないかと、こう考えております。

そこで、買うか買わないか、話をするのはちょっとつらいことなんですけれども、結論をそろそろ出していくべきではないのかなと考えておりますので、これについてお答えいただきたいと思います。

○議長（平本佳司君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（松本幸夫君） 現段階においては、検討をしております。購入については検討していません。

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 渡辺病院は民間ということなので、民間同士の話なら町はノータッチでいいかと思います。ただ、上位計画の中にそれを取り込んでこようとすれば、大変大きな出費が伴うのかなと、こう考えておりますので、町の執行部の慎重なる判断で物事を進めていただければ大変ありがたいと、そういうふうに考えております。

それでは、ちょっとあまりいい内容ではないんですけれども、耳に入ってきた以上は町に質さなければならぬと思ひまして。現在、

酒井行政区は帰還困難区域です。震災後、皆さん一人も住んでいるわけがないのでありますけれども。

実は、中山間直接支払制度の中で、酒井行政区では今、非常にもめております。それはなぜもめているのかというと、町は間違っただけをしておりません。ただ、監査監督が不十分なことは否認できません。本来ならば、中山間直接支払制度ですから、その刈り払いとか、ドブさらいとか、いろいろ労働した人たちに本来は直接支払われるべき金でありまして、趣旨はそうなんです。

間に行政区が入ってしまっている。行政区というのは、農地を持ってない人もいらっしゃいます。農業をしない人もいます。現に、田んぼや畑を一生懸命やっている人もいます。その人たちが間に入って中抜きをやったという話を耳に入りましたものですから、これについて確認のため、直接支払制度についてお聞きしたいと思えます。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えします。

中山間直接支払制度とは、農業生産条件で不利な中山間地域において、集落等を単位に農用地を維持管理していくための取決めを記した協定を締結し、その内容に従って、農業生産活動などを行う場合に、面積に応じて一定額を交付する仕組みです。地域の実情に応じた幅広い用途に活用できることになっております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） それでは、この交付金が私は町から、行政を介してか介さないかは別として、直接その組合とか、組合なのか農地組合なのか分かりませんが、そういうところに直接本当は払って、その中で働いた分に合わせて分配していくものだと思いますし、私もそういう形でいただいておいた経験があります。

しかし、行政区が絡んで、行政区がそれを使い込んだとします。それで、今この組合の人たちは、行政区とどういう内容で組んだのかよく分からないし、直接町から払っていたので、俺たちのお金を搾取されたということで、今、問題提起しようとしています。

あまり質のいい問題じゃないんです、これ。町はほとんど素直にやっているだけ、仕事としてやっているんだけど、行政区内部の話になっています。ただ、交付金の性質上、町は交付する立場、交付金が入るから、町がそれを監督する義務が生じています。

ですから、この内容についてなんですが、行政区はどうあるべきだったのかということについて、ご質問させていただきます。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） ご質問にお答えします。

酒井地区においては、酒井集落として農業者、農地所有者などにより協定を締結し、中山間直接支払制度により取り組んでいただいております。

行政区との関わりについてのおたただしですが、中山間地域において農業生産活動を継続するための水路の泥上げ、農道の草刈りなどは、地域の生活環境維持と密接な関係がありますので、行政区と連携し実施されていたものと認識しております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） はい、分かりました。

それで、実はこうした交付金が、組合と行政区との分け前のそういうのがあるということは、私は流用されたんじゃないのかという、非常に、背任とか横領とかそういうふうな類いの話につながっていくのではないのかなというふうに実は考えております。

ただ、行政区がみんなで作るんだったらいいんです。私は各行政区で農業用水路に対して生活排水を流すということで、全員参加の下で管理作業に出ています。でなければ罰金を取られていました。そういうふうにやっています。

しかし、酒井行政区の場合は、働く人は働く人、農地を持っている人、農地管理をする人、働かない人は働かない人、そういう人たちが、行政区がこの交付金に触っていいものかどうか。町に対する報告とかいろいろあるんだろうと思いますけれども、それが可能かどうか、それ教えていただきたいと思っております。

○議長（平本佳司君） 農林水産課長。

○農林水産課長（金山信一君） 流用の件についてお答えいたします。

協定書に交付金の受取は集落の代表者が受け取ると記載されております。交付金の使用方法等については、協定参加者の話合いにより、地域の実情に応じた幅広い用途に活用できることから、集落協定の総会等での話合いにより、行政区に対して共同取組活動に必要な支出をするなどということを決定すれば可能と考えております。

○議長（平本佳司君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 町の行政区とその組合員が話合いにして、協定を仮に結んだとして、それを指導監督するのは町にあるのではないかと、こう考えています。

そして、この制度というのは、そこで農地を管理する人たちの対価として交付金が支払われている制度なので、どうも組合に満額支

払われないで行政区が取ってしまうというのは、ちょっとまずいと思っています。指導監督する義務は一応町にあると思います。支払い元が町である以上は、どのように分配されているか、これはしっかりと把握していかなければならないんだらうと思います。

今、問題が起こっているのは、実は震災前から起こっていること、20年近く起こっていると聞いております。でも、本格的にこれがおかしくなったのは、実は賠償金として集落に入ってしまう。集落というか行政区に入ってしまう。

それで、みんな避難している中で、それはみんな避難しているのは条件一緒だろうといえはそうなんでしょうけれども、現実的には半分近く持っていかれちゃった。残りを組合員が農地を持っている人たちに分配されていると、そういうことになっているので、非常に複雑で、町としては触りたくない、正直言って。行政区同士でやってくれという話になるんだらうと思います。

ただ、これから酒井行政区はこの問題でちょっともめることになるかと思いますが、アドバイスをいただきたいという相談事があったら、町としてはしっかりご支援いただければと思うています。

最後になりますけれども、私が実は大平山、町営の霊園について質問をさせていただこうと思っていました。本来、一般質問の受付内の時間であれば取消しもできるんですけども、受付終了後の取消しとなってしまいました。それはどういうことかということを一言申し上げたいと思っております。

それは、大平山霊園は町が造った霊園です。国の交付金をいただいて造った霊園です。目的は請戸、中浜、両竹の住民の皆さんが、お墓を流されてしまい持っていくところがないから何とかということで、町が取り組んだ事業の一つであります。

しかし、この霊園に約75%は海の人、あと25%ぐらいは権現堂とか、その他の人が入っています。この町営霊園を一行政区が改造しようとしていました。園路を玉砂利から、今度、石はんを敷いた立派なものにしたいと。6月の議会で高野議員がこの件を質問させていただきました。そうしましたら、国の事業である以上は、補助金が入っている以上は、10年間は改修ができないと、こういうお話がありました。そういう答弁をしておりました。

実は、ほかに私は帰還困難区域である大堀地区や津島地区では、各小さな行政区だらけですけども、みんな山間部、山の中に小さなお墓を抱えています。墓じまいをして移住される方もいます。ただ、残されてそのまま無縁仏になってしまう可能性のお墓も非常に

多いと思います。

そこで、大きな行政区単位で、大堀なら大堀、津島なら津島に、町営の霊園を、どのぐらいの大きさか分かりませんが、できるならばそういうところで同じ条件で造っていただきたいなという質問をしようと思っていました。

しかし、今回、請戸行政区が単独で、行政区発注で町営墓地の園路を全て改修する。町側との答弁調整をさせていただきました。しかし、一部改修と言っているのけています。お墓なんていうのは園路が完成すれば完成。園路が8割ぐらい工事の中で占めるものです。そういうことを請戸の行政区単独で発注をして、じゃ、誰が管理して施工見るのか。そういうこともやっていません。

そして、中浜、両竹、両行政区との調整もしておりませんでした。また、そこに今求めた、残り25%の町内の方々、この人たちの同意も取っておりません。そして、発注の準備をしていると、こういう状況にありました。

これは、私がこの席をかけてもいいです。町がそこに眠っている人たちも含めて、お買い求めた人がどうもこの園路は悪いなと思ったら、10年を待っていますか、それとも町でもう一度補正を立てて、みんなで相談してお造りになるのが私は筋だと思っています。

請戸では、これに1,700万も用意しておるそうです。何で、公営でやるのを消費税までかけてやるのか。どうしても私は納得できない。この席かけても阻止したいと思う。町としては補正を立てて、しっかり国の制度どおりに運営していくのが本当のことだと思います。それでなければ、ほかの行政区が抱えている墓地の通路や何か全て舗装したり、そういうふうにするべきです。お金がないならできませんというならやらないよというだけの話。

一つには、答弁調整の中で出てきていることは、請戸行政区では300万の自動刈り払い機を町に寄贈したそうです。これは住民にみんなに知らせているわけじゃない、一部の役員だけです。あとは事後報告でやられたと聞いています。

まあそういうことなので、取り下げた理由はそこら辺にしておきます。

以上で終わります。

○議長（平本佳司君） 以上で、8番、佐々木茂君の一般質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（平本佳司君） 以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会します。
お疲れ様でした。

(午後 3時21分)

1 2 月 定 例 町 議 会

(第 2 号)

令和4年浪江町議会12月定例会

議事日程(第2号)

令和4年12月7日(水曜日)午前9時開議

日程第1	議案第71号	浪江町職員の定年引上げに関する整備条例の制定について
日程第2	議案第72号	一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について
日程第3	議案第73号	町長等の諸給与支給に関する条例の一部改正について
日程第4	議案第74号	職員の給与に関する条例の一部改正について
日程第5	議案第75号	工事請負契約の締結について(室原地区防災拠点新築工事(建築))
日程第6	議案第76号	工事請負契約の締結について(室原地区防災拠点新築工事(電気設備))
日程第7	議案第77号	工事請負契約の締結について(室原地区防災拠点新築工事(機械設備))
日程第8	議案第78号	工事請負契約の締結について(地デジ再送信システム復旧工事)
日程第9	議案第79号	令和4年度浪江町一般会計補正予算(第4号)
日程第10	議案第80号	令和4年度浪江町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)
日程第11	議案第81号	令和4年度浪江町国民健康保険直営診療施設事業特別会計補正予算(第2号)
日程第12	議案第82号	令和4年度浪江町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)
日程第13	議案第83号	令和4年度浪江町農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)
日程第14	議案第84号	令和4年度浪江町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)
日程第15	議案第85号	令和4年度浪江町水道事業会計補正予算(第3号)

出席議員（15名）

1番	武藤晴男君	2番	紺野豊君
3番	吉田邦弘君	4番	平本佳司君
5番	小澤英之君	6番	半谷正夫君
7番	紺野則夫君	8番	佐々木茂君
9番	山本幸一郎君	10番	高野武君
11番	渡邊泰彦君	12番	松田孝司君
13番	佐々木勇治君	14番	山崎博文君
15番	紺野榮重君		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町	長	副	町	長
	吉田栄光君		佐藤良樹君	
副	町	教	育	長
	成井祥君		笠井淳一君	
総務課長兼 津島支所長兼 選挙管理委員会書記長	横山秀樹君	企画財政課長	吉田厚志君	
産業振興課長	清水中君	農林水産課長兼 農業委員会事務局長	金山信一君	
住民課長	柴野一志君	住宅水道課長	木村順一君	
建設課長	戸浪義勝君	教育委員会事務局 教育次長兼 浪江町公民館長兼 浪江町図書館長	蒲原文崇君	
介護福祉課長	松本幸夫君	健康保険課長兼 浪江診療所事務長兼 仮設津島診療所事務長	西健一君	
会計管理者兼 出納室長	中野隆幸君			

職務のため出席した者の職氏名

事務局長 久君
掃部関 記
藤田 知宏君

次長 兼 係野長 夕華子君
中

◎開議の宣告

- 議長（平本佳司君） おはようございます。
ただいまの出席議員数は15人であります。
定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。
(午前 9時00分)
-

◎議事日程の報告

- 議長（平本佳司君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。
-

◎議案第71号から議案第85号の一括上程、説明

- 議長（平本佳司君） お諮りします。日程第1、議案第71号 浪江町職員の定年引上げに関する整備条例の制定についてから日程第15、議案第85号 令和4年度浪江町水道事業会計補正予算（第3号）までを一括議題としたいと思っております。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（平本佳司君） 異議なしと認めます。
よって、日程第1、議案第71号から日程第15、議案第85号までを一括議題とします。
日程第1、議案第71号 浪江町職員の定年引上げに関する整備条例の制定について議題とします。
提案理由の説明を求めます。
町長。

- 町長（吉田栄光君） 皆さん、おはようございます。
それでは、議案第71号 浪江町職員の定年引上げに関する整備条例の制定についてご説明をいたします。
地方公務員の定年引上げに係る地方公務員法の一部改正に伴い、関係条例の所要の改正を行うものです。
詳細については、総務課長に説明をさせます。

- 議長（平本佳司君） 総務課長。
○総務課長（横山秀樹君） それでは、議案資料によりご説明申し上げます。

タブレット議案集の21ページをお開きください。

2の主な改正内容ですが、第1条は浪江町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部改正として、地方公務員法の改正による条項ずれを改めるものです。

第2条は、浪江町職員の分限及び懲戒の手續及び効果に関する条例の一部改正で、減給となっている期間中に新たな発令がされた場

合の減給の額を減じる規定を追加するものです。

第3条は、浪江町職員の定年等に関する条例の一部改正でして、第1条の改正は地方公務員法の一部改正による条項ずれに対応するものです。

第3条の改正は、職員の定年を60歳から65歳、医師については70歳とするものでございます。

第4条の改正は、定年による退職となった場合に、要件を満たす職員を現在従事している職へ1年を超えない範囲で引き続き勤務できることとするもの。管理監督職勤務上限年齢となった職員が、特例により引き続き管理監督職として勤務できる期間の上限を3年とするもの。

次の22ページをご覧ください。

引き続き勤務できることとなった職員の期限が到来した場合に、管理監督職を延長された者を除き、1年を超えない範囲でこれを延長できるとするものです。

第6条の追加は、管理監督職勤務上限年齢制の対象を、管理職に対する特別調整額が支給される職員とするもの。

第7条の追加は、管理監督職勤務上限の年齢を60歳とするもの。

第8条の追加は、管理監督職の他の職への降任等を伴うに当たって遵守すべき事項を定めるものです。

第9条の追加は、管理監督職勤務上限年齢により降任する場合に、要件を満たす職員を、1年を超えない範囲で引き続き管理監督職として勤務できるとし、引き続き勤務した期間を町長の承認を得て延長できるとするものです。また、他の職へ降任等をする管理監督職が特定管理監督職群に属する場合の、当該管理監督職での勤務延長、降任等について定めたものです。

第10条の追加は、第9条の規定により引き続き勤務させる場合、または他の管理監督職に降任等をする場合に、あらかじめ職員の同意を得なければならないというもの。

第11条の追加は、引き続き勤務した場合において、その理由が消滅した場合には他の職へ降任とするものです。

次に、23ページをご覧ください。

第12条の追加は、60歳に達した職員を、定年前再任用短時間勤務職員に採用できるとするもの。ただし、定年退職日を経過した者はこの限りでないということ。

第13条の追加は、一部事務組合及び広域連合の年齢60歳以上の退職者を、定年前再任用短時間勤務職員に採用できるとするものです。

第14条の追加は、雑則としまして、条例の施行に必要な事項を規

則で定めるとするものです。

附則への追加につきましては、定年に関する経過措置を定め、令和5年4月1日から令和13年3月31日までの期間において定年を段階的に引き上げるものです。令和13年4月より定年が65歳となります。医師は70歳が定年となります。

また、当分の間、職員が60歳に達する年度の前年度には、任用及び給与に関する情報を提供し、60歳以降の勤務の意思を確認するよう努めるとするものでございます。

第4条は、職員の再任用に関する条例の廃止で、浪江町職員定年等に関する条例の一部改正により不要となることから廃止するものでございます。

第5条は、公益的法人等への職員の派遣等に関する条例の一部改正で、派遣することのできる職員から再任用職員を削除するとともに、管理監督職として勤務する期間が延長された職員を除外とするものです。

第6条は、職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正で、地方公務員法の改正による条項ずれ及び再任用短時間勤務職員とあるのを、定年前再任用短時間勤務職員と改めるものです。

次に、24ページをご覧ください。

第7条は、職員の育児休業等に関する条例の一部改正で、第2条の改正は、育児休業をすることができない職員として、第6条の改正は育児短時間勤務をすることができない職員として、管理監督職として勤務する期間が延長された職員を追加するものでございます。

第11条、17条、18条及び19条の改正は、再任用制度に係る部分の読替え規定を削除するもの、再任用短時間勤務職員とあるのを、定年前再任用短時間勤務職員とするものです。また、地方公務員法の一部改正による条項ずれに対応したものでございます。

附則への追加は、育児短時間勤務職員で60歳を超える職員の給与計算に係る読替え規定を追加するものです。

第8条は、単純な労務に雇用される職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正で、第21条の2の改正により、再任用職員とあるのを定年前再任用短時間勤務職員と改めるほか、地方公務員法の改正による条項ずれを改めるものです。

第9条は、企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正で、第2条の改正は、地方公務員法の改正による条項ずれを改めるもの、第17条の改正は、地方公務員法の改正による条項ずれを改めますとともに、再任用職員とあるのを定年前再任用短時間勤務職員と改めるものです。

次に、25ページをご覧ください。

附則の改正は、企業職員で60歳を超える職員の給料について、職員の給与に関する条例の例によるとするものでございます。

次に、制定附則についてでございますが、第1条は、この整備条例の施行期日を定めたものです。

第2条から第15条までは経過措置を定めたものでして、第2条は勤務延長に関する経過措置、第3条は定年退職者の再任用に関する経過措置、第4条は組合に関する経過措置。

次に、26ページのほうをお開きください。

第5条は、短時間勤務の職に係る経過措置、第6条は組合における短時間勤務の職に係る経過措置、第7条から第9条は、それぞれ改正地方公務員法附則第8条第3項、4項及び5項により条例で定めるとする職員及び年齢。

次に、27ページをお開きください。

第10条は、定年前再任用短時間勤務職員に関する経過措置。

次、28ページをお開きください。

第11条は、令和3年改正法附則第2条第3項に規定する条例で定める年齢、第12条は、公益法人等への職員の派遣等に関する条例に関する経過措置、第13条は、職員の勤務時間、休暇等に関する条例に関する経過措置、第14条は、単純な労務に雇用される職員の給与の種類及び基準に関する条例に関する経過措置、第15条は、企業職員の給与の種類及び基準に関する条例に関する経過措置について定めたものでございます。

最後に、3、施行期日ですが、この条例は令和5年4月1日から施行する。ただし、附則第11条の規定は公布の日から施行するとするものです。

続きまして、29ページから53ページまでは、各改正条例の新旧対照表になりますので、ご確認いただきたいと思います。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 日程第2、議案第72号 一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正についてを議題にします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 次に、議案第72号 一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正についてご説明をいたします。

福島県人事委員会の給与勧告及び地方公務員の定年引上げに係る地方公務員法の一部改正に伴い、所要の改正を行うものです。

詳細については、総務課長より説明をさせます。

○議長（平本佳司君） 総務課長。

○総務課長（横山秀樹君） それでは、議案資料によりご説明いたします。

議案集の55ページをお開きください。

2の主な改正内容でございますが、第1条によります改正は、同条例第8条の給料表について、若年層の給料月額を引き上げるため改正しますとともに、第9条の特定任期付職員の期末手当支給割合を、令和4年12月期末手当にあっては100分の157.5から100分の162.5に引き上げるものです。

第2条による改正は、第1条による改正後の期末手当の支給割合を、令和5年度以降の支給割合にあっては100分の162.5から100分の160に改めますとともに、任期付短時間勤務職員に給与条例を適用する際の、再任用短時間勤務職員を定年前再任用短時間勤務職員に改めるものでございます。

最後に、3、施行期日ですが、この条例中第1条の規定は公布の日から、第2条の規定は令和5年4月1日から施行するとするものでございます。

続きまして、56ページをご覧ください。

第1条による改正後の給料表は4月1日から、期末手当は令和4年12月1日から適用するものとし、既に支給されている額はその内払いとみなすものでございます。

次に、次の57ページから60ページまでは新旧対照表になりますので、ご確認いただきたいと思います。

説明は以上です。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○議長（平本佳司君） 日程第3、議案第73号 町長等の諸給与支給に関する条例の一部改正についてを議題にします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 次に、議案第73号 町長等の諸給与支給に関する条例の一部を改正する条例の制定についてご説明をいたします。

福島県人事委員会の給与勧告に伴い、所要の改正を行うものです。詳細については、総務課長より説明をさせます。

○議長（平本佳司君） 総務課長。

○総務課長（横山秀樹君） それでは、議案資料によりご説明いたします。

議案集の62ページをお開きください。

2の主な改正内容ですが、第1条による改正は、同条例第2条の期末手当の算定基礎額に乗ずる支給割合を、令和4年12月の期末手

当にあつては100分の155から100分の165に引き上げるものです。

第2条による改正は、第1条による改正後の支給割合を、令和5年度以降の6月の期末手当、12月の期末手当とも100分の155に改めるものです。

最後に、3、施行期日ですが、この条例中第1条の規定は公布の日から、第2条の規定は令和5年4月1日から施行するとするものです。

なお、第1条による改正後の期末手当は、令和4年12月1日から適用するものとし、既に支給済みの額はその内払いとみなすものであります。

次の63ページ及び64ページにつきましては新旧対照表になりますので、ご確認いただければと思います。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 日程第4、議案第74号 職員の給与に関する条例の一部改正についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 次に、議案第74号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定についてご説明をいたします。

福島県人事委員会の給与勧告及び地方公務員の定年引上げに係る地方公務員法の一部を改正に伴い、所要の改正を行うものです。

詳細については、総務課長より説明をさせます。

○議長（平本佳司君） 総務課長。

○総務課長（横山秀樹君） それでは、議案資料によりご説明いたします。

議案集の81ページをお開きください。

2の主な改正内容ですが、第1条による改正は、同条例第20条の改正によりまして、再任用職員以外の職員に係る令和4年度12月期の期末手当の支給割合を、100分の117.5から100分の122.5に、再任用職員に係る令和4年度の、令和4年12月期の支給割合を100分の60から100分の65に引き上げるものです。

第21条の改正により、再任用職員以外の職員に係る令和4年度の12月期の勤勉手当の支給割合を100分の95から100分の100に、再任用職員に係る令和4年12月期の勤勉手当の支給割合を100分の47.5から100分の52.5に引き上げる。

別表第1及び別表第1の2の給料表について、初任給を中心に若年層の給料月額を引き上げる改定を行うものでございます。

第2条による改正は、同条例第5条第9項を再任用職員に係る規

定の削除に伴い削除するものです。

第5条の2の改正により、再任用短時間勤務職員の給与月額は、当該職員の給与月額に再任用短時間勤務職員の勤務時間を38.75で割って得た数を乗じた額とするものでございます。

次に、82ページのほうをご覧ください。

第12条、第14条、17条、20条、21条及び24条の2の改正によりまして、再任用短時間勤務職員または再任用職員とあるのを、定年前再任用短時間勤務職員とするものです。

再任用職員以外の職員に係る期末手当の支給割合を100分の120、再任用職員に係る期末手当の支給割合を100分の62.5に、再任用職員以外の職員に係る期末手当の支給割合を100分の97.5に、再任用職員に係る勤勉手当の支給割合を100分の50に改めるものでございます。

また、附則の改正によりまして、当分の間、職員の給与は職員が定年に達した日以後における最初の4月1日における給与月額に100分の70を乗じて得た額とし、この給与措置の適用を受けない職員を定める。他の職に降任等をされた職員の給与月額については、所要の調整を行うというものでございます。

さらに、別表の改正によりまして、再任用職員以外の職員とあるのを、定年前再任用短時間勤務職員以外の職員、再任用職員とあるのを定年前再任用短時間勤務職員と改めるものでございます。

次に、この条例の附則でございますが、第1条及び第2条は、第1条の改正規定の施行日を公布の日から、第2条の改正規定の施行日を令和5年4月1日とするものでして、第1条による改正後の規定につきましては、令和4年4月1日から適用し、83ページのほうをご覧ください。改正前の規定により支給された給与はその内払いとみなすものでございます。

第3条は、旧地方公務員法の規定により勤務延長がされている職員は、給与減額措置の適用除外とするものでございます。

第4条は、暫定再任用職員、暫定再任用短時間勤務職員を除きませんが、その給与月額は定年前再任用短時間勤務職員に適用される額とするもの、育児短時間勤務をしている暫定再任用職員に対する読替え規定を定めるもの、暫定再任用短時間勤務職員の給与月額は、定年前再任用短時間勤務職員に適用される額に、当該暫定再任用短時間勤務職員の勤務時間を38.75時間で除して数を乗じて得た額とするもの。

第5条は、勤勉手当の支給対象となる職員に、暫定再任用職員が含まれる場合における読替え規定を定めるものです。

最後に、3の施行期日ですが、この条例は公布の日から施行する。ただし、第2条の規定は令和5年4月1日から施行するとするものです。

次に、84ページから125ページまでは新旧対照表になりますので、ご確認をいただければと思います。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いたします。

- 議長（平本佳司君） 日程第5、議案第75号 工事請負契約の締結について（室原地区防災拠点新築工事（建築））を議題といたします。提案理由の説明を求めます。

町長。

- 町長（吉田栄光君） 次に、議案第75号 工事請負契約の締結についてご説明をいたします。

本案は、室原地区防災拠点新築工事（建築）について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった横山建設株式会社、代表取締役社長、佐藤祥一と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、総務課長に説明をさせます。

- 議長（平本佳司君） 総務課長。

- 総務課長（横山秀樹君） それではご説明いたします。

議案集の124ページ、議案書をご覧ください。

1、契約の目的、室原地区防災拠点新築工事（建築）。施工箇所、浪江町大字室原字八龍内地内。契約の方法、指名競争入札。契約金額、9億6,250万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額8,750万円。契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字辻前12番地2、横山建設株式会社、代表取締役社長、佐藤祥一。6、工期、議会の議決を得た日から令和6年1月31日までとなります。

次に、125ページ、議案資料1をご覧ください。

こちらは、全体の配置図になります。管理棟、倉庫棟、これらをつなぐ渡り廊下、駐輪場兼災害用トイレ、外構の整備を行います。

右下の表をご覧ください。工事概要になります。

管理棟は、鉄骨造り1階建て1,661.05平米で、会議室、集会室各5部屋、管理事務室、給湯室、救護室、授乳室、シャワールーム、トイレを整備します。会議室、集会室は、平素は集会施設、災害時には避難所等として活用いたします。

倉庫棟は、鉄骨造り1階建て446.35平米、渡り廊下は16.87平米、駐輪場兼災害用トイレは48平米、外構工事は約3,200平米になります。倉庫棟には3段ラックを整備し、備蓄品等を管理します。駐車

場兼災害用トイレは、平素は駐輪場ですが、壁材を転回するとトイレ区画となるものでございます。

以降、126ページは管理棟の平面図、127ページは管理棟の立面図及び駐車場兼災害用トイレの図面、128ページは倉庫棟の平面図と立面図、129ページは管理棟と倉庫棟のイメージ画、30ページは全体のイメージ画でございます。

最後に、131ページには、議案資料2としまして入札、または見積りの執行結果表を添付しておりますので、ご確認いただければと思います。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

- 議長（平本佳司君） 日程第6、議案第76号 工事請負契約の締結について（室原地区防災拠点新築工事（電気設備））を議題とします。提案理由の説明を求めます。

町長。

- 町長（吉田栄光君） 次に、議案第76号 工事請負契約の締結についてご説明をいたします。

本案は、室原地区防災拠点新築工事（電気設備）について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった株式会社横電、代表取締役、横山政治と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、総務課長より説明をさせます。

- 議長（平本佳司君） 総務課長。

- 総務課長（横山秀樹君） それでは、ご説明いたします。

議案集の132ページ、議案書のほうをご覧ください。

1、契約の目的、室原地区防災拠点新築工事（電気工事）。施工箇所、浪江町大字室原字八龍内地内。契約の方法、指名競争入札。契約金額、1億6,610万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額1,510万円。契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字立野字荒屋敷69番地の2、株式会社横電、代表取締役、横山政治。6、工期、議会の議決を得た日から令和6年1月31日までとなります。

次に、133ページ、議案資料1をご覧ください。

管理棟の電気設備図になります。各種照明器具の配置等を記載しております。

次に、134ページをご覧ください。

倉庫棟及び屋外の電気設備図になります。各種照明器具や設備の配置等を記載しております。屋外で利用者のために街灯を整備します。また、停電時の対策としまして非常用発電設備を整備いたしま

す。

最後に、135ページのほうには議案資料2としまして入札または見積りの執行結果表をつけておりますので、ご確認いただければと思います。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いたします。

- 議長（平本佳司君） 日程第7、議案第77号 工事請負契約の締結について（室原地区防災拠点新築工事（機械設備））を議題とします。提案理由の説明を求めます。

町長。

- 町長（吉田栄光君） 次に、議案第77号 工事請負契約の締結についてご説明をいたします。

本案は、室原地区防災拠点新築工事（機械設備）について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった株式会社小黒設備工業、代表取締役、小黒陽子と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、総務課長に説明をさせます。

- 議長（平本佳司君） 総務課長。

- 総務課長（横山秀樹君） それでは、ご説明いたします。

議案集の136ページ、議案書のほうをご覧ください。

1、契約の目的、室原地区防災拠点新築工事（機械設備）。2、施工箇所、浪江町大字室原字八龍内地内。契約の方法、指名競争入札。4、契約金額、1億9,360万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額1,760万円。5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字高瀬字小高瀬原197番地、株式会社小黒設備工業、代表取締役、小黒陽子。6、工期、議会の議決を得た日から令和6年1月31日までとなります。

次に、137ページ、議案資料1をご覧ください。

管理棟の機械設備図になります。右側の器具表に記載のとおり、便器や水栓、消防設備、空調設備、換気設備等の配置を記載しております。

次の138ページをご覧ください。

倉庫棟及び屋外の機械設備図になります。換気設備や浄化槽、雨水槽等の配置を記載しております。

最後に、139ページには議案資料2としまして、入札または見積りの執行結果表を添付しておりますので、ご確認いただければと思います。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 日程第8、議案第78号 工事請負契約の締結について（地デジ再送信システム復旧工事）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 次に、議案第78号 工事請負契約の締結についてご説明をいたします。

本案は、地デジ再送信システム復旧工事について、地方自治法第234条第1項の規定による随意契約により株式会社ユアテック相双営業所、所長、福田孝之と契約を締結するに当たり、議会の議決付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、企画財政課長に説明をさせます。

○議長（平本佳司君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） それでは、議案書によりご説明をいたします。

140ページをお開きください。

1、契約の目的、地デジ再送信システム復旧工事。2、施工箇所、浪江町大字室原地内ほか。3、契約の方法、随意契約。4、契約の金額、1億1,550万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額1,050万円。5、契約の相手方、福島県南相馬市原町区牛来字石橋92番地5、株式会社ユアテック相双営業所、所長、福田孝之。6、工期、議会の議決を得た日から令和5年3月31日までとなっております。

次に、業者選定の理由をご説明させていただきます。

業者選定に当たりましては、1つ目といたしましては、本工事が、通信設備の工事の中でも有線テレビジョン放送設備を扱う業務でありまして、必要とされる専門的かつ高度な知識、技術能力を有することが求められるため、日本ケーブルテレビ技術協会が認定する資格を有することを資格要件といたしました。

2つ目といたしましては、令和5年春の特定復興再生拠点区域の解除までに事業を確実に完了する必要があるため、過去5年以内に官公庁発注の元請会社として類似工事の施工実績を有するものであることといたしました。

3つ目といたしまして、事故等による意図しない信号の発信が生じた際に、回復作業を早急に対応できる体制が必要ですので、相双地区内に本店または営業所を有する業者であることを条件といたしました。

これらの条件に合致する業者が、唯一株式会社ユアテックしかなかったために、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づき随意契約といたしました。

続きまして、議案資料によりご説明をいたします。

141ページをご覧ください。

本工事の整備対象地区は、室原地区、末森地区、津島地区の特定復興再生拠点区域内にある地上デジタル放送難視聴世帯を対象としております。浪江町役場局内の難視聴対象世帯は、室原地区103世帯、末森地区37世帯、津島局内の難視聴対象世帯は津島地区の12世帯となっております。

続きまして、資料2、142ページをご覧ください。工事概要となります。

本工事は、こちらの図に表示してございます①の浪江町役場局と②の津島局にございますテレビ電波を受信するための設備及び受信した電波を光信号に変換する設備の機器を更新し、難視聴世帯まで送信する装置を設置いたします。

また、③にございます室原共聴伝送路設備として、新たに難視聴地域に光ケーブルを敷設する工事を行うものでございます。

①の浪江町役場局と②の津島局は、共聴設備の更新一式となります。内訳は、受信移転設備の機器更新、再配信設備の機器更新、無停電装置の機器更新、加入者宅設備の光ケーブル配線工、光ケーブル接続工、光ケーブル試験工となります。

次に、③の室原地区は、旧NHK共聴組合の難視聴地域に室原共聴伝送路設備一式を整備するものでございます。工事の内訳は、伝送路設備として光ケーブルの配線工、光ケーブルの接続工、光ケーブルの試験工、建柱工となっております。新規で光ケーブルを6,468メートル敷設する工事を行います。

続きまして、次のページで143ページをご覧ください。

室原伝送路設備の、室原伝送路設備新設地デジ用光ケーブルルート図でございます。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 日程第9、議案第79号 令和4年度浪江町一般会計補正予算（第4号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第79号 令和4年度浪江町一般会計補正予算（第4号）についてご説明をいたします。

本案は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1億8,442万円を追加し、歳入歳出予算の総額を354億7,112万2,000円とするものであります。

詳細については、企画財政課長に説明をさせます。

○議長（平本佳司君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） それでは、予算書事項別明細書によりご説明をいたします。

152ページをお開きください。

まず、歳入の主なものからご説明をいたします。

款1町税、項1町民税、目1個人9,000万円の増額につきましては、個人町民税の実績見込みによる増でございます。

続きまして、款14国庫支出金、項2国庫補助金、目1総務費国庫補助金2,627万5,000円の増につきましては、主に節1総務費国庫補助金の増で、肥料高騰緊急対策事業、合併浄化槽維持管理事業、上水道補助事業の財源となります、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の増によるものが主なものでございます。

続きまして、同じく項3委託金、目1総務費委託金1億9,086万3,000円の減につきましては、主に防犯業務委託料に係る契約の請け差に伴います、原子力災害避難区域等帰還・再生加速事業委託金の減によるものでございます。

153ページをお開きください。

款15県支出金、項2県補助金、目4農林水産業費県補助金3,113万円の減につきましては、主に節1農業費県補助金で福島県新規就農者総合対策事業補助金の減額によるものでございます。

154ページをご覧ください。

款18繰入金、項2基金繰入金、目1財政調整基金繰入金1億1,181万6,000円の減につきましては、財源調整によるものでございます。

その下、目2浪江町復旧・復興基金繰入金9,319万7,000円及びその下の目7浪江町帰還・移住等環境整備交付金基金繰入金2億9,570万4,000円の増につきましては、共通しまして主に畜産施設の敷地造成事業、木材製造拠点整備事業、RE100産業団地整備事業の財源として繰入れすることによる増額でございます。

次の155ページをご覧ください。155ページからは歳出となります。

まず、議会費をはじめとしまして各科目におきまして報酬、給料、職員手当、共済費の補正がございますが、これらにつきましては主に人事異動によります所属替え、また福島県人事委員会勧告によります給与等の改正、会計年度職員の任用数の変動及び共済制度の改

正に伴います補正となっております。

人件費に関しまして、総額で申し上げます。報酬は8万8,000円の増、給料は7,345万7,000円の減、手当は1,894万3,000円の減、共済費は1,781万3,000円の減となっております。さらに、人件費に係ります補正のほか、パートタイム会計年度任用職員の任用数の変動によります費用弁償63万3,000円の減となっております。

以下、各科目とも同様の理由により、人件費及び費用弁償の補正をしております。

それでは、歳出の主なものをご説明させていただきます。

164ページをご覧ください。

款4衛生費、項1保健衛生費、目3環境衛生費1,844万4,000円の増につきましては、次ページをご覧ください。165ページにございます、主に負担金、補助及び交付金の増が要因となっております、合併浄化槽を設置している方に対し、維持管理費として1世帯につき5万円を補助するものが、こちらが主な増額の要因となっております。

続きまして、166ページをご覧ください。

款4衛生費、項3上水道費、目1上水道費3,770万9,000円の増につきましては、高料金対策として普通交付税措置分となるもの及び上水道従量料金の減免分に係ります補助分によります負担金、補助及び交付金の増によるものでございます。

続きまして、167ページをご覧ください。

款6農林水産業費、項1農業費、目4農業振興費4,530万6,000円の減につきましては、主に育苗施設敷地造成工事の事業費確定に伴います1,974万9,000円の減額及び、新規就農者総合対策補助金の実績によります3,750万円の減によるものが大きな要因となっております。

続きまして、168ページをご覧ください。

款6農林水産業費、項1農業費、目7畜産業費3億1,276万3,000円の増につきましては、主に畜産施設の敷地造成工事におけるコンクリート二次製品等の資材単価高騰、及び雨水対策工事やのり面対策工事の追加によります工事請負費の増額によるものでございます。

続きまして、169ページをご覧ください。

款7商工費、項1商工費、目6企業誘致促進費1億773万8,000円の増につきましては、主に木材製品生産拠点における防風・防音壁の設置及びサイレンサー設置に係ります調査設計費の計上などに伴う委託料の増及び工事請負費の増によるものでございます。

続きまして、172ページをご覧ください。

款 9 消防費、項 1 消防費、目 4 防災対策費 2 億166万5,000円の減につきましては、主に防犯業務委託料の請け差に伴います減及び防災拠点整備工事などの減によるものでございます。

続きまして、175ページをご覧ください。

款10教育費、項 5 社会教育費、目 2 文化財保護費1,500万円の増につきましては、末森地区におきます埋蔵文化財試掘調査委託料の増によるものでございます。

148ページにお戻りいただければと思います。

148ページ、こちらが第 2 表継続費の補正の変更の表となっております。款 6 農林水産業費、項 1 農業費、事業名、育苗施設敷地造成工事、こちらにつきましては事業費の確定に伴います年割額の変更でございます。

同じく事業名が、畜産施設敷地伐採業務、こちらにつきましては対象面積の増加に伴います年割額の変更となっております。

その下、事業名が畜産施設敷地造成工事管理業務、そしてもう一つ下、畜産施設敷地造成工事、こちらにつきましてはともに事業計画の変更に伴います事業年度及び年割額の変更となっております。

149ページをご覧ください。

款11災害復旧費、項 1 公共土木施設災害復旧費、事業名、橋梁災害復旧工事菅原橋下部工につきましては、工事内容の変更及び資材価格の高騰に伴います年割額の変更となっております。

続きまして、第 3 表繰越明許費補正の追加でございます。

款 4 衛生費、項 1 保健衛生費、事業名、災害等廃棄物撤去処理事業 3 億3,992万1,000円につきましては、令和 4 年 3 月の福島県沖地震によります倒壊家屋の解体事業でございますが、当初想定していなかったアスベスト含有建材を使用する被災家屋が複数存在することが判明したため、事前調査の必要などが、生じたことによりまして、年度内の完了が困難となったことに伴います繰越明許費の設定でございます。

その下、款 7 商工費、項 1 商工費、事業名、木材製品生産拠点施設環境対策事業9,000万円につきましては、騒音等の環境対策を早期に実施をするため、繰越明許費を設定して早期に着手をするものでございます。

続きまして、同じく款 7 商工費、目 1 商工費、事業名が棚塩 R E 100産業団地整備事業その 2 につきましては、こちらは産業団地を早期に整備し企業誘致を促進するため、繰越明許費を設定して早期に事業着手を図るものでございます。

最後に、177ページに基金の運用状況の資料がございます。ご確

認をいただければと思います。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 日程第10、議案第80号 令和4年度浪江町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 次に、議案第80号 令和4年度浪江町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）についてご説明いたします。

本案は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ993万4,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を36億1,317万円とするものであります。

詳細については、健康保険課長に説明をさせます。

○議長（平本佳司君） 健康保険課長。

○健康保険課長（西 健一君） それでは、予算書の事項別明細書によりご説明申し上げます。

183ページをお開きください。

まず、歳入でございます。

款4 県支出金、項1 県補助金、目1 保険給付費等交付金90万円の増につきましては、後ほど歳出でご説明いたします一般被保険者療養費及び高額療養費の増額分について、財源である普通交付金にて全額交付されるものでございます。

次に、款6 繰入金、項1 他会計繰入金、目1 一般会計繰入金903万4,000円の増につきましては、こちらも歳出の事務費増に伴います一般会計からの繰入金の増でございます。

次に、184ページでございます。

歳出でございます。

款1 総務費、項1 総務管理費、目1 一般管理費902万4,000円の増につきましては、人事異動及び福島県人事委員会の勧告に基づく人件費の増でございます。

次に、款2 保険給付費、項2 療養諸費、目1 一般被保険者療養費15万円の増につきましては、震災後、転入者の方で被災証明が確認された方がいらしたため、本人支払済みの窓口負担分について遡及して還付するものでございます。

次に、185ページでございます。

款2 保険給付費、項1 高額療養費、目1 一般被保険者高額療養費75万円の増につきましては、今年度の支出見込み増額によるものでございます。

次に、款 7 諸支出金、項 1 償還金及び還付加算金、目 2 償還金 304万9,000円の増につきましては、昨年度分の国・県補助金の実績額確定による返還金でございます。

最後に、款 8 予備費304万9,000円の減につきましては、財源調整によるものでございます。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 日程第11、議案第81号 令和4年度浪江町国民健康保険直営診療施設事業特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 次に、議案第81号 令和4年度浪江町国民健康保険直営診療施設事業特別会計補正予算（第2号）についてご説明をいたします。

本案は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ974万円を追加し、歳入歳出予算の総額を3億7,229万3,000円とするものであります。

詳細につきましては、浪江診療所事務長に説明をさせます。

○議長（平本佳司君） 浪江診療所事務長。

○浪江診療所事務長（西 健一君） それでは、予算書の事項別明細書によりご説明申し上げます。

191ページをお開きください。

まず、歳入でございます。

款 1 診療収入、項 1 外来収入、目 2 浪江診療所診療収入894万円の増につきましては、診療人数の増加による各医療保険の診療報酬収入の増でございます。

次に、款 2 使用料及び手数料、項 1 手数料、目 2 浪江診療所手数料80万円の増につきましては、診療人数の増加による文書料の増でございます。

次に、192ページからは歳出でございます。

款 1 総務費、項 1 施設管理費、目 1 仮設津島診療所管理費165万2,000円の増につきましては、主に福島県人事委員会の勧告に基づく人件費の増、及び電気代の値上がり等による光熱水費の増でございます。

次に、目 2 浪江診療所管理費608万8,000円の増につきましても、主に人事異動及び福島県人事委員会の勧告に基づく人件費の増、及び電気代の値上がり等による光熱水費の増。また、委託料につきま

しては、本年度から整形外科の毎週診療を確保できたこと等による
医師委託料等の増でございます。

次に、193ページでございます。

款 2 医業費、項 1 医業費、目 2 浪江診療所医業費200万円の増に
つきましては、診療人数の増加に伴う医薬剤料費の増でございます。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたしま
す。

○議長（平本佳司君） 日程第12、議案第82号 令和4年度浪江町公共
下水道事業特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第82号 令和4年度浪江町公共下水道事業
特別会計補正予算（第1号）についてご説明いたします。

本案は、前年度の決算が確定したこと等に伴い、歳入歳出予算の
総額に歳入歳出それぞれ1,888万3,000円を追加し、歳入歳出予算の
総額を5億1,181万円とするものであります。

詳細については、住宅水道課長に説明をさせます。

○住宅水道課長（木村順一君） 歳入歳出補正予算書事項別明細書の
199ページをお開きください。

歳入予算についてご説明をいたします。

款 4 繰入金、項 1 繰入金、目 2 基金繰入金1,275万円の増は、こ
のたびの歳出補正に伴い基金から取崩し、繰入れするものです。

下の段、款 5 繰越金、項 1 繰越金、目 1 繰越金713万3,000円の増
は、前年度歳計剰余金の確定によるものです。

次に、200ページをお開きください。

歳出予算になります。

款 1 公共下水道事業費、項 1 公共下水道事業費、目 1 公共下水道
総務管理費785万円の増は、福島県人事委員会の給与勧告による人
件費等及び消費税申告に係る納付金であります。

同じく目 3 下水道維持管理費390万円の増は、福島県人事委員会
の給与勧告による人件費等及び処理場光熱費の増であります。

款 3 予備費は、前年度歳計剰余金を計上するものであります。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 日程第13、議案第83号 令和4年度浪江町農業
集落排水事業特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 次に、議案第83号 令和4年度浪江町農業集落

排水事業特別会計補正予算（第1号）についてご説明をいたします。

本案は、前年度の決算が確定したことに伴い、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ927万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を5,266万9,000円とするものであります。

詳細については、住宅水道課長に説明をさせます。

○議長（平本佳司君） 住宅水道課長。

○住宅水道課長（木村順一君） 歳入歳出補正予算事項別明細書206ページをお開きください。

歳入予算についてご説明をいたします。

款3繰入金、項1繰入金、目2基金繰入金24万円の増は、このたびの歳出補正に伴い基金から繰入れするものです。

下の段、款4繰越金、項1繰越金、目1繰越金903万6,000円の増は、前年度歳計剰余金の確定によるものです。

次に、207ページをお開きください。

歳出予算になります。

款1農業集落排水事業費、項1農業集落排水事業費、目1農業集落排水総務管理費24万円の増は、福島県人事委員会の給与勧告等による人件費等であります。

同じく款3予備費は、前年度歳計剰余金を計上するものであります。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○議長（平本佳司君） 日程第14、議案第84号 令和4年度浪江町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 次に、議案第84号 令和4年度浪江町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）についてご説明をいたします。

本案は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ343万円を追加し、歳入歳出予算の総額を29億1,514万9,000円とするものであります。

詳細については、介護福祉課長に説明させます。

○議長（平本佳司君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（松本幸夫君） 予算書事項別明細書の213ページをお開きください。

歳入についてご説明いたします。

款7繰入金、項1一般会計繰入金、目4その他一般会計繰入金、節1職員給与費等繰入金343万円の増につきましては、一般会計からの繰入金の増でございます。

214ページをお開きください。

歳出についてご説明いたします。

款1 総務費、項1 総務管理費、目1 一般管理費343万円の増につきましては、主に人事異動及び福島県人事委員会の勧告に基づく人件費の増でございます。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 日程第15、議案第85号 令和4年度浪江町水道事業会計補正予算（第3号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

○町長（吉田栄光君） 議案第85号 令和4年度浪江町水道事業会計補正予算（第3号）についてご説明をいたします。

本案は、水道事業収益的収入3,770万8,000円の増額、収益的支出547万9,000円の増額をするものであります。

詳細につきましては、住宅水道課長に説明をさせます。

○議長（平本佳司君） 住宅水道課長。

○住宅水道課長（木村順一君） 補正予算説明資料によりご説明いたします。

224ページをお開きください。

収益的収入になります。

款1 水道事業収益、項2 営業外収益、目4 補助金3,770万8,000円の増は、町からの補助金でありまして、高料金対策及び水道料金の一部免除に対するコロナ交付金の収入であります。

次に、226ページをお開きください。

水道事業費用、補正額547万9,000円の増は、227ページから229ページにかけてになりますが、福島県人事委員会の給与勧告による人件費及び諸手当、施設光熱水費等の増額であります。

説明は以上であります。よろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 以上で提案理由の説明が終わりました。

◎延会について

○議長（平本佳司君） お諮りします。質疑については13日に行うこととし、本日の会議はこれで延会したいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 異議なしと認めます。

よって、本日はこれで延会することを決定いたしました。

13日は午前9時から本会議を開きますので、ご参集をお願いします。

◎延会の宣告

○議長（平本佳司君） 本日はこれで延会します。

（午前10時07分）

令和4年12月 8日（木曜日）	常任委員会
令和4年12月 9日（金曜日）	常任委員会
令和4年12月10日（土曜日）	休 日
令和4年12月11日（日曜日）	休 日
令和4年12月12日（月曜日）	休 会

1 2 月 定 例 町 議 会

(第 3 号)

令和4年浪江町議会12月定例会

議事日程(第3号)

令和4年12月13日(火曜日)午前9時開議

日程第 1	議案第 7 1 号	浪江町職員の定年引上げに関する整備条例の制定について
日程第 2	議案第 7 2 号	一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について
日程第 3	議案第 7 3 号	町長等の諸給与支給に関する条例の一部改正について
日程第 4	議案第 7 4 号	職員の給与に関する条例の一部改正について
日程第 5	議案第 7 5 号	工事請負契約の締結について(室原地区防災拠点新築工事(建築))
日程第 6	議案第 7 6 号	工事請負契約の締結について(室原地区防災拠点新築工事(電気設備))
日程第 7	議案第 7 7 号	工事請負契約の締結について(室原地区防災拠点新築工事(機械設備))
日程第 8	議案第 7 8 号	工事請負契約の締結について(地デジ再送信システム復旧工事)
日程第 9	議案第 7 9 号	令和4年度浪江町一般会計補正予算(第4号)
日程第 10	議案第 8 0 号	令和4年度浪江町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)
日程第 11	議案第 8 1 号	令和4年度浪江町国民健康保険直営診療施設事業特別会計補正予算(第2号)
日程第 12	議案第 8 2 号	令和4年度浪江町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)
日程第 13	議案第 8 3 号	令和4年度浪江町農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)
日程第 14	議案第 8 4 号	令和4年度浪江町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)
日程第 15	議案第 8 5 号	令和4年度浪江町水道事業会計補正予算(第3号)
日程第 16	同意第 6 号	監査委員の選任について
日程第 17	同意第 7 号	副町長の選任について

- 日程第 18 同意第 8 号 固定資産評価員の選任について
- 日程第 19 発委第 2 号 議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部改正について
- 日程第 20 発委第 3 号 浪江町議会議員定数条例の一部改正について
- 日程第 21 委員会の閉会中の継続審査又は調査の申し出について

出席議員（15名）

1番	武藤晴男君	2番	紺野豊君
3番	吉田邦弘君	4番	平本佳司君
5番	小澤英之君	6番	半谷正夫君
7番	紺野則夫君	8番	佐々木茂君
9番	山本幸一郎君	10番	高野武君
11番	渡邊泰彦君	12番	松田孝司君
13番	佐々木勇治君	14番	山崎博文君
15番	紺野榮重君		

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

副町長	佐藤良樹君	副町長	成井祥君
教	育笠井長淳一君	総務課長兼 津島支所長兼 選挙管理委員会書記長	横山秀樹君
企画財政課長	吉田厚志君	産業振興課長	清水中君
農林水産課長兼 農業委員会事務局長	金山信一君	住民課長	柴野一志君
住宅水道課長	木村順一君	建設課長	戸浪義勝君
教育委員会事務局 教育次長兼 浪江町公民館長兼 浪江町図書館長	蒲原文崇君	介護福祉課長	松本幸夫君
健康保険課長兼 浪江診療所事務長兼 仮設津島診療所事務長	西健一君	会計管理者兼 出納室長	中野隆幸君

職務のため出席した者の職氏名

事務局長	掃部関久君	次長兼係長	中野夕華子君
------	-------	-------	--------

書

記
藤 田 知 宏 君

◎開議の宣告

- 議長（平本佳司君） おはようございます。
ただいまの出席議員数は15人であります。
定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。
(午前 9時00分)
-

◎議事日程の報告

- 議長（平本佳司君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。
-

◎議案第71号の質疑、討論、採決

- 議長（平本佳司君） 日程第1、議案第71号 浪江町職員の定年引上げに関する整備条例の制定についてを議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。
討論終わります。
これより議案第71号 浪江町職員の定年引上げに関する整備条例の制定についてを採決します。
採決は起立により行います。
本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。
[起立全員]
- 議長（平本佳司君） 起立全員であります。
よって、議案第71号は原案のとおり可決されました。
-

◎議案第72号の質疑、討論、採決

- 議長（平本佳司君） 日程第2、議案第72号 一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正についてを議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]

- 議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。
討論終わります。
これより議案第72号 一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正についてを採決します。
採決は起立により行います。
本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。
〔起立全員〕
- 議長（平本佳司君） 起立全員であります。
よって、議案第72号は原案のとおり可決されました。
-

◎議案第73号の質疑、討論、採決

- 議長（平本佳司君） 日程第3、議案第73号 町長等の諸給与支給に関する条例の一部改正についてを議題にします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
- 議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
- 議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。
討論終わります。
これより議案第73号 町長等の諸給与支給に関する条例の一部改正についてを採決します。
採決は起立により行います。
本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。
〔起立全員〕
- 議長（平本佳司君） 起立全員であります。
よって、議案第73号は原案のとおり可決されました。
-

◎議案第74号の質疑、討論、採決

- 議長（平本佳司君） 日程第4、議案第74号 職員の給与に関する条例の一部改正についてを議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
- 議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより議案第74号 職員の給与に関する条例の一部改正についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第74号は原案のとおり可決されました。

◎議案第75号の質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第5、議案第75号 工事請負契約の締結について（室原地区防災拠点新築工事（建築））を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

14番、山崎博文君。

○14番（山崎博文君） おはようございます。

何点か、工事請負契約の締結についてなんですけれども、質問します。

ようやく、室原地区の防災拠点の新築工事が入札終わったということで、ちょっと入札の結果のほうが、ちょっと気になるものですかから、その点でちょっと質問をしたいと思います。

この入札の結果が、3社が入札に参加して、5回目でようやく落札になったと。落札率は確かに高いんですけれども、なぜ5回目までかかったかということが私、気になっていまして、つまり、予定価格が果たしてどのような積算の基にやったのかということで、多分、福島県市町村支援機構の公共単価を参考にしたのかななんて思うんですけれども、まずそこを、予定価格が適正であったかということでお伺いします。

○議長（平本佳司君） 副町長。

○副町長（佐藤良樹君） ただいまのご指摘のとおり、入札にかかる予定価格につきましては、県の単価とか、共通の歩掛等により適正に積算をしているところでございます。

ご指摘のその入札の回数につきましては、現在制限を設けておりませんが、今後、例えば、その入札の回数の制限等でありませうとか、その辺につきましては、現在、検討中と申しますか、回数の制限等を設けるといことも一つ考えられるところでございます。その点につきましては、近隣の状況等を踏まえまして、入札等の回数については今後検討してまいりたいと考えてございます。

○議長（平本佳司君） 14番、山崎博文君。

○14番（山崎博文君） 今後、回数は、制限のほうは検討されるということですが、現況は、原油高とか、物価高騰とか、資材高騰とか、そういう今、状況ですよね。

この入札は11月22、まさに今、高いときに入札を行っているんですよ。ですから、予定価格をしっかりと、その辺は積算すべきじゃないかということで、かえって、5回もかけてようやく落札はしたものの、民業圧迫にならないのかなというような、ちょっと危惧をするんです。ですから、最初っから、予定価格を適正に今の物価にスライドして、予定価格はしっかりと積算すべきで、参考とするものは参考にする、ただ、今の現況を考えれば、それにちょっと上乘せをするということが、私は求められるのかなと思って質問しているんです。

さらに、工期のほうなんですけれども、再来年の1月ですか、これ、まさにまた資材の調達で、なかなか資材が手に入らない中で、この工期で果たしていいのかなと。例えば、年度末であれば1月ではなくて3月でも、私は工期の設定はよかったんじゃないかと、2か月間余裕を見るとか、そういうのも考えられたんじゃないかなと思うんですけれども、その辺はどのような検討をされたかと、また、今後、どういうふうにされるのかということをお伺いします。

○議長（平本佳司君） 建設課長。

○建設課長（戸浪義勝君） それではまず、単価についてのご質問にお答えをいたします。

単価及び積算の基準につきましては、今回の発注に合わせて、直近の県の単価及び積算の基準を使用しております。インフレ、物価の上昇につきましては、今後、工期内で、1年を過ぎた後に物価の上昇が著しいということであれば、単価の調整といたしますか、インフレスライドという条項がございますので、そちらについて、物価上昇についての単価の変更も可能であります。また、工期につきましては、設計金額によります標準工期に合わせておりますので、今回の工期となっております。

以上でございます。

○議長（平本佳司君） よろしいですか。ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより議案第75号 工事請負契約の締結について（室原地区防災拠点新築工事（建築））を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第75号は原案のとおり可決されました。

◎議案第76号の質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第6、議案第76号 工事請負契約の締結について（室原地区防災拠点新築工事（電気設備））を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

14番、山崎博文君。

○14番（山崎博文君） この点についても、1点かな。

防災拠点ということで、万が一、停電の場合の電源はどうされるのかと。資料では、非常発電機、オイルタンクというような、この記載してありますけれども、その辺ちょっと私、理解していませんので、その説明をお願いしたいと思います。

○議長（平本佳司君） 総務課長。

○総務課長（横山秀樹君） 非常用発電設備での対応としております。説明は以上です。

○議長（平本佳司君） 14番、山崎博文君。

○14番（山崎博文君） ですから、非常発電機で対応されると、停電の場合は、そういうことですね。その非常用発電のものはオイルで発電されるということなんですか。例えば、私思うのは、安定という面ではちょっと心配されますけれども、太陽光とか、太エネね、こういうものを取り入れてもよかったんじゃないかなと思うんですけども、その点で、もとはオイルなんですか。

○議長（平本佳司君） 総務課長。

○総務課長（横山秀樹君） オイルで発電機のほうを回すような形になっております。太陽光のほうも検討はいたしましたけれども、費用の関係とか、それから、駐車場にヘリコプターが降りる予定というか、ヘリポートとしても活用する関係ありまして、太陽光発電の設備がありますと、それが風圧とかで、やはり破損する可能性が出てくるので、だから太陽光は使えないというような結果となっております。

説明は以上です。

○議長（平本佳司君） ほかに質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより議案第76号 工事請負契約の締結について（室原地区防災拠点新築工事（電気設備））を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することの賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第76号は原案のとおり可決されました。

◎議案第77号の質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第7、議案第77号 工事請負契約の締結について（室原地区防災拠点新築工事（機械設備））を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより議案第77号 工事請負契約の締結について（室原地区防災拠点新築工事（機械設備））を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第77号は原案のとおり可決されました。

◎議案第78号の質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第8、議案第78号 工事請負契約の締結に

ついて（地デジ再送信システム復旧工事）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより議案第78号 工事請負契約の締結について（地デジ再送信システム復旧工事）を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第78号は原案のとおり可決されました。

◎議案第79号の質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第9、議案第79号 令和4年度浪江町一般会計補正予算（第4号）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより議案第79号 令和4年度浪江町一般会計補正予算（第4号）を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第79号は原案のとおり可決されました。

◎議案第80号の質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第10、議案第80号 令和4年度浪江町国民

健康保険事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより議案第80号 令和4年度浪江町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第80号は原案のとおり可決されました。

◎議案第81号の質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第11、議案第81号 令和4年度浪江町国民健康保険直営診療施設事業特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより議案第81号 令和4年度浪江町国民健康保険直営診療施設事業特別会計補正予算（第2号）を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第81号は原案のとおり可決されました。

◎議案第82号の質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第12、議案第82号 令和4年度浪江町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより議案第82号 令和4年度浪江町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第82号は原案のとおり可決されました。

◎議案第83号の質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第13、議案第83号 令和4年度浪江町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより議案第83号 令和4年度浪江町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第83号は原案のとおり可決されました。

◎議案第84号の質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第14、議案第84号 令和4年度浪江町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより議案第84号 令和4年度浪江町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第84号は原案のとおり可決されました。

◎議案第85号の質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第15、議案第85号 令和4年度浪江町水道事業会計補正予算（第3号）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第85号 令和4年度浪江町水道事業会計補正予算（第3号）を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、議案第85号は原案のとおり可決されました。

◎同意第6号の上程、質疑、採決

○議長（平本佳司君） 日程第16、同意第6号 監査委員の選任についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐藤良樹君） 同意第6号 監査委員の選任についてご説明をいたします。

本案は、令和4年11月30日付で辞任しました山本邦一氏の後任として宮口勝美氏を選任するため、地方自治法第196条第1項の規定に基づき、議会の同意を求めるものであります。

今回、同意を求める宮口勝美氏の略歴につきましては、資料に記載のとおりであります。町職員として経験も豊かであり、町の財務管理、経営管理及び行政運営に関し優れた識見を有する方で、監査委員として適任であると考えておりますので、ご賛同くださいますようお願い申し上げます。

○議長（平本佳司君） 以上で提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより同意第6号 監査委員の選任についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、同意第6号は原案のとおり同意することに決定いたしました。

◎同意第7号の上程、質疑、採決

○議長（平本佳司君） 日程第17、同意第7号 副町長の選任についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐藤良樹君） 同意第7号 副町長の選任についてご説明いたします。

本案は、現副町長が令和4年12月16日をもって任期満了となることから、副町長の選任について、地方自治法第162条の規定に基づき、議会の同意を求めるものであります。

今回、同意を求める山本邦一の略歴につきましては、資料に記載

のとおりであります。浪江町職員として行政経験も豊かで、本格化した復旧、復興事業の推進に適切な判断を下し得る豊かな識見を有している方でございます。

また、山本氏につきましては、平成29年4月より2年間にわたり総務課長をされており、その人柄などにつきましてはご存じの議員も多いと思いますが、震災当初から常に、町民対応の最前線に立ち、確かな判断力と懇切丁寧な対応で町民からの信頼も厚く、卓越したリーダーシップを発揮し、山積する難題に果敢に取り組んでこられました。このことから副町長として適任であると考えておりますので、ご賛同いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 以上で提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより同意第7号 副町長の選任についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、同意第7号は原案のとおり同意することに決定いたしました。

◎同意第8号の上程、質疑、採決

○議長（平本佳司君） 日程第18、同意第8号 固定資産評価員の選任についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（佐藤良樹君） 同意第8号 固定資産評価員の選任についてご説明いたします。

本案は、固定資産評価員の選任について、地方税法第404条第2項の規定に基づき、議会の同意を求めるものでございます。

今回、同意を求める山本邦一氏は、長い町職員としての経験により、行政全般にわたり精通され、豊かな識見を有している方です。固定資産評価員として適任であると考えておりますので、ご賛同くださいますようよろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 以上で提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより同意第8号 固定資産評価員の選任についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（平本佳司君） 起立全員であります。

よって、同意第8号は原案のとおり同意することに決定いたしました。

◎発委第2号の上程、質疑、討論、採決

○議長（平本佳司君） 日程第19、発委第2号 議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部改正についてを議題とします。

事務局長に朗読させます。

〔事務局長朗読〕

○議長（平本佳司君） 提出者の議会運営委員会委員長から提案理由の説明を求めます。

議会運営委員会委員長、佐々木茂君。

登壇でお願いいたします。

〔議会運営委員長 佐々木 茂君登壇〕

○議会運営委員長（佐々木 茂君） ただいま事務局長の朗読のとおりです。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（平本佳司君） 以上で提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより発委第2号 議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部改正についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

- 議長（平本佳司君） 起立全員であります。
よって、発委第2号は原案のとおり可決されました。

◎発委第3号の上程、質疑、討論、採決

- 議長（平本佳司君） 日程第20、発委第3号 浪江町議会議員定数条例の一部改正についてを議題とします。

事務局長に朗読をさせます。

[事務局長朗読]

- 議長（平本佳司君） 提出者の議会運営委員会委員長から提案理由の説明を求めます。

議会運営委員会委員長、佐々木茂君。

登壇をお願いします。

[議会運営委員長 佐々木 茂君登壇]

- 議会運営委員長（佐々木 茂君） ただいま事務局長の朗読のとおりです。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

- 議長（平本佳司君） 以上で提案理由の説明が終わりました。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

- 議長（平本佳司君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

- 議長（平本佳司君） 討論なしと認めます。

討論終わります。

これより発委第3号 浪江町議会議員定数条例の一部改正についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立多数]

- 議長（平本佳司君） 賛成多数であります。
よって、発委第3号は原案のとおり可決されました。

◎委員会の閉会中の継続審査又は調査の申し出について

- 議長（平本佳司君） 日程第21、委員会の閉会中の継続審査又は調査の申し出についてを議題とします。

各常任委員会委員長及び議会運営委員会委員長及び議会報編集特別委員会委員長から、タブレット端末の格納した申出のとおり、閉会中の継続審査または調査の申出があります。

お諮りします。各委員長から申出のとおり、閉会中の継続審査または調査にご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（平本佳司君） 異議なしと認めます。

よって、各委員長から申出のとおり、閉会中の継続審査及び調査をすることと決定しました。

以上で、今期定例会に付された事件は全て終了しました。

◎副町長挨拶

○議長（平本佳司君） ここで、佐藤副町長から発言を求められておりますので、これを許可します。

副町長。

○副町長（佐藤良樹君） 今期定例会が閉会されるに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

議員各位におかれましては、去る12月6日の本定例会開会以来、慎重かつ熱心にご審議を賜り、ご提案申しあげました全ての議案についてご承認いただきましたことを、厚く御礼を申し上げます。

議案第75号の室原地区防災拠点新築工事であります。東日本大震災の教訓を踏まえました象徴的な施設でございます。今後、災害に強いまちづくりを実現するに当たり、既に整備をしております各地区の防災コミュニティセンターも活用し、町民の皆様との避難訓練など、有事の備えを万全にしていまいります。

審議の過程でいただきました貴重なご意見、ご提言につきましては、今後の町政執行に十分生かしてまいりたいと考えております。

また、このたび一般質問では、今後のまちづくりにおける重要課題について、提案を含め、ご質問をいただきました。

いずれのご質問も大変重要なものであり、町として真摯に受け止め、今後の町政執行に生かしてまいりたいと考えております。

追加提案させていただきました監査委員及び副町長の同意案件につきましても、ご承認を賜り、誠にありがとうございました。

監査委員となる宮口氏には、その豊かな行政経験から行政運営全般をご確認いただければ幸いに存じます。

副町長となる山本氏は、浪江町職員としてご奉職をいただき、避難指示の一部解除がなされた難しい局面で、総務課長という重責を果たしていただきました。これまでの十分な経験を生かし、今もな

お課題が山積する当町の復興のために、その手腕を発揮していただきたいと考えております。

結びになりますが、師走を迎え、寒さも厳しくなっただけでありません。健康に十分ご留意をいただき、新年を迎えられますことをご祈念申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

◎閉会の宣告

○議長（平本佳司君） 以上をもって、本日の会議を閉じます。

これをもって、令和4年浪江町議会12月定例会を閉会いたします。
お疲れさまでした。

（午前 9時42分）

上記会議の顛末を記載し、相違のないことを証するためここに署名する。

令和 年 月 日

浪江町議会議長 平 本 佳 司

署名議員 武 藤 晴 男

署名議員 紺 野 豊

署名議員 吉 田 邦 弘